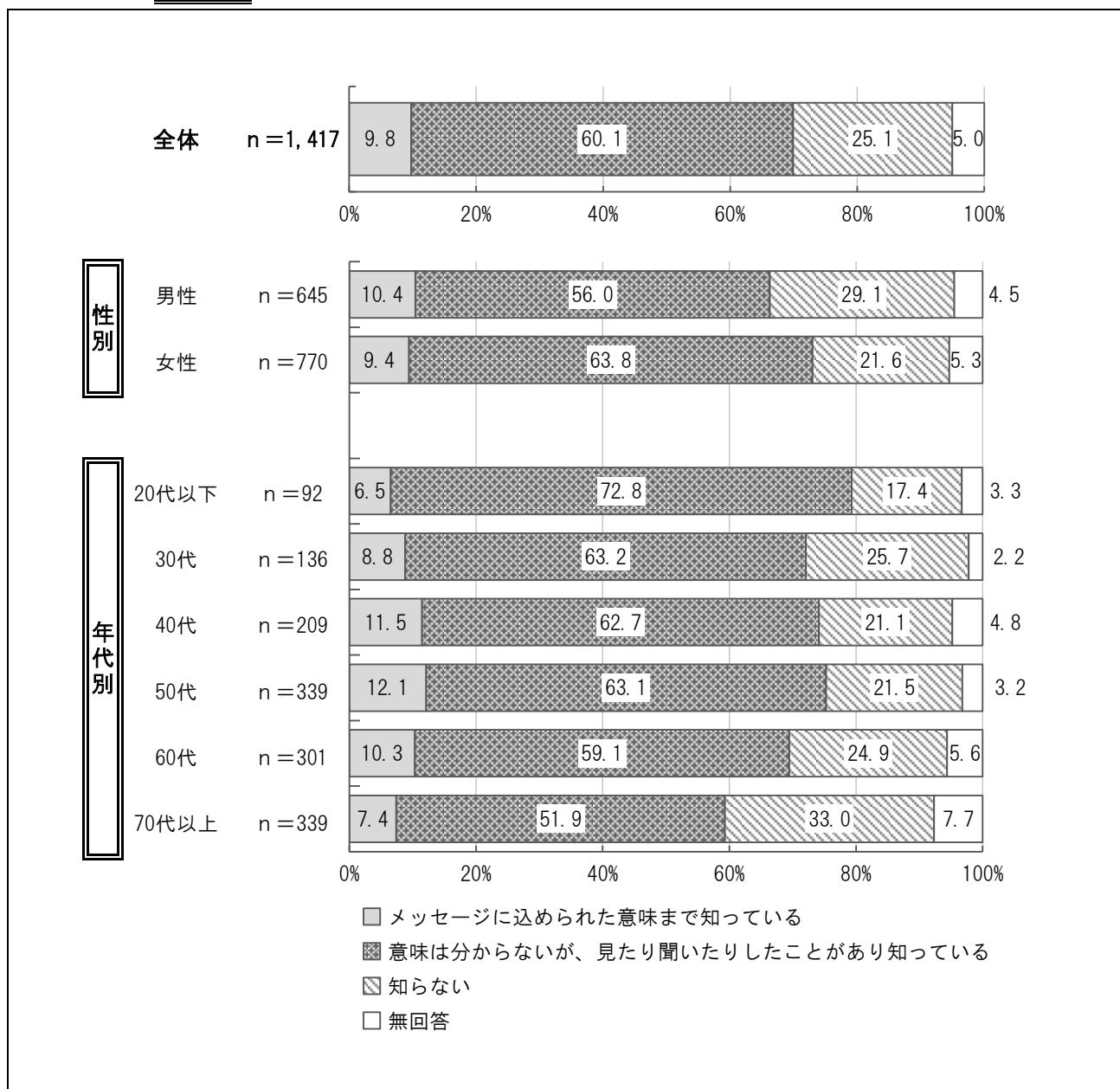


(1) ブランドメッセージの認知度

問1 富士市ブランドメッセージ「いただきへの、はじまり 富士市」を知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。



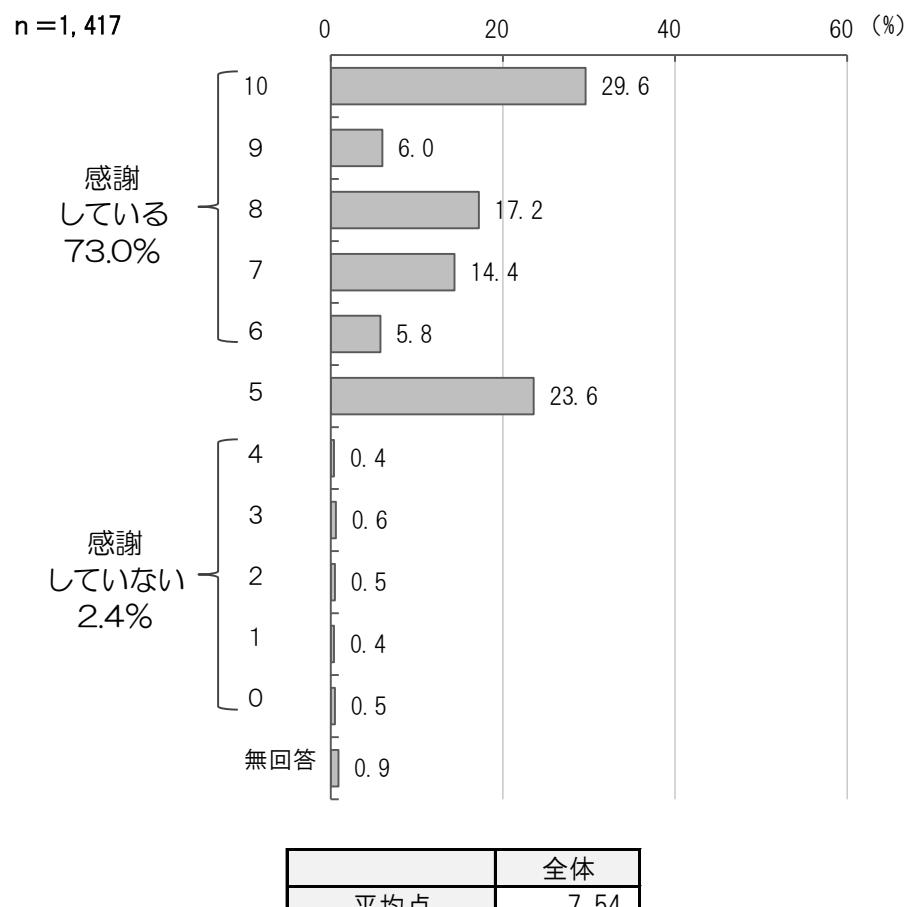
富士市ブランドメッセージの認知度は、「知らない」が 25.1%となっていて、「メッセージに込められた意味まで知っている」「意味は分からぬが、見たり聞いたりしたことがあり知っている」を合わせると、69.9%が『知っている』となっている。

性別で見ると、男性において「知らない」が 29.1%と女性より多くなっている。

年代別では、20代以下において「意味は分からぬが、見たり聞いたりしたことがあり知っている」が 72.8%とほかの年代と比べて多くなっている。また、「知らない」は 70代以上が 33.0%と最も多く、次いで、30代が 25.7%、60代が 24.9%となっている。

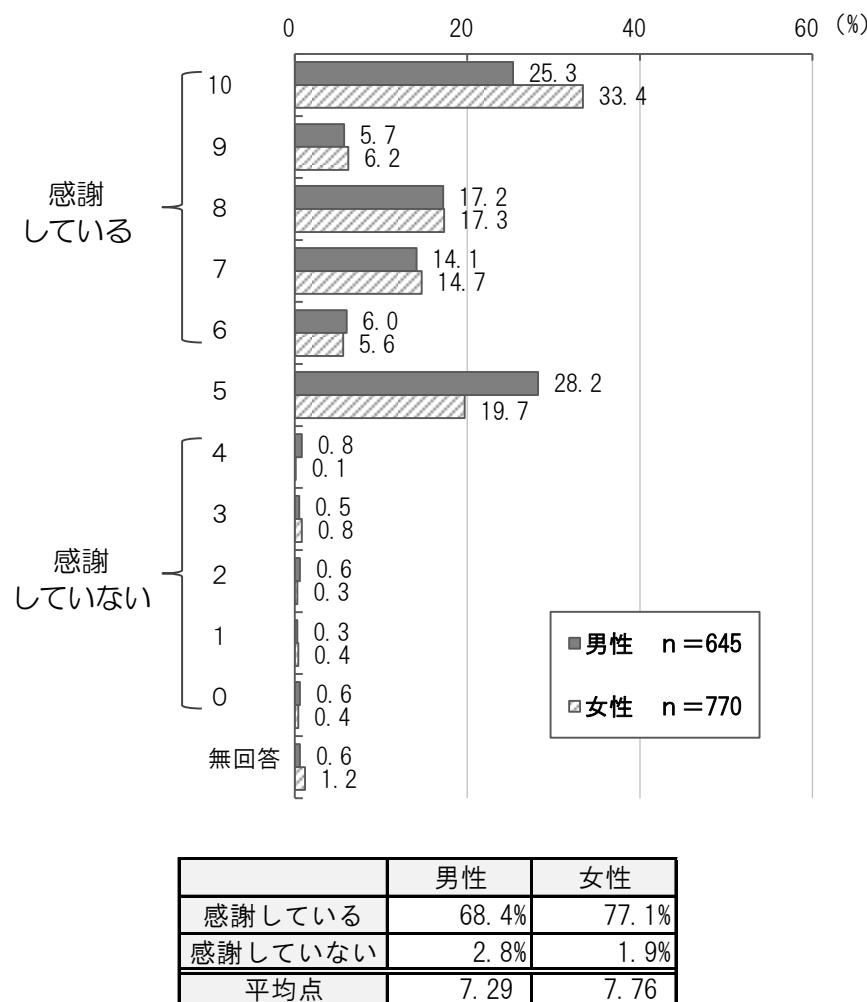
(2) 地域のために活動している人への感謝度 (10点評価)

問2 あなたは、地域（まち）のために活動している人に対し、どの程度の気持ちで感謝していますか。次の気持ちを表した数字（10から0まで）から1つだけ選んで○をつけてください。



地域のために活動している人への感謝度は、「10」が 29.6% と最も多く、次いで「5」が 23.6%、「8」が 17.2% となっている。また、『感謝している』（「10」～「6」の合計）は 73.0%、『感謝していない』（「4」～「0」の合計）は 2.4% で、平均点は 7.54 となっている。

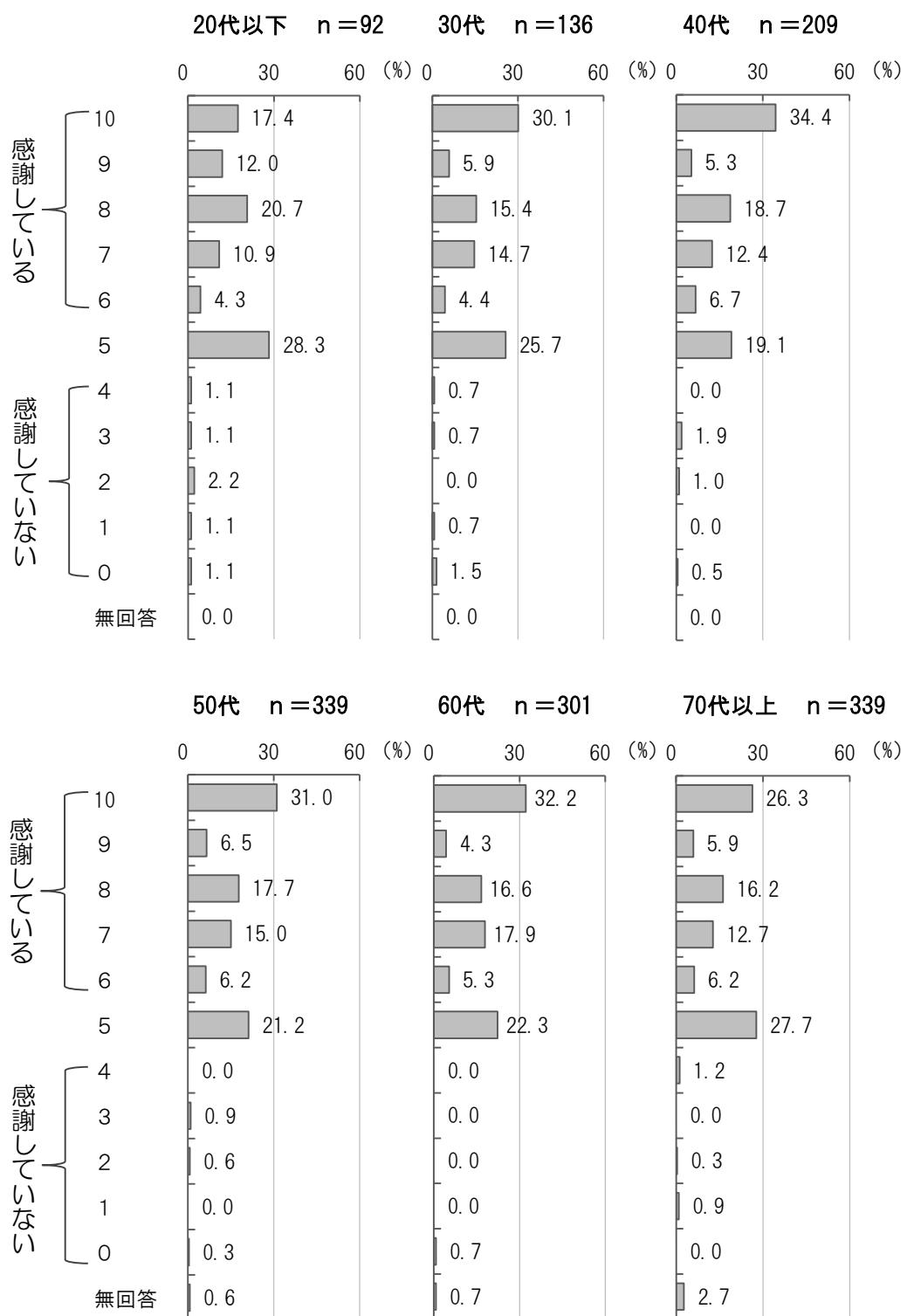
<性別>



性別で見ると、男性においては「5」が 28.2%と女性より多くなっている。女性においては「10」が 33.4%と男性より多くなっている。また、『感謝している』は女性において 77.1%と男性の 68.4%と比べて多くなっている。

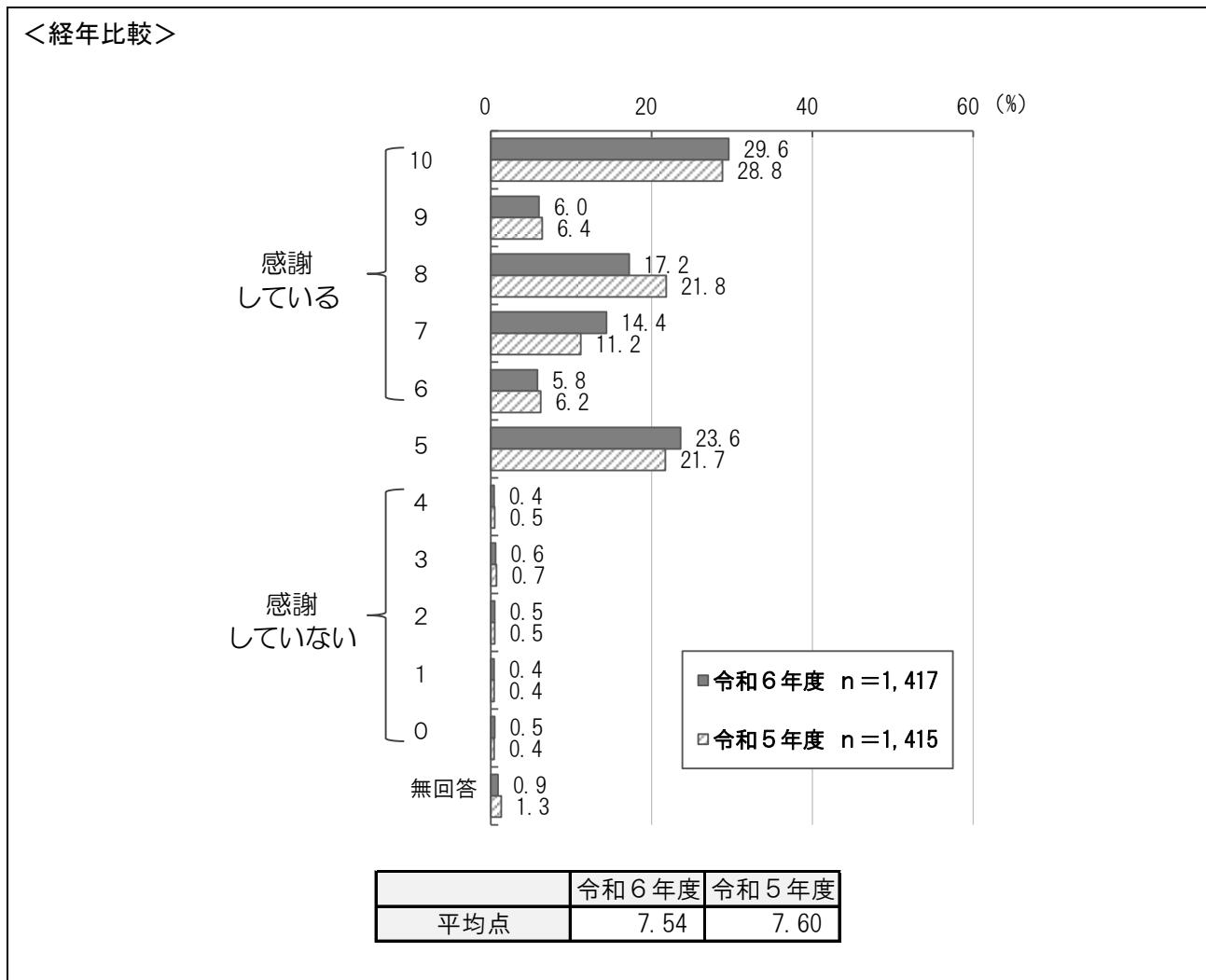
平均点は、男性において 7.29、女性においては 7.76 となっている。

<年代別>



| | 20代以下 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代以上 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 感謝している | 65.2% | 70.6% | 77.5% | 76.4% | 76.4% | 67.3% |
| 感謝していない | 6.5% | 3.7% | 3.3% | 1.8% | 0.7% | 2.4% |
| 平均点 | 7.03 | 7.42 | 7.72 | 7.67 | 7.68 | 7.36 |

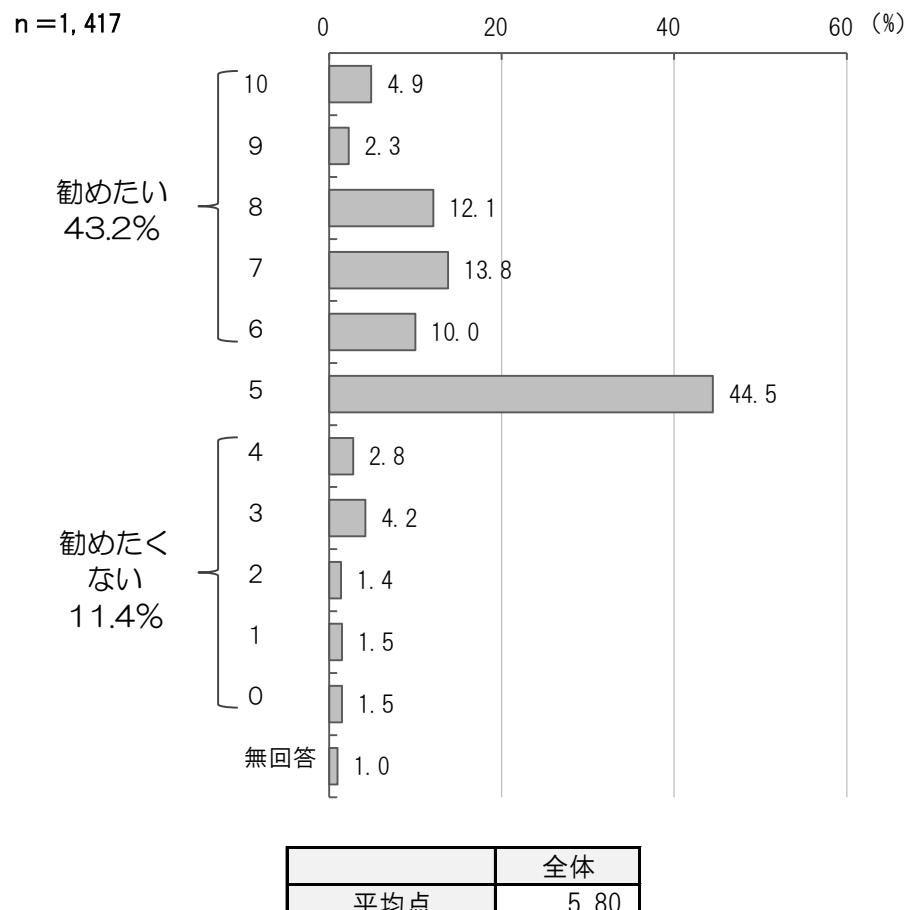
年代別では、20代以下において「5」が最も多く28.3%で、ほかの年代に比べて「10」が17.4%と少なく、「9」が12.0%とほかの年代と比べて多くなっている。また、30代から60代において「5」より「10」が多くなっている。平均点は、40代において7.72と最も高くなっている。



令和5年度の調査結果と比較すると、大きな変化は見られないが、平均点はやや低くなっている。

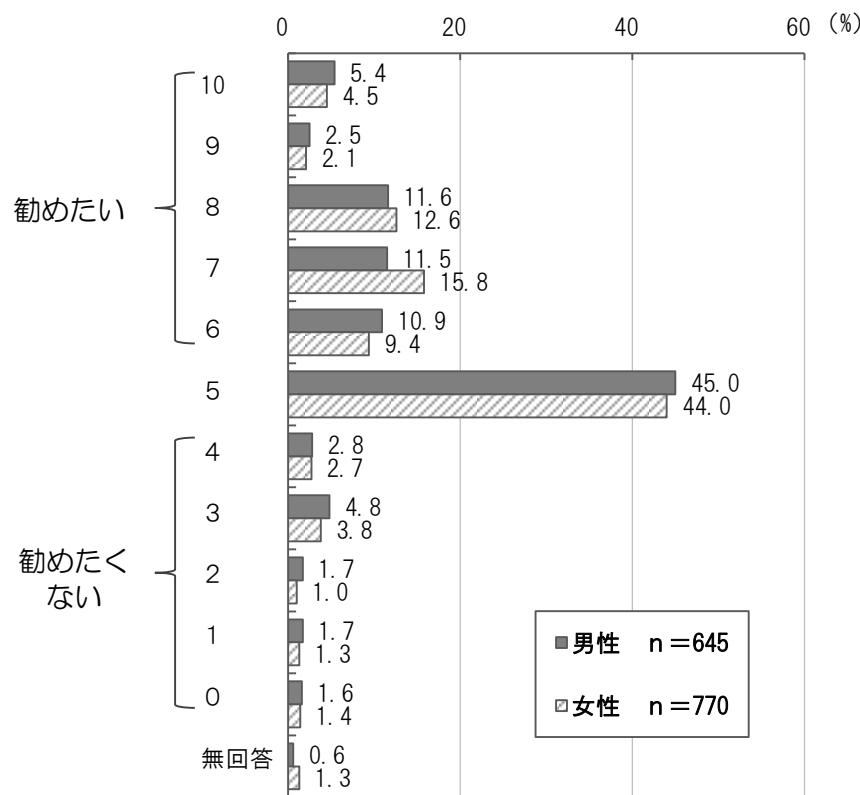
(3) 地域の魅力の推奨度 (10点評価)

問3 あなたは、地域（まち）の魅力を、どの程度の気持ちで友人にお勧めしたいと思いますか。
次の気持ちを表した数字（10から0まで）から1つだけ選んで○をつけてください。



地域の魅力の推奨度は、「5」が44.5%と最も多く、次いで「7」が13.8%、「8」が12.1%となっている。また、『お勧めしたい』（「10」～「6」の合計）は43.2%、『お勧めたくない』（「4」～「0」の合計）は11.4%で、平均点は5.80となっている。

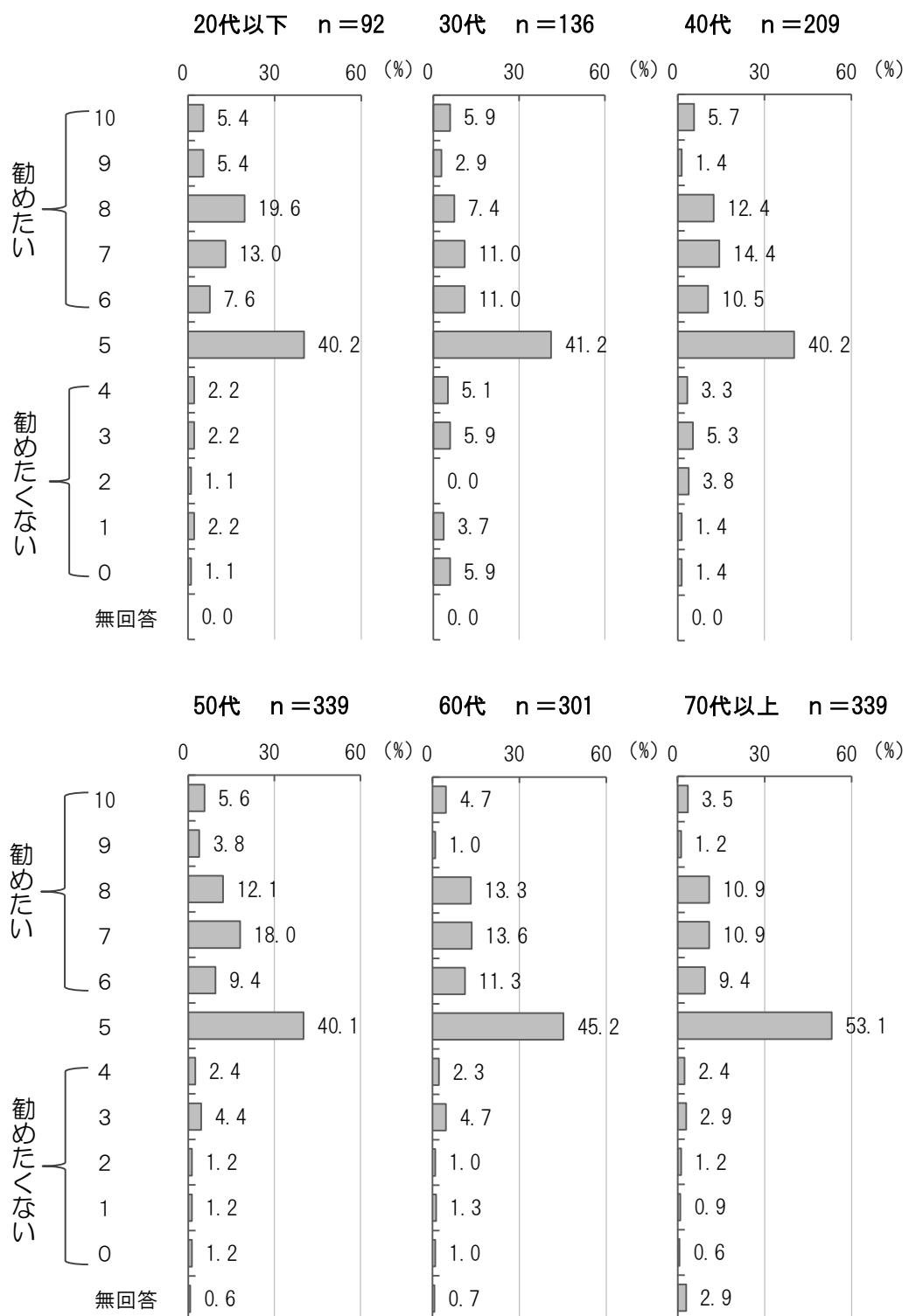
<性別>



| | 男性 | 女性 |
|--------|-------|-------|
| 勧めたい | 41.9% | 44.4% |
| 勧めたくない | 12.6% | 10.3% |
| 平均点 | 5.74 | 5.85 |

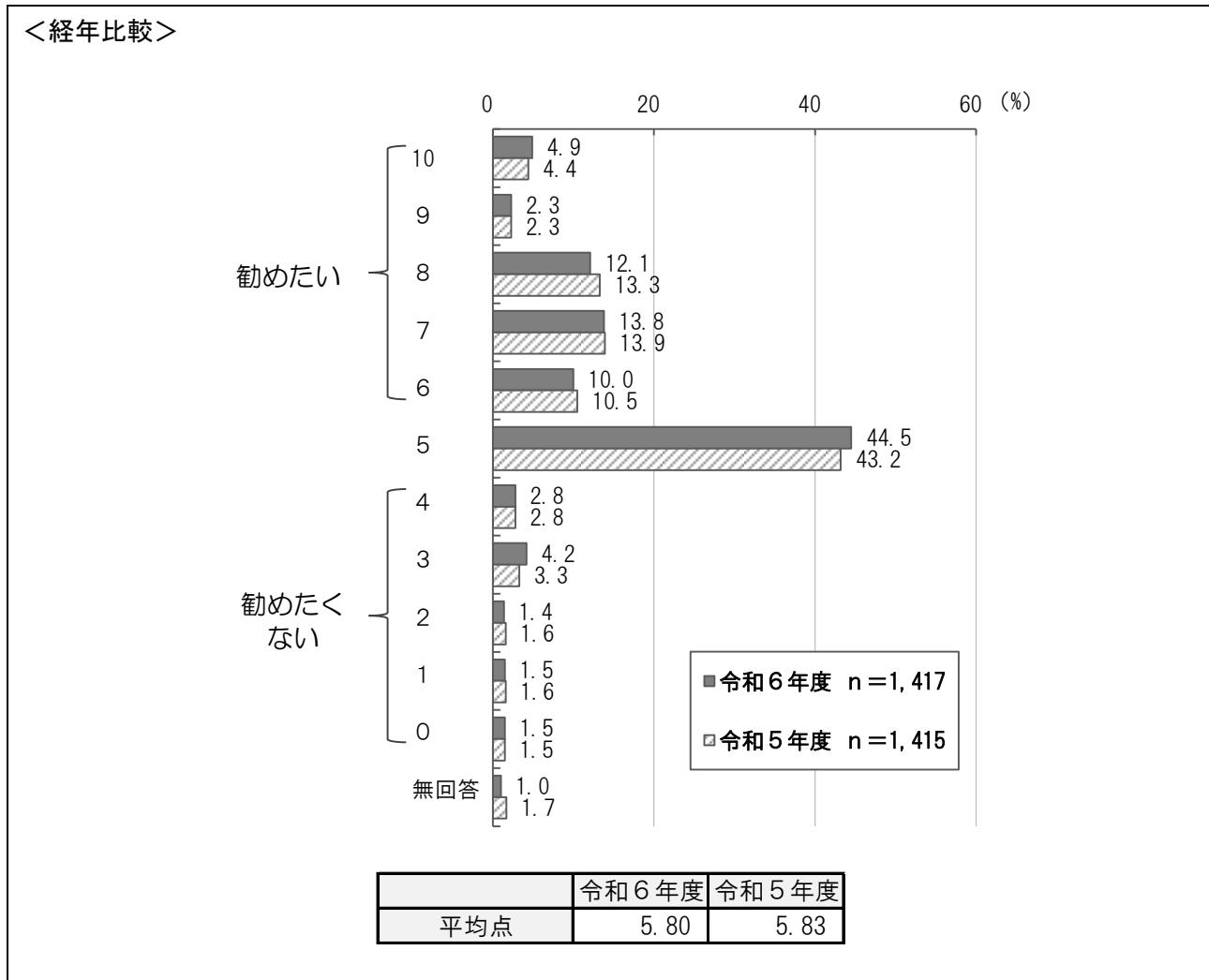
性別で見ると、大きな差異は見られない。平均点は、男性において 5.74、女性においては 5.85 となっている。

<年代別>



| | 20代以下 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代以上 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 勧めたい | 51.1% | 38.2% | 44.5% | 49.0% | 43.9% | 36.0% |
| 勧めたくない | 8.7% | 20.6% | 15.3% | 10.3% | 10.3% | 8.0% |
| 平均点 | 6.17 | 5.35 | 5.73 | 6.00 | 5.81 | 5.70 |

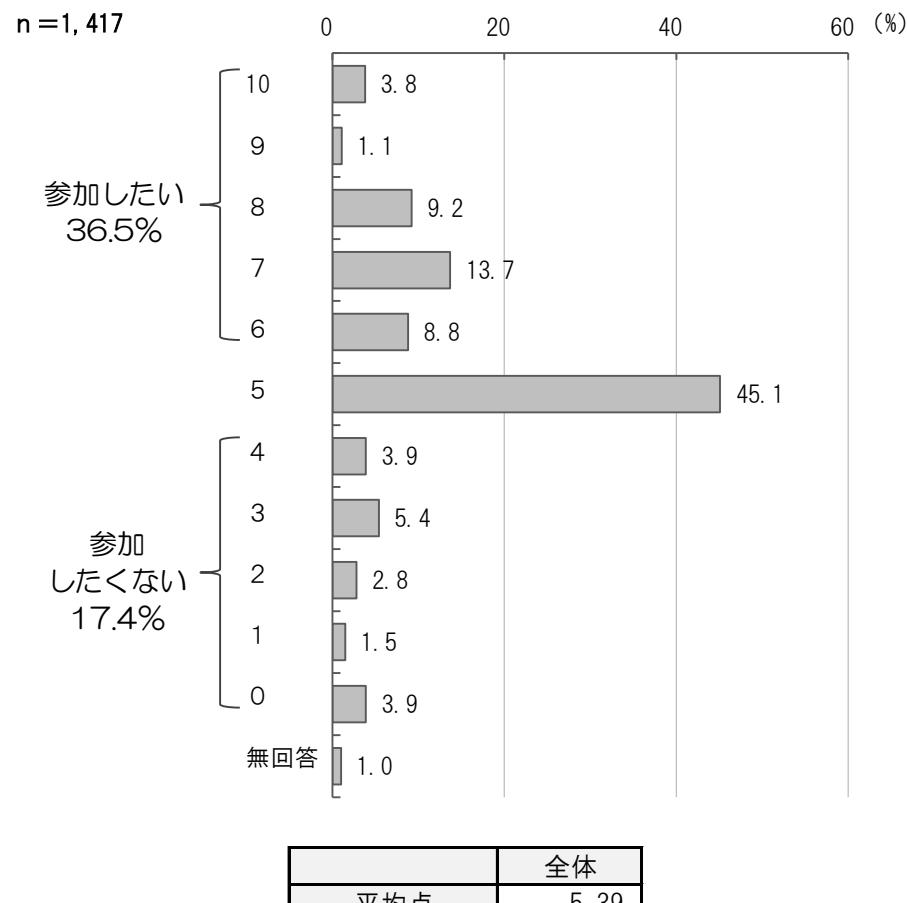
年代別では、どの年代においても「5」が多く、70代以上においては53.1%と最も多くなっている。また、『勧めたくない』は30代において20.6%と最も多く、平均点は最も低くなっている。平均点は、20代以下において6.17と最も高くなっている。



令和5年度の調査結果と比較すると、大きな変化は見られないが、平均点はやや低くなっている。

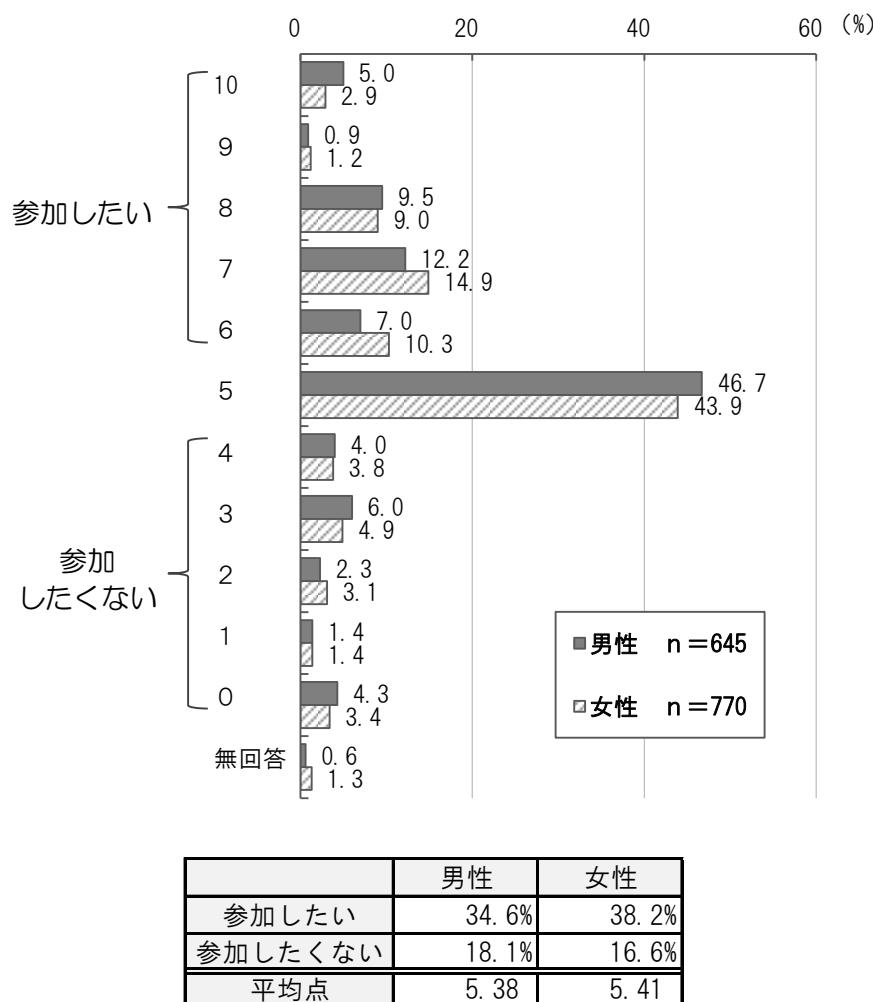
(4) 地域活動の参加意向 (10点評価)

問4 あなたは、地域（まち）をよくする活動に、どの程度の気持ちで参加したいと思いますか。
次の気持ちを表した数字（10から0まで）から1つだけ選んで○をつけてください。



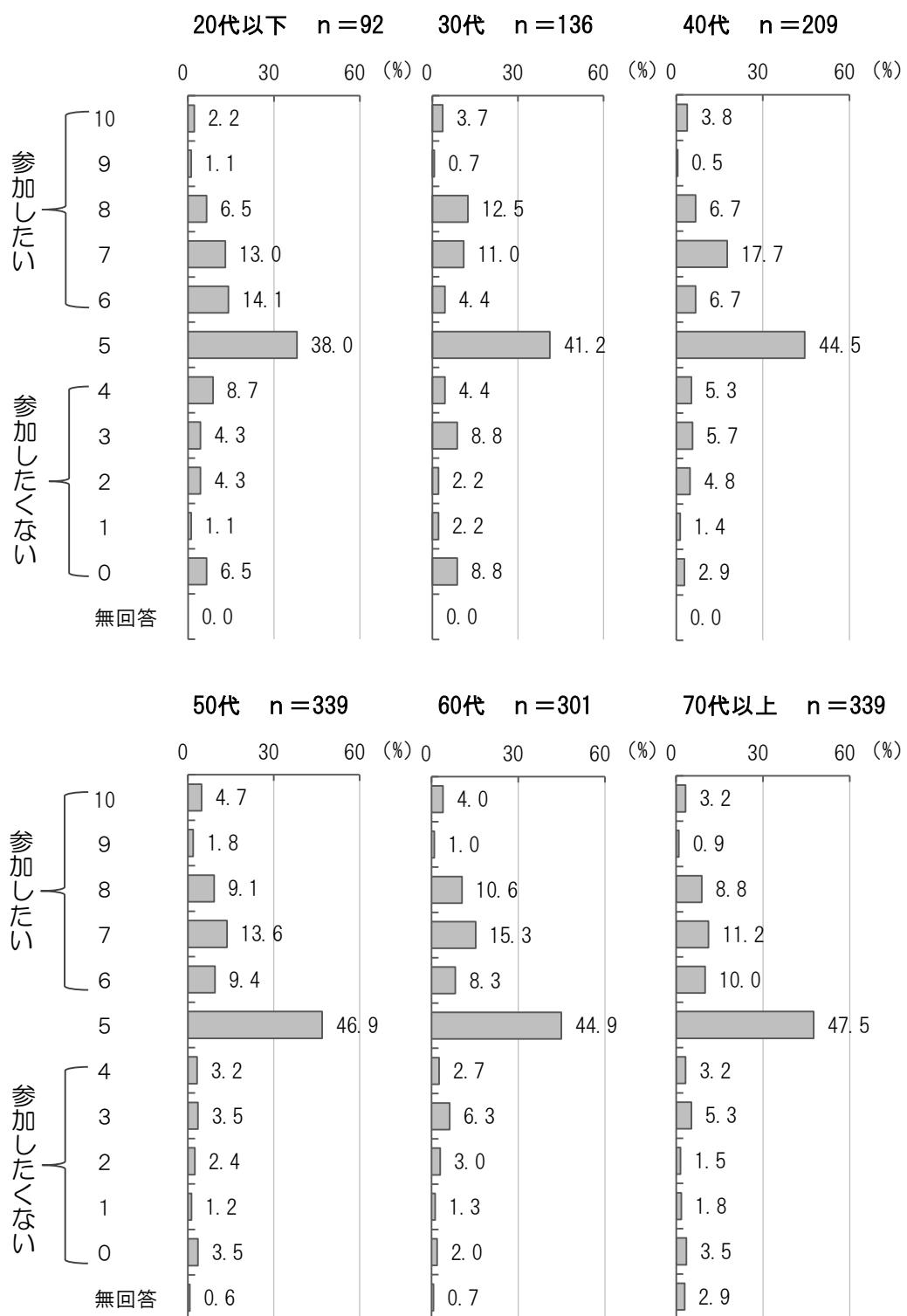
地域活動の参加意向は、「5」が45.1%と最も多く、次いで「7」が13.7%、「8」が9.2%となっている。また、『参加したい』（「10」～「6」の合計）は36.5%、『参加したくない』（「4」～「0」の合計）は17.4%で、平均点は5.39となっている。

<性別>



性別で見ると、大きな差異は見られない。平均点は、男性において 5.38、女性においては 5.41 となっている。

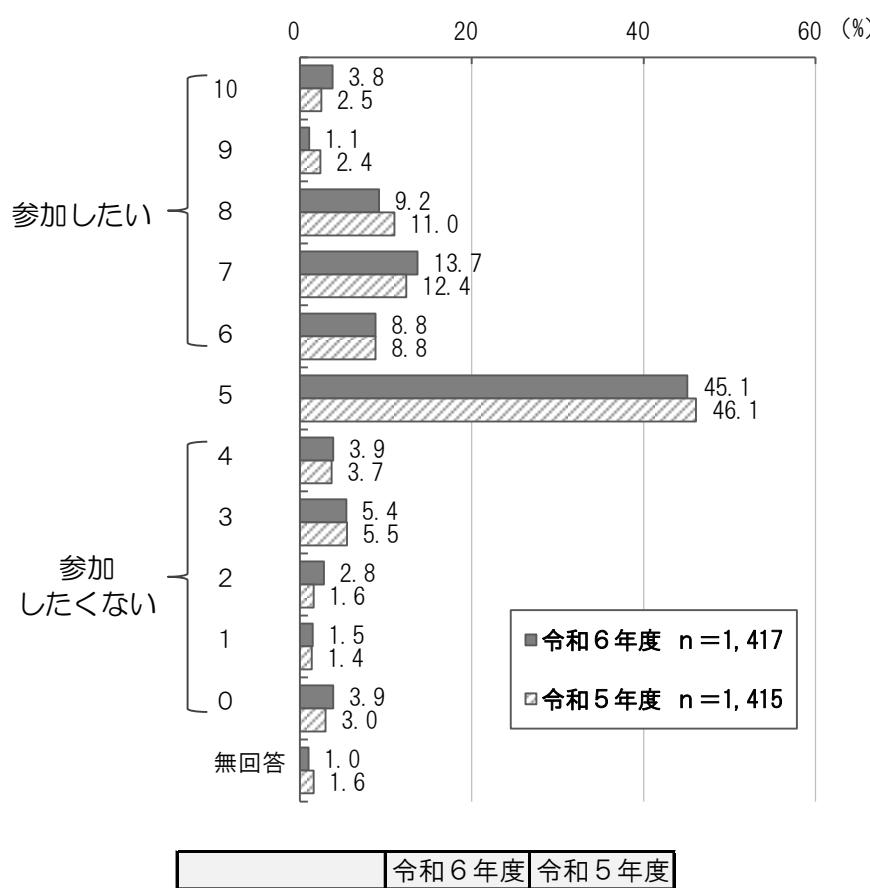
<年代別>



| | 20代以下 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代以上 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 参加したい | 37.0% | 32.4% | 35.4% | 38.6% | 39.2% | 34.2% |
| 参加したくない | 25.0% | 26.5% | 20.1% | 13.9% | 15.3% | 15.3% |
| 平均点 | 5.08 | 5.04 | 5.32 | 5.55 | 5.56 | 5.37 |

年代別では、『参加したくない』は、20代以下と30代で25%程度と、ほかの年代と比べて多くなっている。平均点は、60代において5.56と最も高くなっている。

<経年比較>



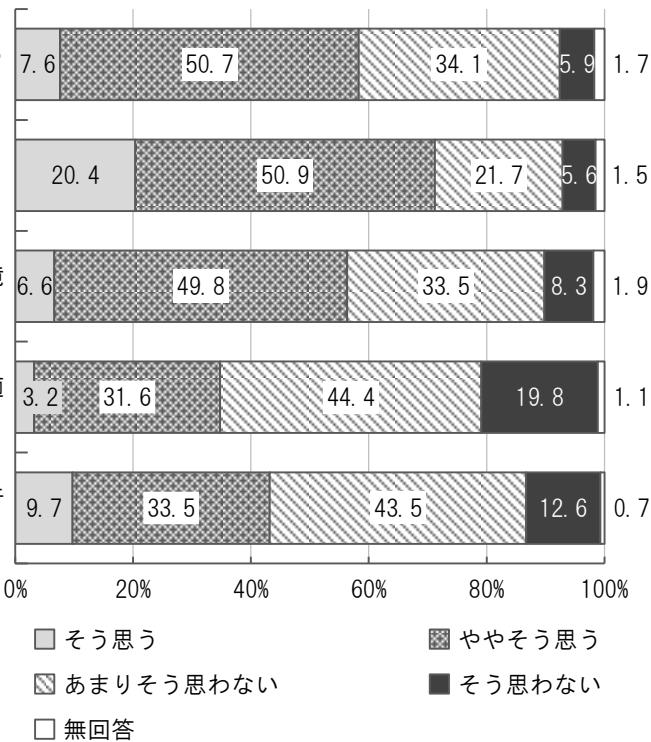
令和5年度の調査結果と比較すると、大きな変化は見られないが、平均点はやや低くなっている。

(5) 「富士市デジタル田園都市総合戦略」各戦略の満足度

問5 次の各項目の満足度について、あなたの気持ちに近いものを1つずつ選んで○をつけてください。

n=1,417

- 1 富士市は、地震や風水害などの災害に対する危機管理体制が充実していると思いますか。
- 2 あなた自身、またはあなたの家族は、仕事と生活の調和が取れていると思いますか。
- 3 富士市は、安心して子どもを生み育てる環境が充実していると思いますか。
- 4 富士市は、まちなかが整備され、便利で快適な都市づくりができていると思いますか。
- 5 富士市内には、知人を案内し自慢したい場所があると思いますか。

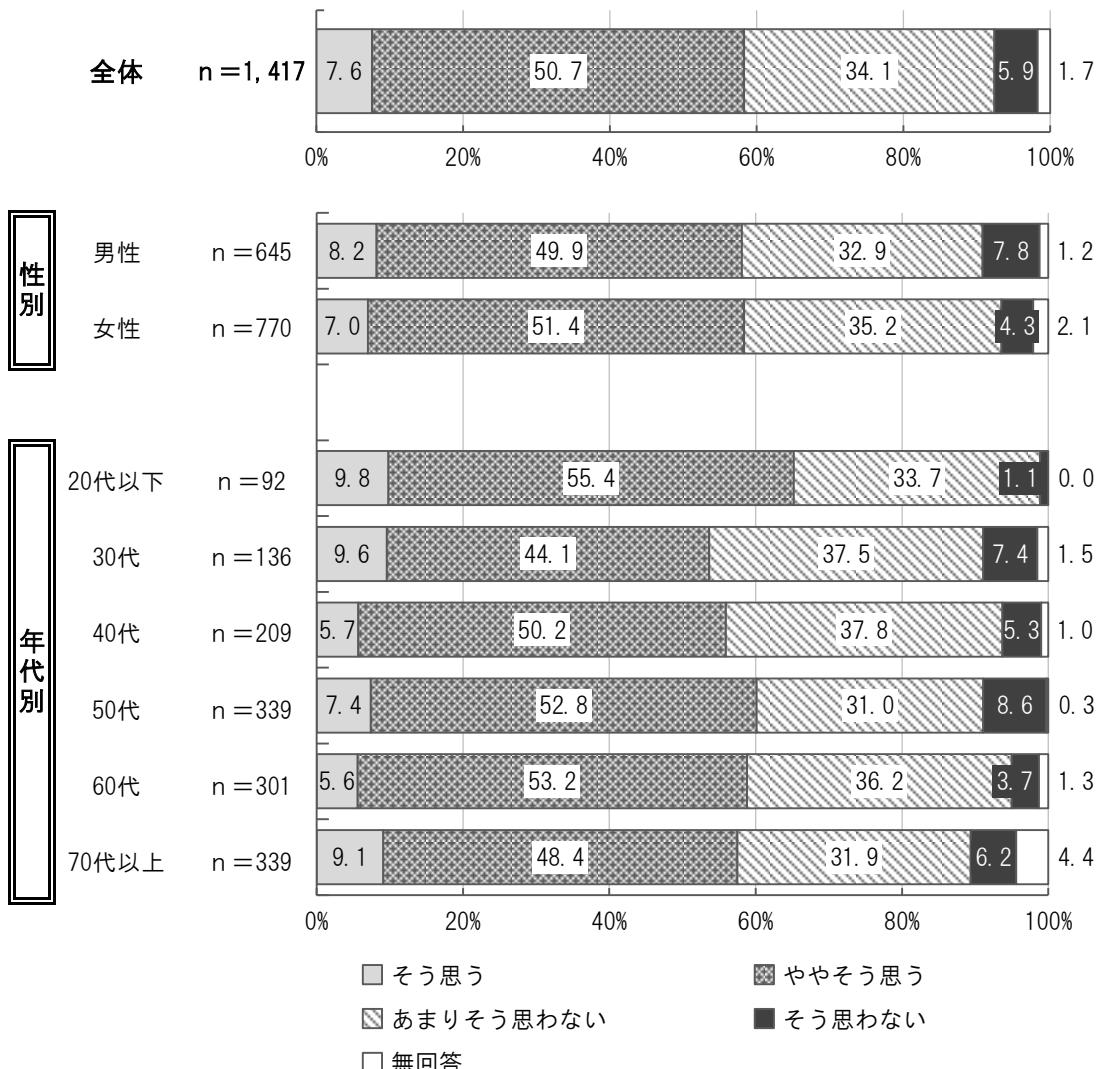


「富士市デジタル田園都市総合戦略」各戦略の満足度において、『そう思う』（「そう思う」 + 「ややそう思う」）が多い項目は、「2 あなた自身、またはあなたの家族は、仕事と生活の調和が取れていると思いますか。」(71.3%)、「1 富士市は、地震や風水害などの災害に対する危機管理体制が充実していると思いますか。」(58.4%)、「3 富士市は、安心して子どもを生み育てる環境が充実していると思いますか。」(56.3%) の順になっている。

一方、『そう思わない』（「あまりそう思わない」 + 「そう思わない」）が多い項目は、「4 富士市は、まちなかが整備され、便利で快適な都市づくりができていると思いますか。」(64.1%)、「5 富士市内には、知人を案内し自慢したい場所があると思いますか。」(56.0%) の順になっている。

※次ページ以降は、『そう思う』は「そう思う」と「ややそう思う」、『そう思わない』は「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせたもの。

1 富士市は、地震や風水害などの災害に対する危機管理体制が充実していると思いますか。

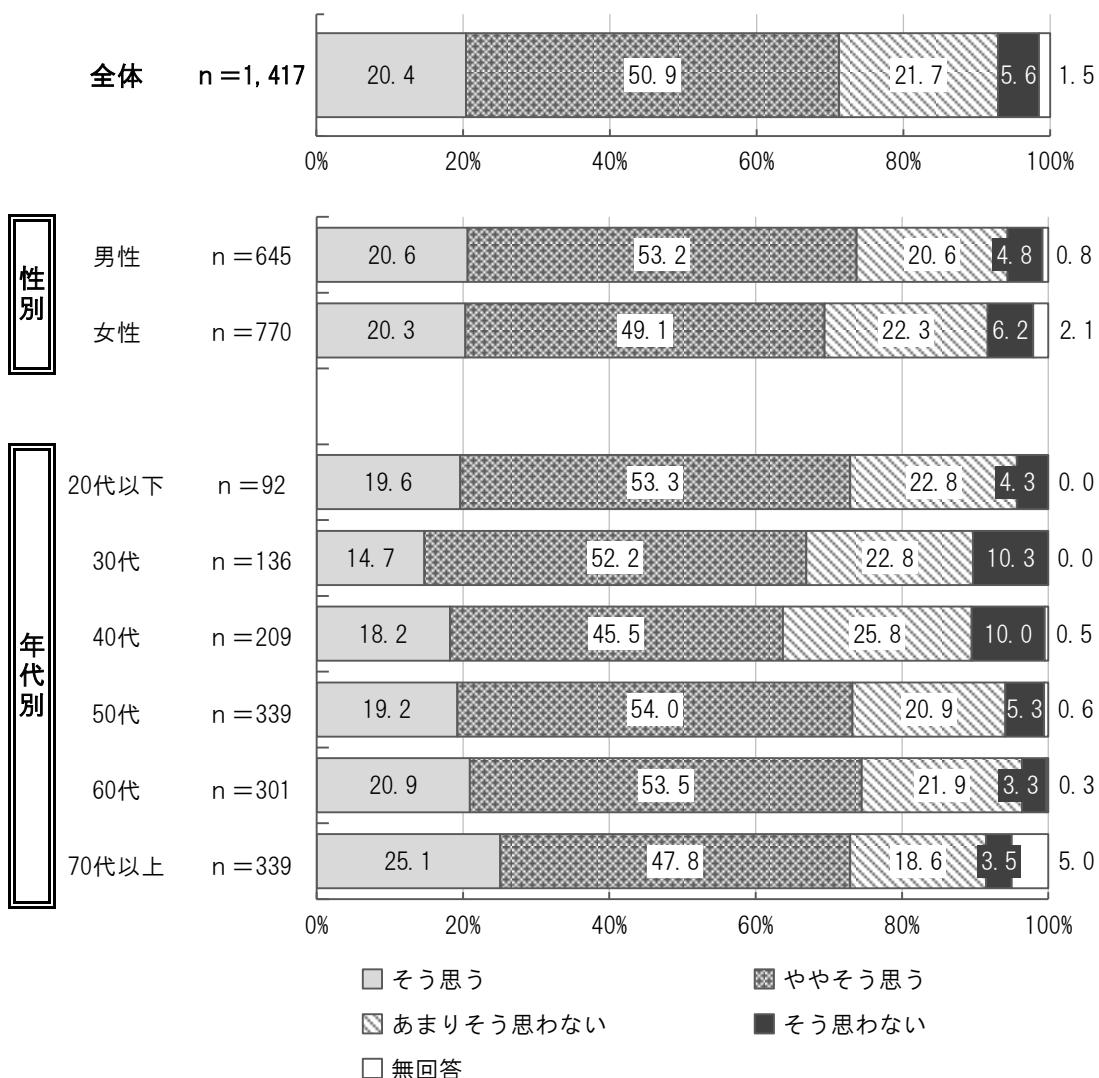


「富士市は、地震や風水害などの災害に対する危機管理体制が充実していると思いますか」という問い合わせについては、『そう思う』が 58.4%、『そう思わない』が 39.9% となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、『そう思う』は 20 代以下において 65.2%、『そう思わない』は 30 代において 44.9% と、ほかの年代と比べて多くなっている。

2 あなた自身、またはあなたの家族は、仕事と生活の調和が取れていると思いますか。

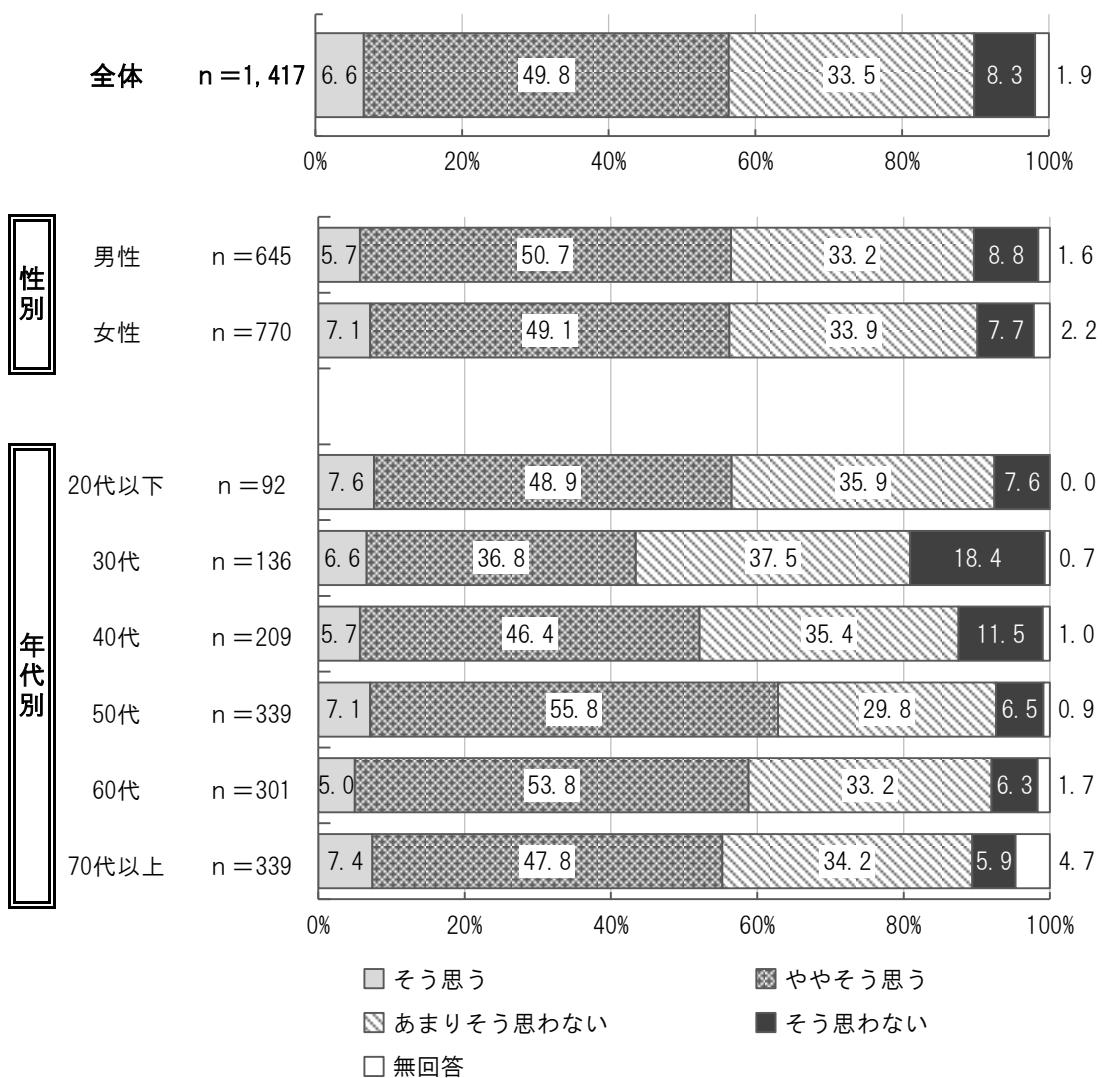


「あなた自身、またはあなたの家族は、仕事と生活の調和が取れていると思いますか」という問い合わせについては、『そう思う』が 71.3%、『そう思わない』が 27.2% となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、30代以上の年代は年代が上がるごとに『そう思う』が多くなっている。『そう思う』は60代が74.4%、『そう思わない』は40代で35.9%とほかの年代と比べて多くなっている。

3 富士市は、安心して子どもを生み育てる環境が充実していると思いますか。

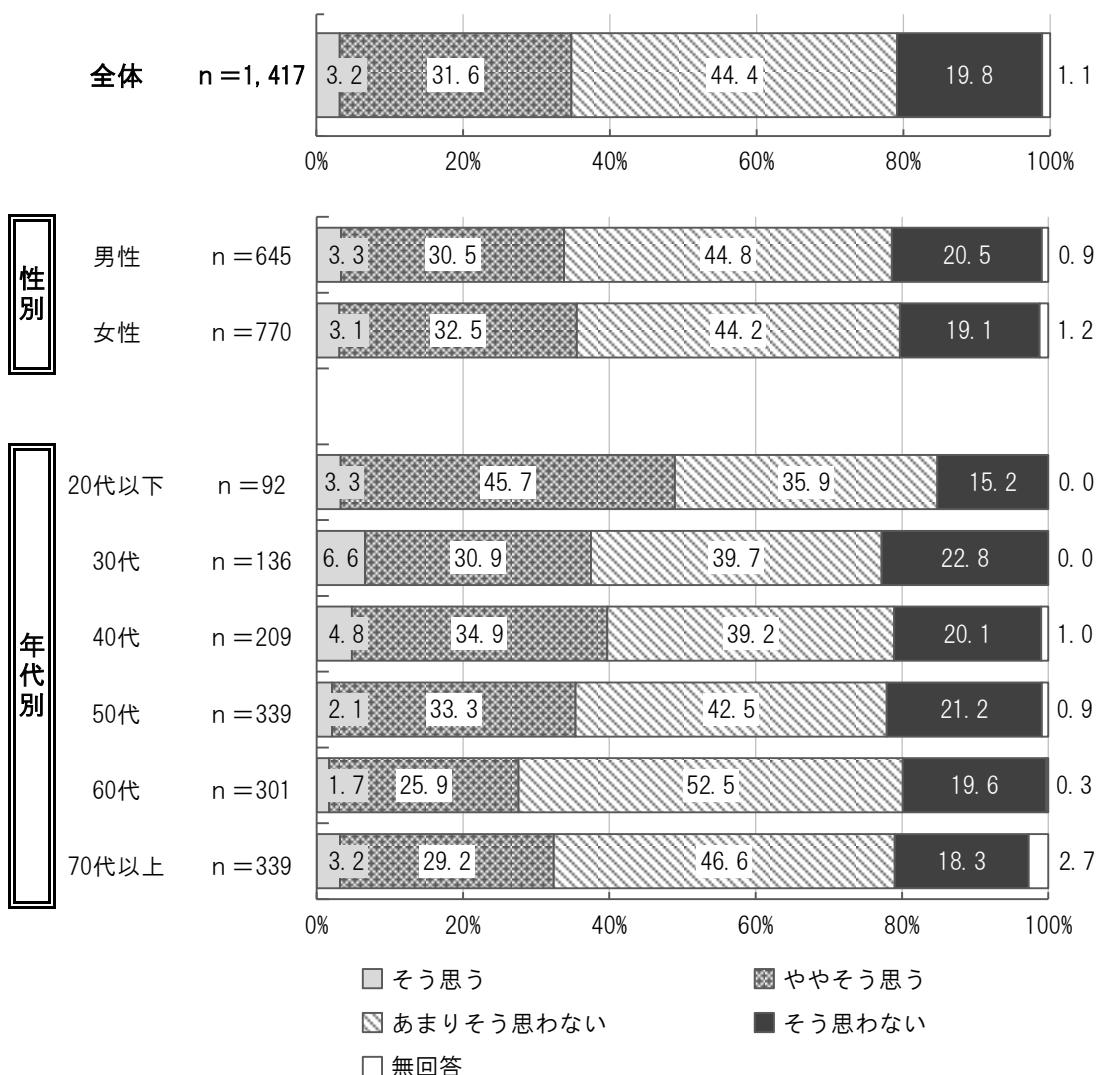


「富士市は、安心して子どもを生み育てる環境が充実していると思いますか」という問い合わせについては、『そう思う』が 56.3%、『そう思わない』が 41.8% となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、『そう思う』が 50 代において 62.8% とほかの年代と比べて多く、30 代においては 43.4% とほかの年代と比べて少なく、半数に満たない。

4 富士市は、まちなかが整備され、便利で快適な都市づくりができると思いますか。

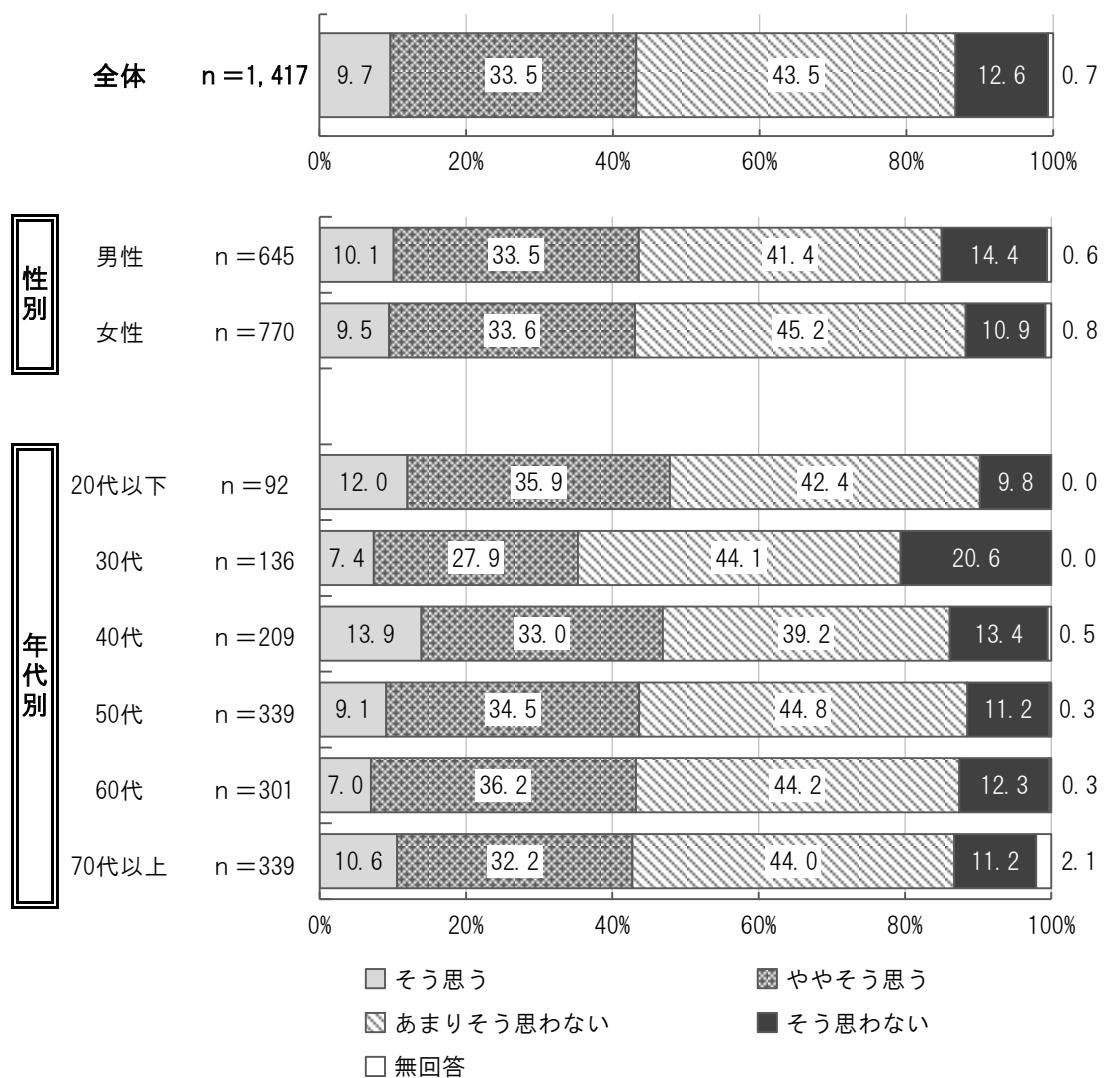


「富士市は、まちなかが整備され、便利で快適な都市づくりができると思いますか」という問い合わせについては、『そう思う』が34.8%、『そう思わない』が64.1%となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、20代以下において『そう思う』が48.9%とほかの年代と比べて多くなっている。60代においては『そう思わない』が72.1%と多くなっている。

5 富士市内には、知人を案内し自慢したい場所があると思いますか。



「富士市内には、知人を案内し自慢したい場所があると思いますか」という問い合わせについては、『そう思う』が43.3%、『そう思わない』が56.0%となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、『そう思う』は30代において35.3%とほかの年代と比べて少なく、4割に満たない。

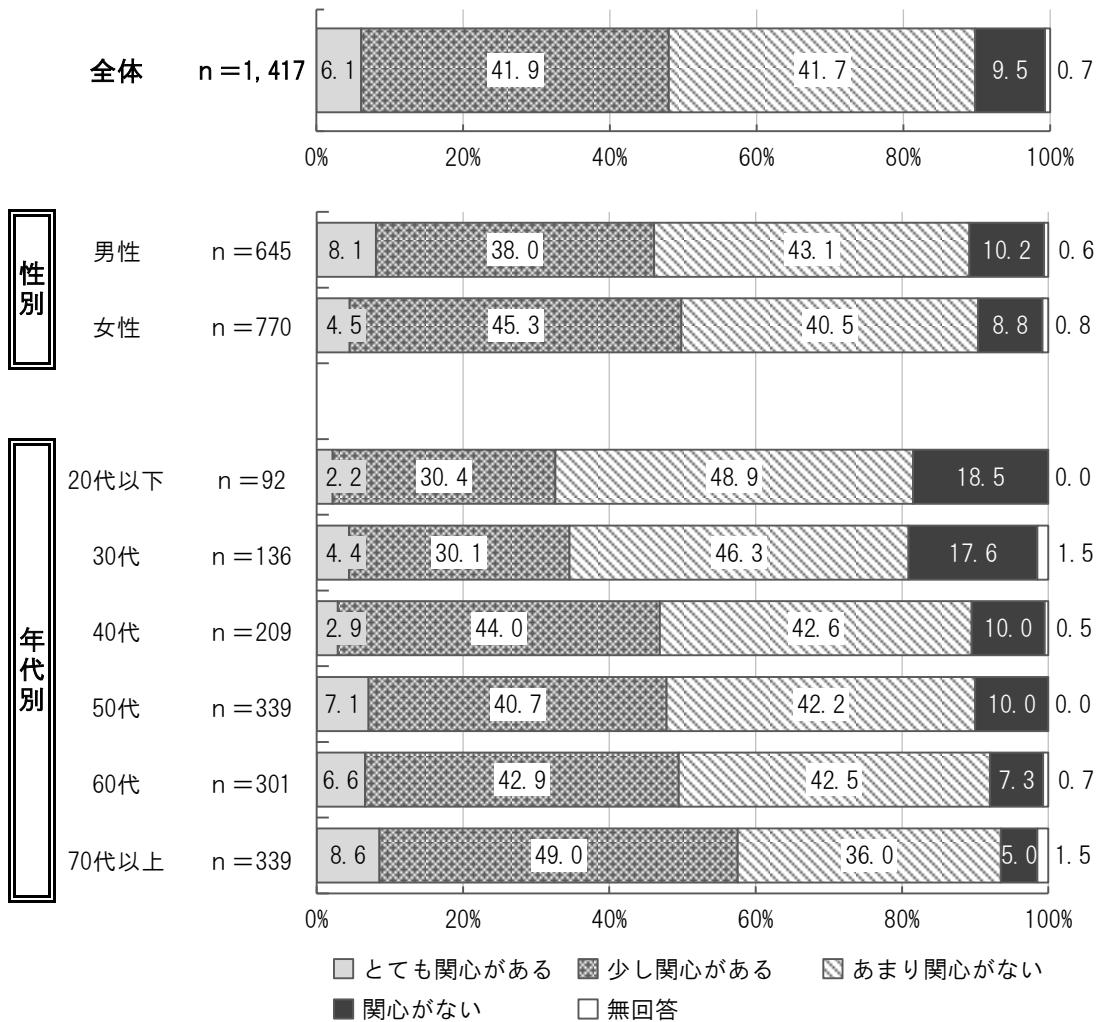
■ 「市民活動」について

市民活動について

(1) 市民活動への関心度

問6 あなたは、地域活動やボランティア活動などの市民活動にどの程度関心がありますか。

次の中から当てはまるものを1つだけ選んでください。

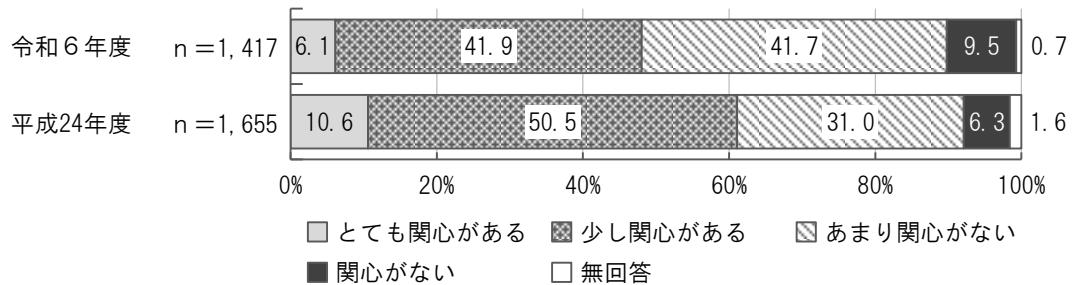


市民活動への関心度は、『関心がある』（「とても関心がある」 + 「少し関心がある」）が 48.1%、『関心がない』（「あまり関心がない」 + 「関心がない」）が 51.2% となっている。

性別で見ると、『関心がある』が女性において 49.9% と男性の 46.0% より多くなっているが、「とても関心がある」は男性のほうが多くなっている。

年代別では、70 代以上において「少し関心がある」が 49.0% とほかの年代と比べて多くなっている。また、『関心がある』は年代が上がるごとに多くなり、70 代以上においては 57.5% と最も多くなっている。

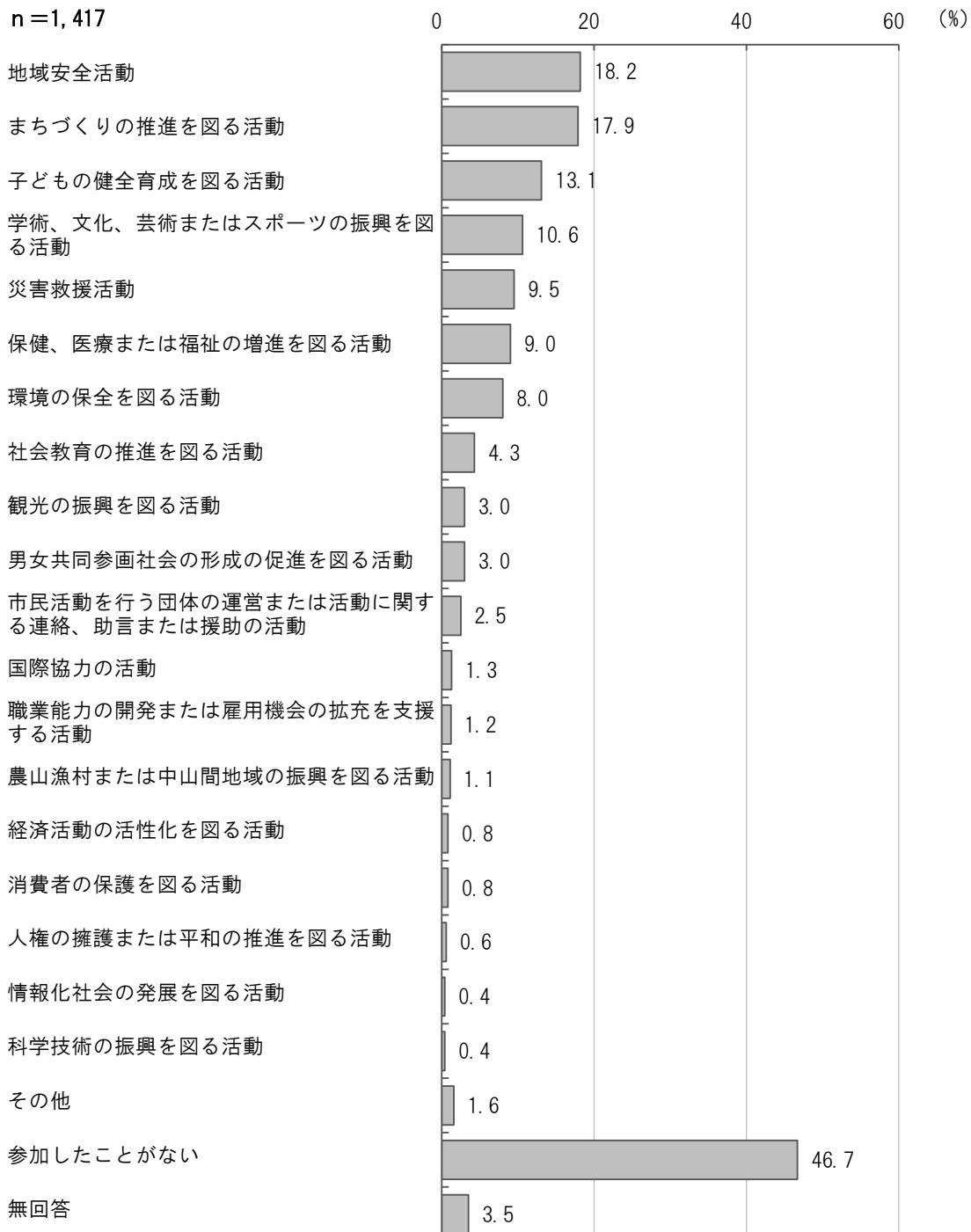
<経年比較>



平成 24 年度の調査結果と比較すると、「あまり関心がない」が 10.7 ポイント増加し、「少し関心がある」が 8.6 ポイント減少している。また『関心がある』は 48.1% と、13.0 ポイント減少している。

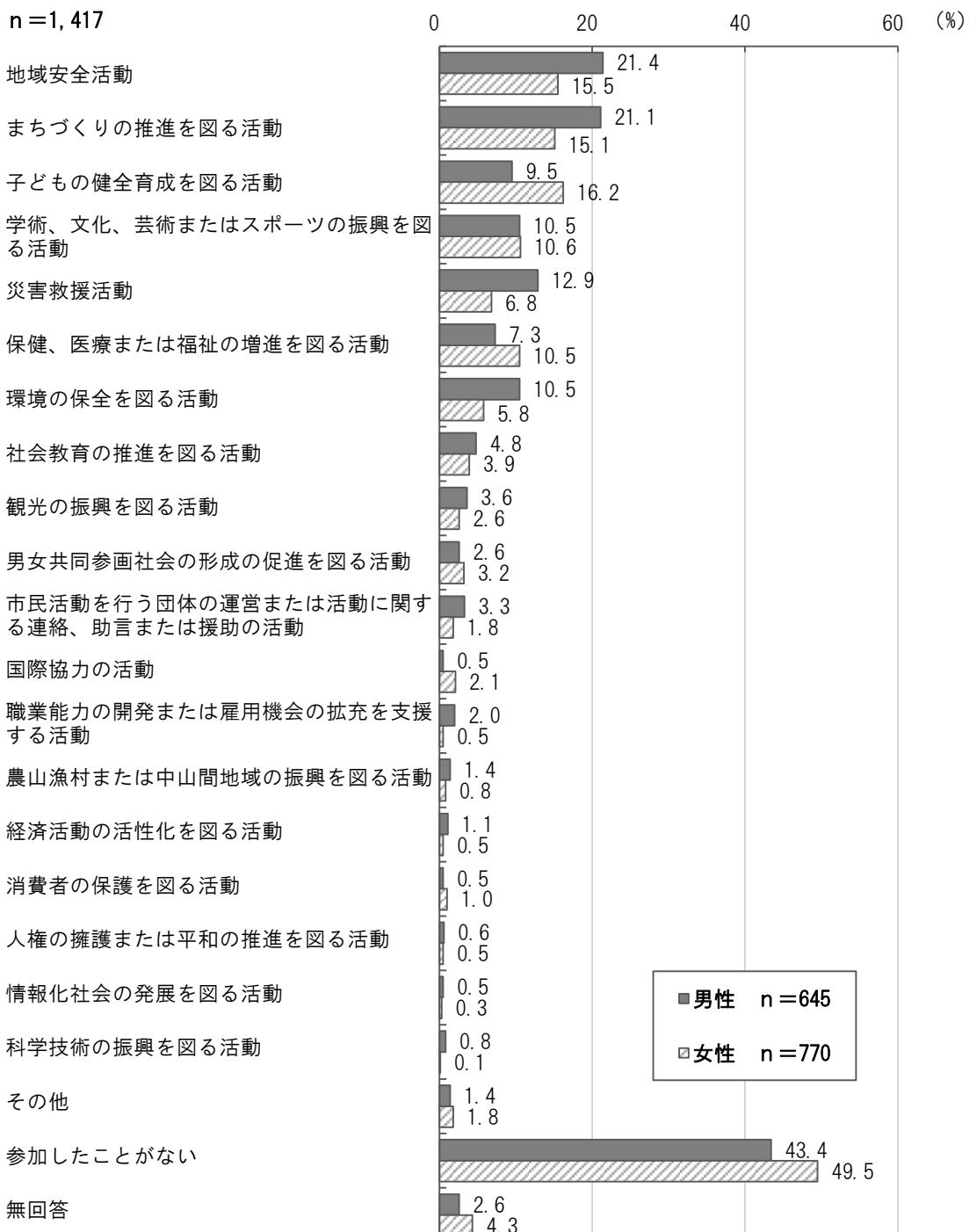
(2) 参加したことがある市民活動

問7 あなたは、次のような市民活動に参加したことありますか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。

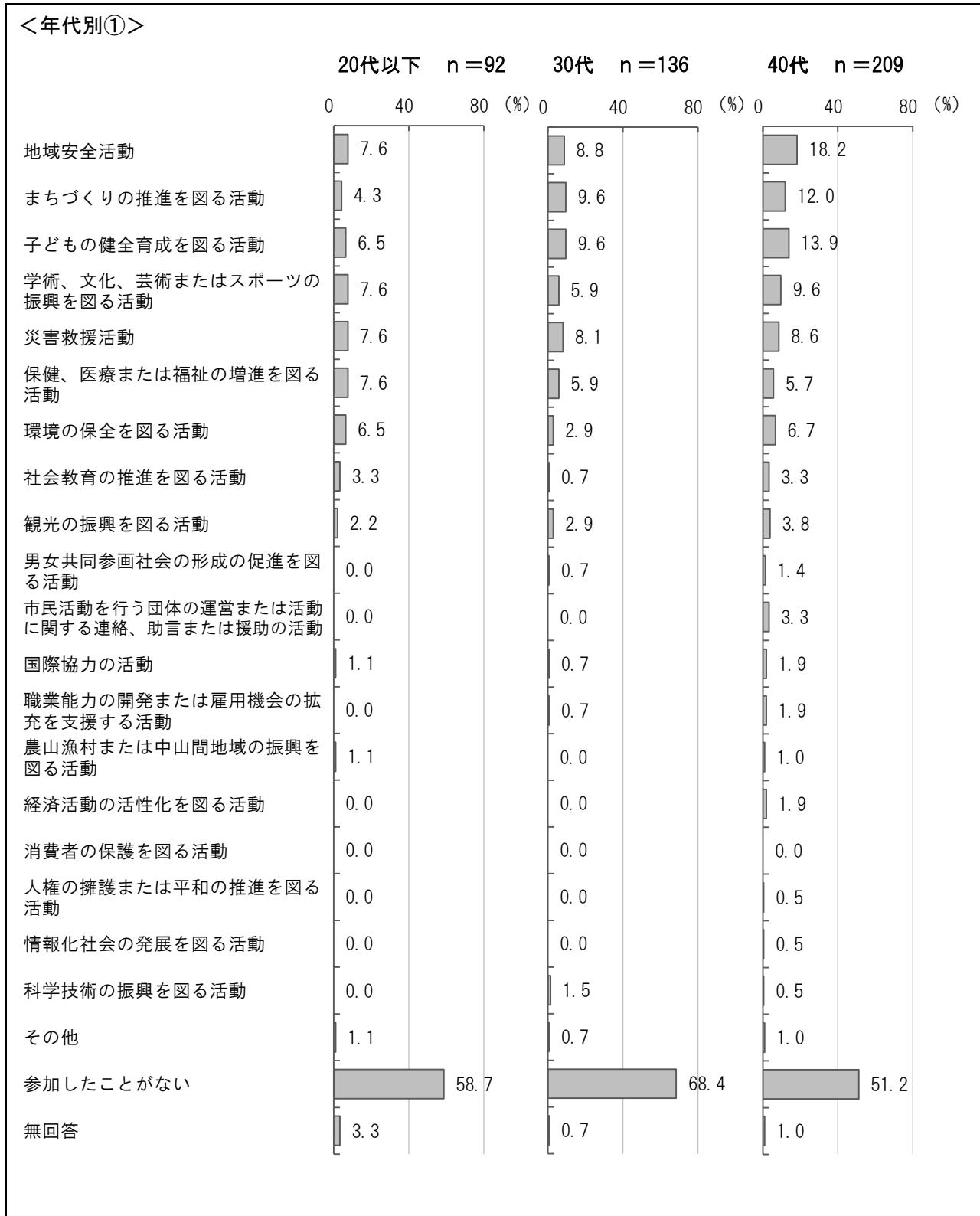


参加したことがある市民活動は、「地域安全活動」が 18.2%と最も多く、次いで「まちづくりの推進を図る活動」が 17.9%、「子どもの健全育成を図る活動」が 13.1%となっている。一方、「参加したことがない」は 46.7%となっている。

<性別>

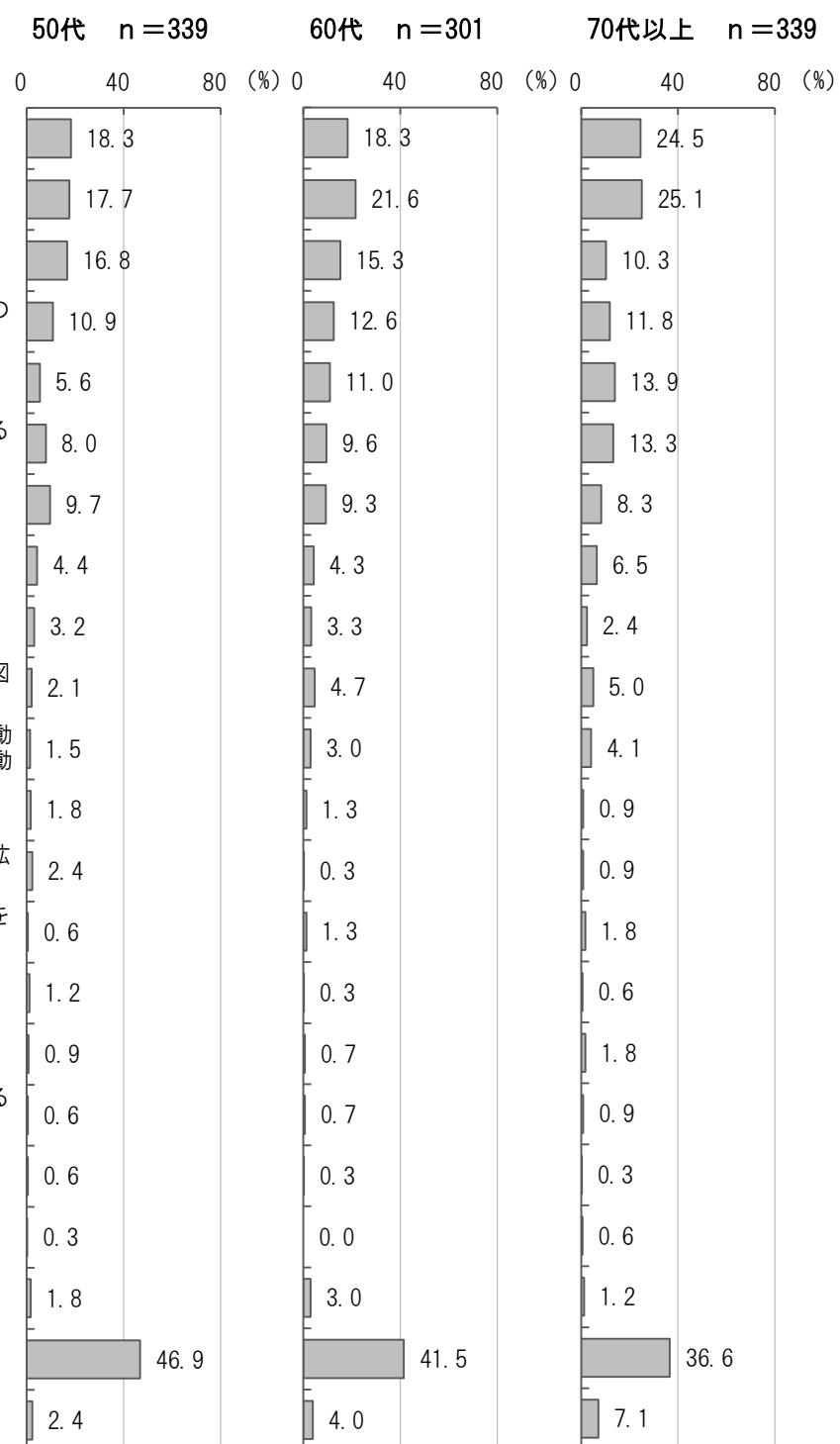


性別で見ると、男性において「地域安全活動」「まちづくりの推進を図る活動」「災害救援活動」が女性より多くなっている。女性においては、「子どもの健全育成を図る活動」が男性より多くなっている。

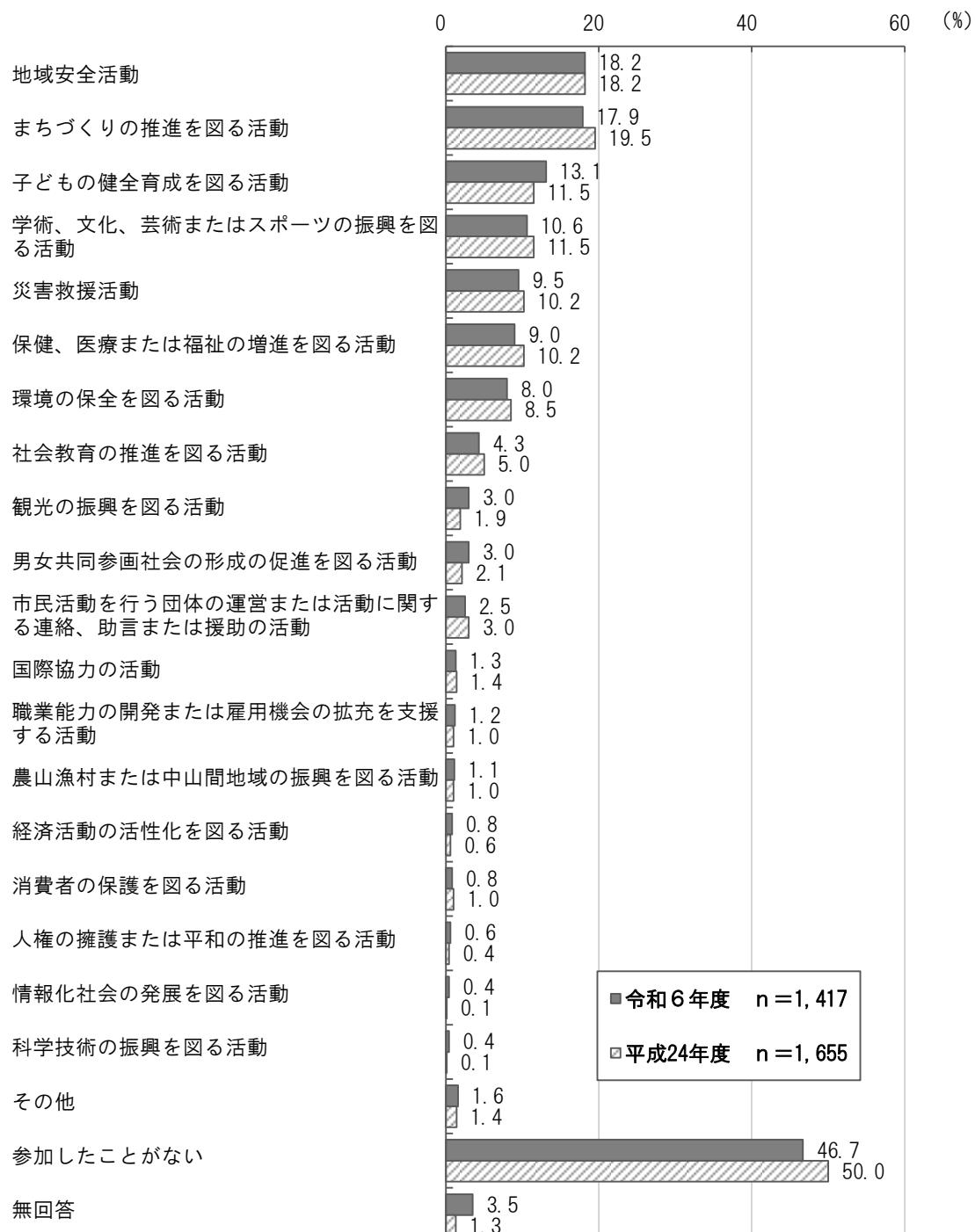


年代別では、20代において「まちづくりの推進を図る活動」が4.3%とほかの年代と比べて少なくなっている。30代においては、「参加したことがない」が68.4%と、ほかの年代と比べて多くなっている。また、70代以上においては、「まちづくりの推進を図る活動」が25.1%、「地域安全活動」が24.5%と、ほかの年代と比べて多くなっている。

<年代別②>



<経年比較>

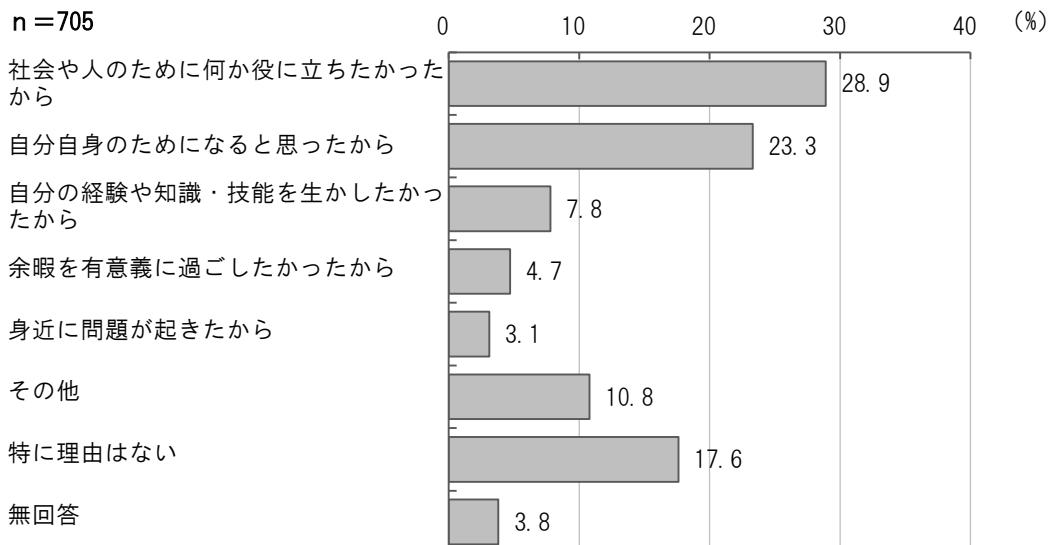


平成 24 年度の調査結果と比較すると、大きな変化は見られない。

(3) 市民活動に参加した直接的な理由

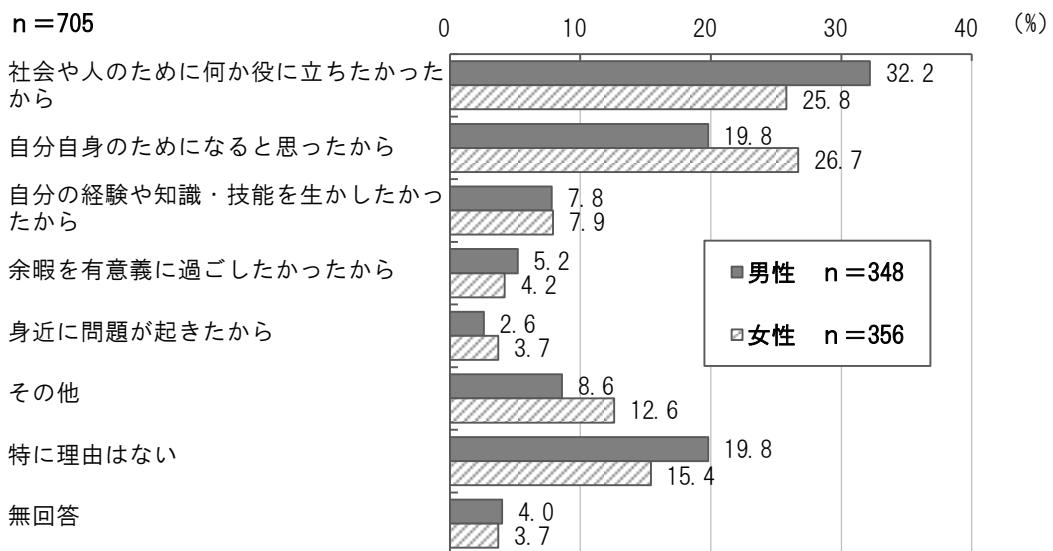
■ 問7で何らかの市民活動に参加したことがある人のみ

問7-1 あなたが市民活動に参加した直接的な理由はどのようなものですか。次の中からあなたの気持ちに最も近いものを1つだけ選んでください。複数の経験がある人は主に活動したものについてお答えください。



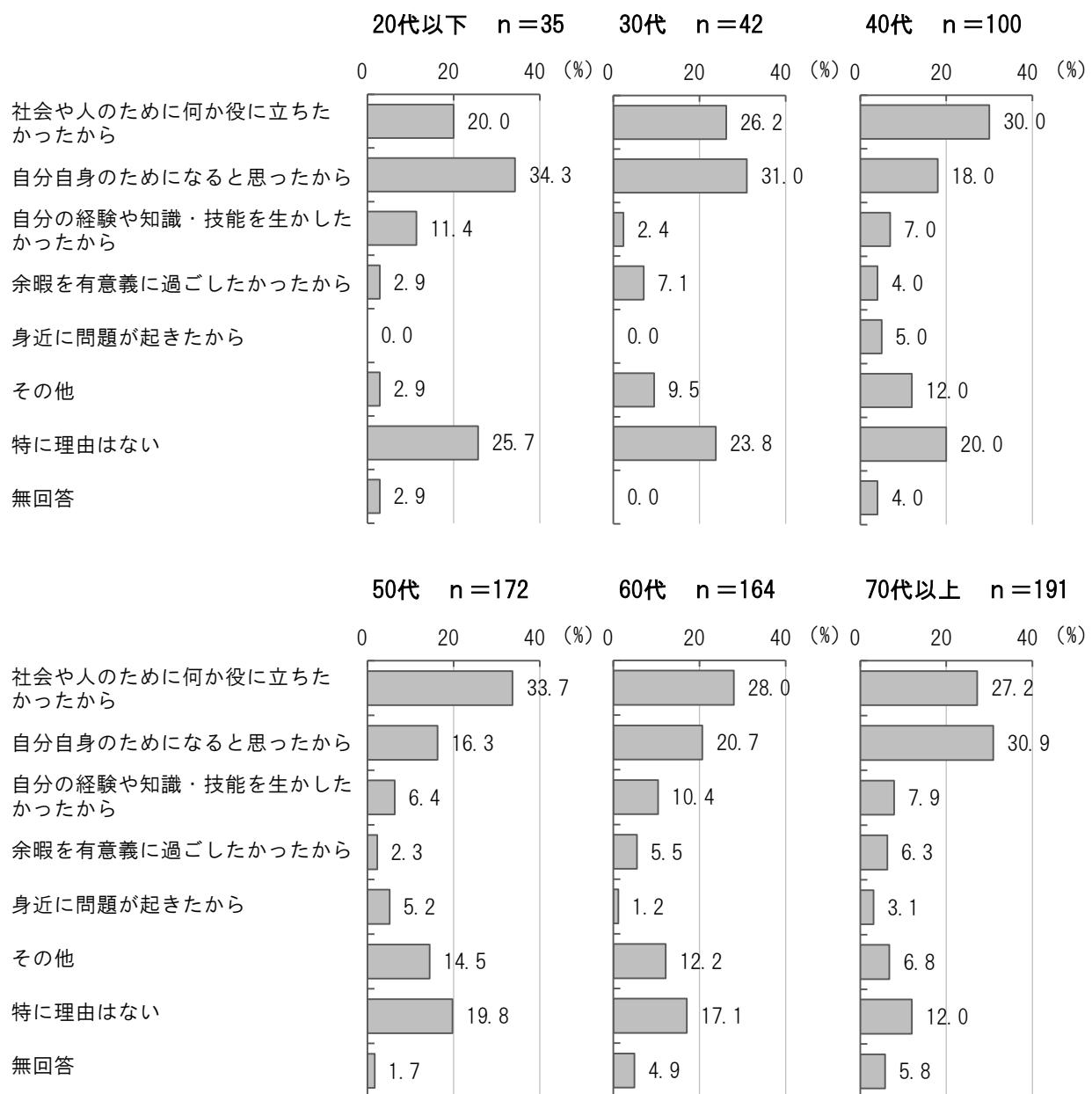
市民活動に参加した直接的な理由は、「社会や人のために何か役に立ちたかったから」が 28.9%と最も多く、次いで「自分自身のためになると思ったから」が 23.3%、「自分の経験や知識・技能を生かしたかったから」が 7.8%となっている。一方、「特に理由はない」は 17.6%となっている。

<性別>



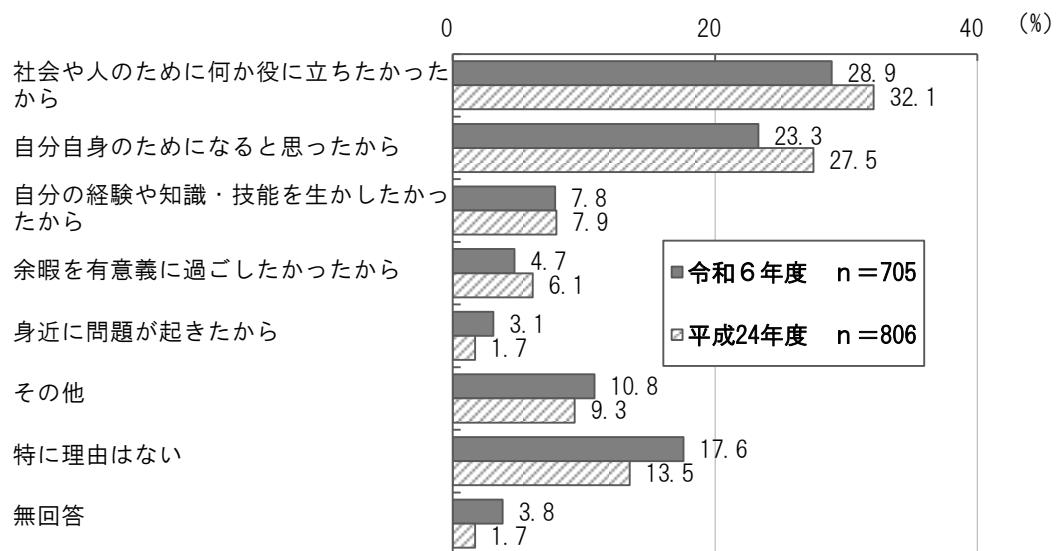
性別で見ると、男性において「社会や人のために何か役に立ちたかったから」が最も多く、32.2%と女性より多くなっている。女性においては「自分自身のためになると思ったから」が最も多く、26.7%と男性より多くなっている。

<年代別>



年代別では、20代において「社会や人のために何か役に立ちたかったから」が20.0%とほかの年代と比べて少なくなっている。70代以上においては、「特に理由はない」が12.0%と少なくなっている。

＜経年比較＞



平成24年度の調査結果と比較すると、大きな変化は見られない。

(4) 市民活動に参加するきっかけとなった情報源

■ 問7で何らかの市民活動に参加したことがある人のみ

問7-2 あなたは、市民活動に参加するきっかけとして情報をどのようなものから得ましたか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。

n=705

広報ふじ、回覧板など

0 20 40 60 (%)

43.3

人から勧められて

34.2

職場や学校での紹介や参加案内

20.9

雑誌、ポスター、チラシなどの広告物

7.9

テレビ、ラジオ、新聞などの報道

7.7

自発的な意思で

7.5

ウェブサイト

4.5

SNS (LINE・X・Facebook・Instagram・YouTubeなど)

2.7

市民活動センター（コミュニティf）

1.8

その他

5.7

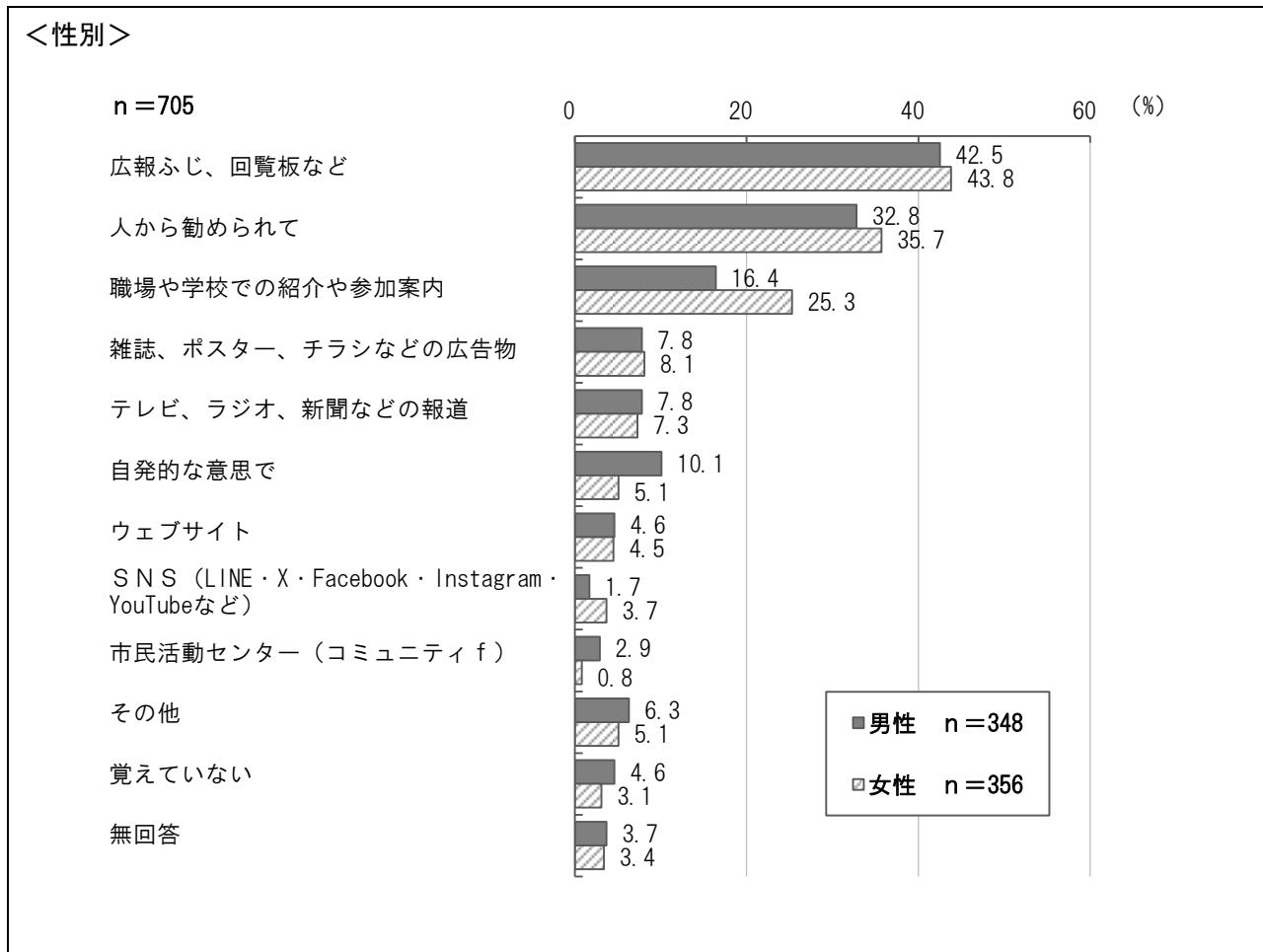
覚えていない

3.8

無回答

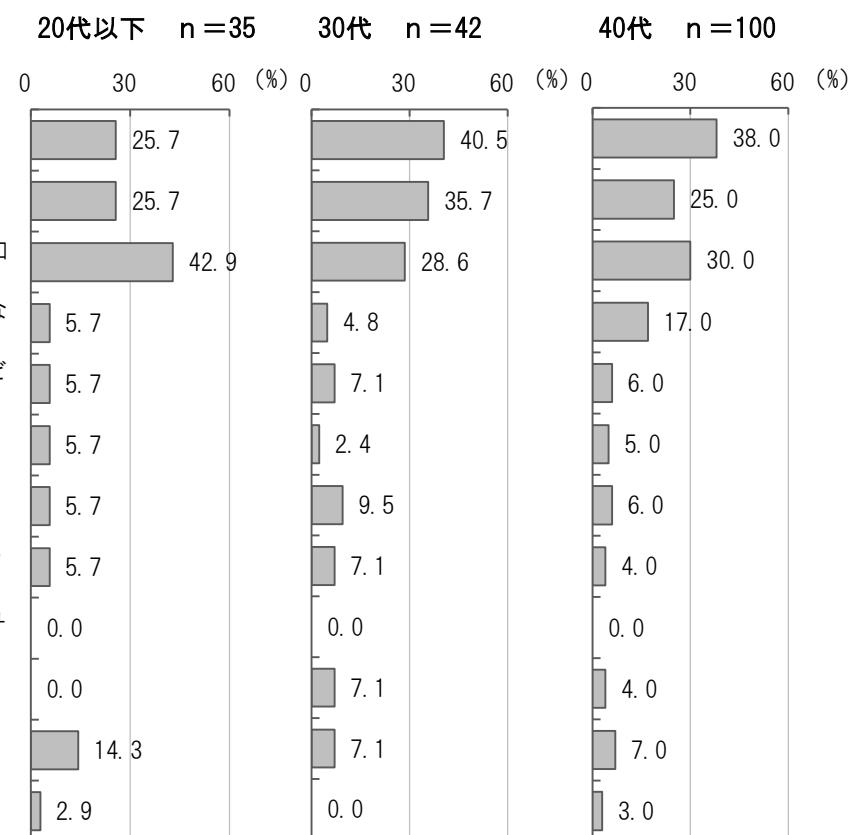
3.5

市民活動に参加するきっかけとなった情報源は、「広報ふじ、回覧板など」が43.3%と最も多く、次いで「人から勧められて」が34.2%、「職場や学校での紹介や参加案内」が20.9%となっている。



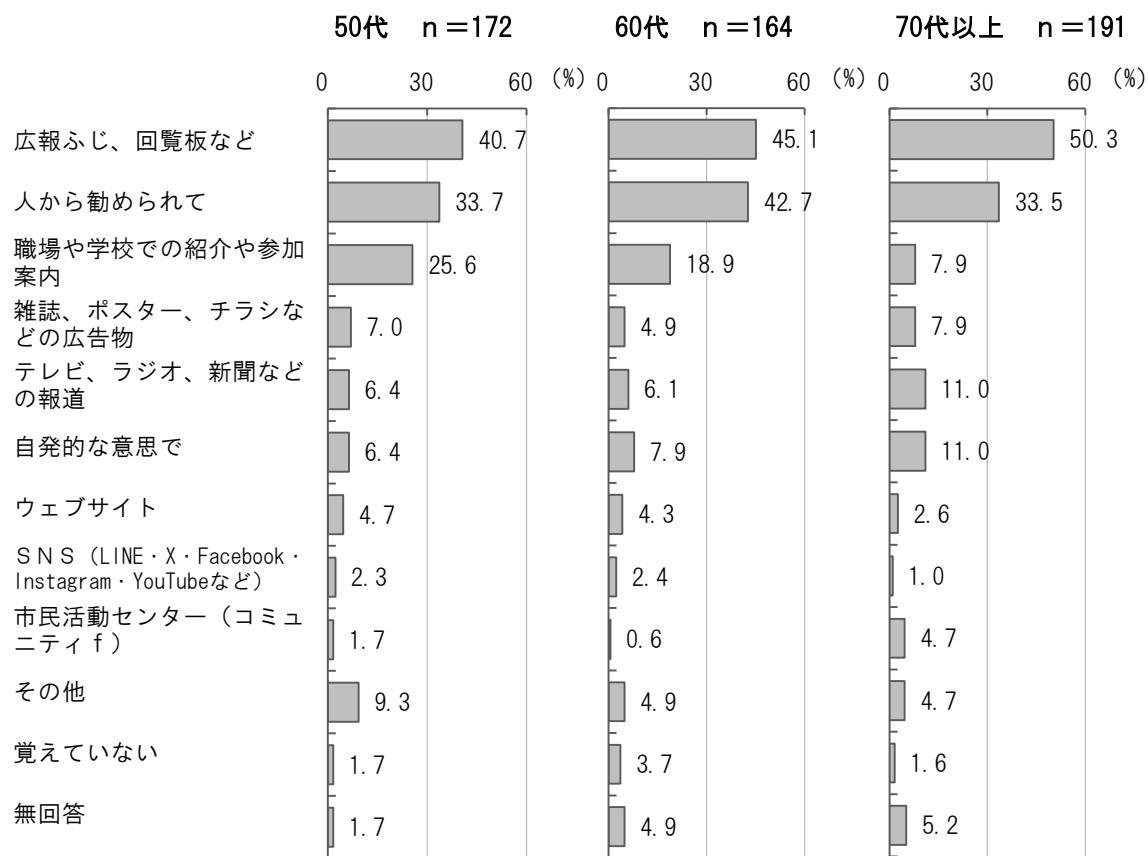
性別で見ると、男性において「自発的な意思で」が10.1%と、女性より多くなっている。女性においては、「職場や学校での紹介や参加案内」が25.3%と、男性より多くなっている。

<年代別①>



年代別では、20代において「職場や学校での紹介や参加案内」「覚えていない」がほかの年代と比べて多く、「広報ふじ、回覧板など」が25.7%と少なくなっている。40代においては「雑誌、ポスター、チラシなどの広告物」が17.0%と多くなっている。また、60代においては「人から勧められて」が42.7%と多くなっている。さらに、70代以上においては「広報ふじ、回覧板など」が50.3%と多く、「職場や学校での紹介や参加案内」が7.9%と少なくなっている。

<年代別②>



(5) 市民活動に参加したときに利用した公共施設

■ 問7で何らかの市民活動に参加したことがある人のみ

問7-3 あなたは市民活動に参加したときに、どのような公共施設を利用しましたか。次の
中から当てはまるものを全て選んでください。

n=705

地区まちづくりセンター

0 20 40 60 80 (%)

64.3

ロゼシアター

15.6

富士市交流プラザ

14.6

フィランセ

13.2

ラ・ホール富士

7.4

市民活動センター（コミュニティ f）

4.8

富士川ふれあいホール

4.0

その他の公共施設

14.8

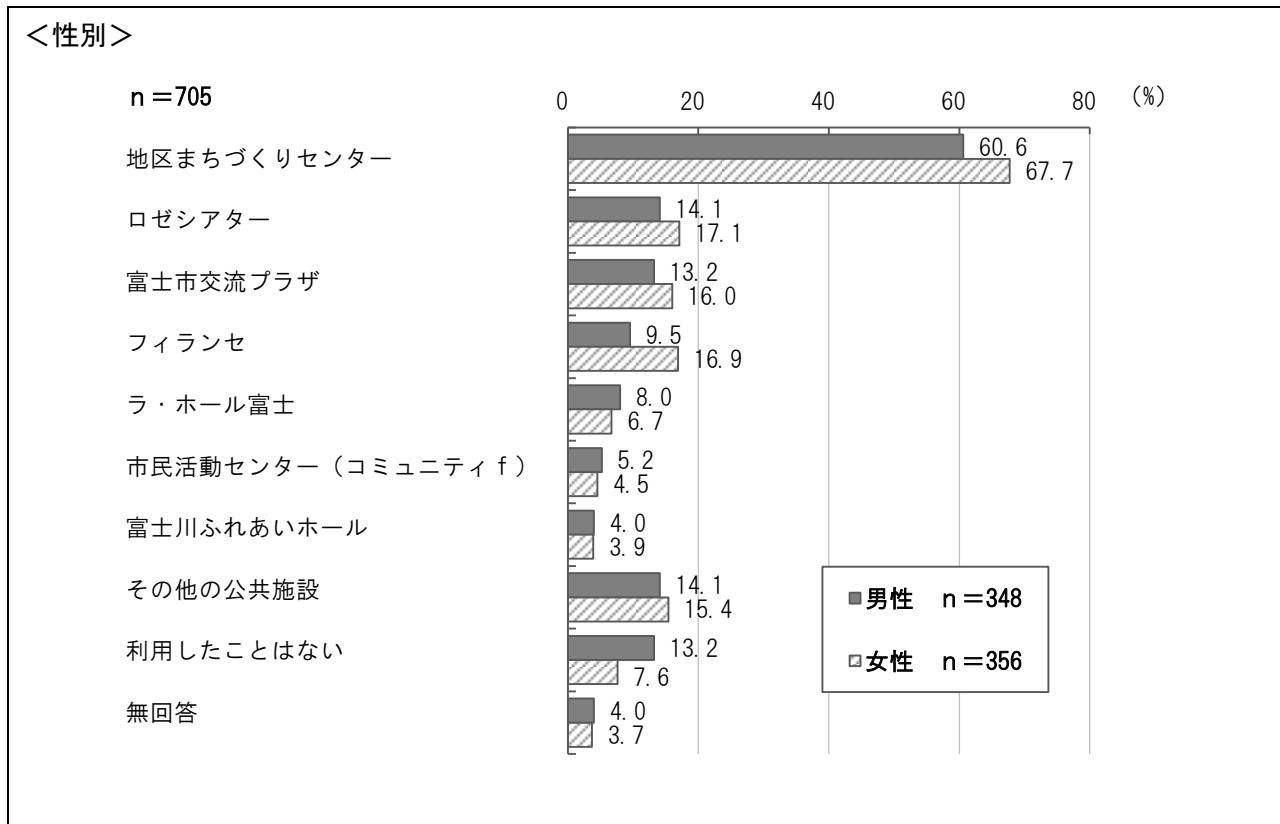
利用したことない

10.4

無回答

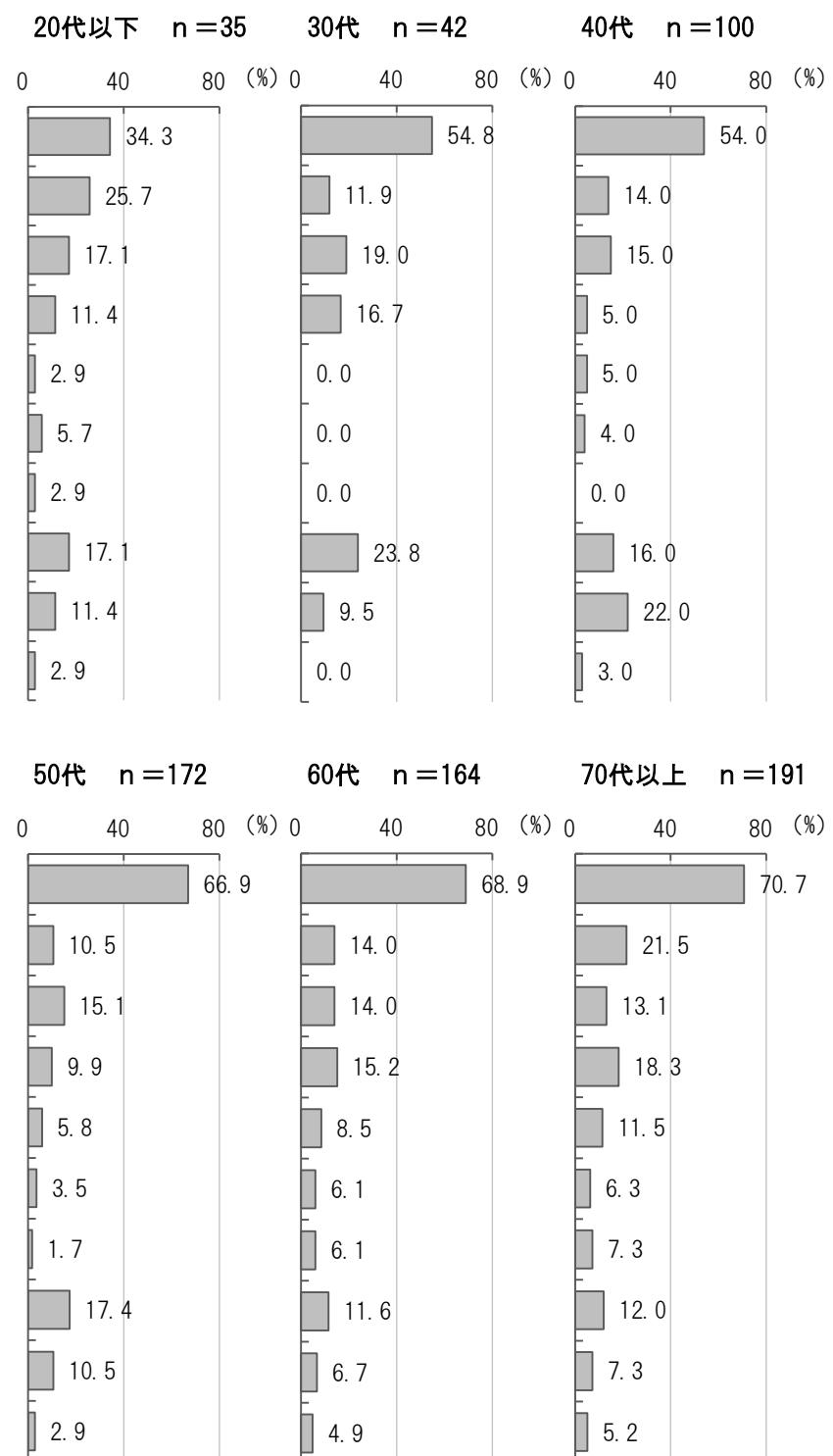
3.8

市民活動に参加したときに利用した公共施設は、「地区まちづくりセンター」が 64.3%と最も多く、次いで「ロゼシアター」が 15.6%、「富士市交流プラザ」が 14.6%となっている。



性別で見ると、男性において「利用したことない」が 13.2%と、女性より多くなっている。女性においては、特に「地区まちづくりセンター」「フィランセ」が男性より 7.0 ポイント以上多くなっている。

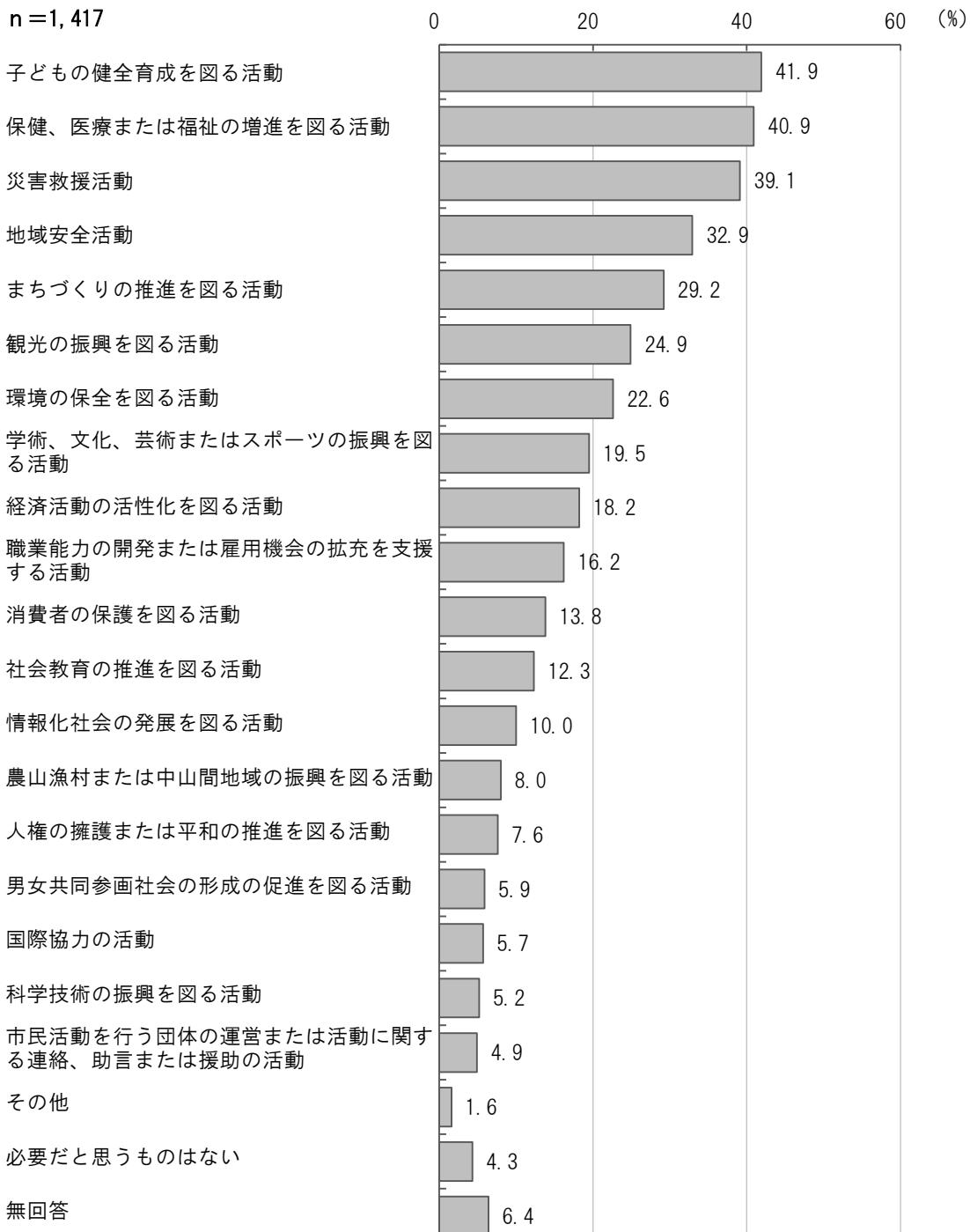
<年代別>



年代別では、20代において「地区まちづくりセンター」が34.3%とほかの年代と比べて少なくなっている。40代においては、「利用したことない」が22.0%と多くなっている。

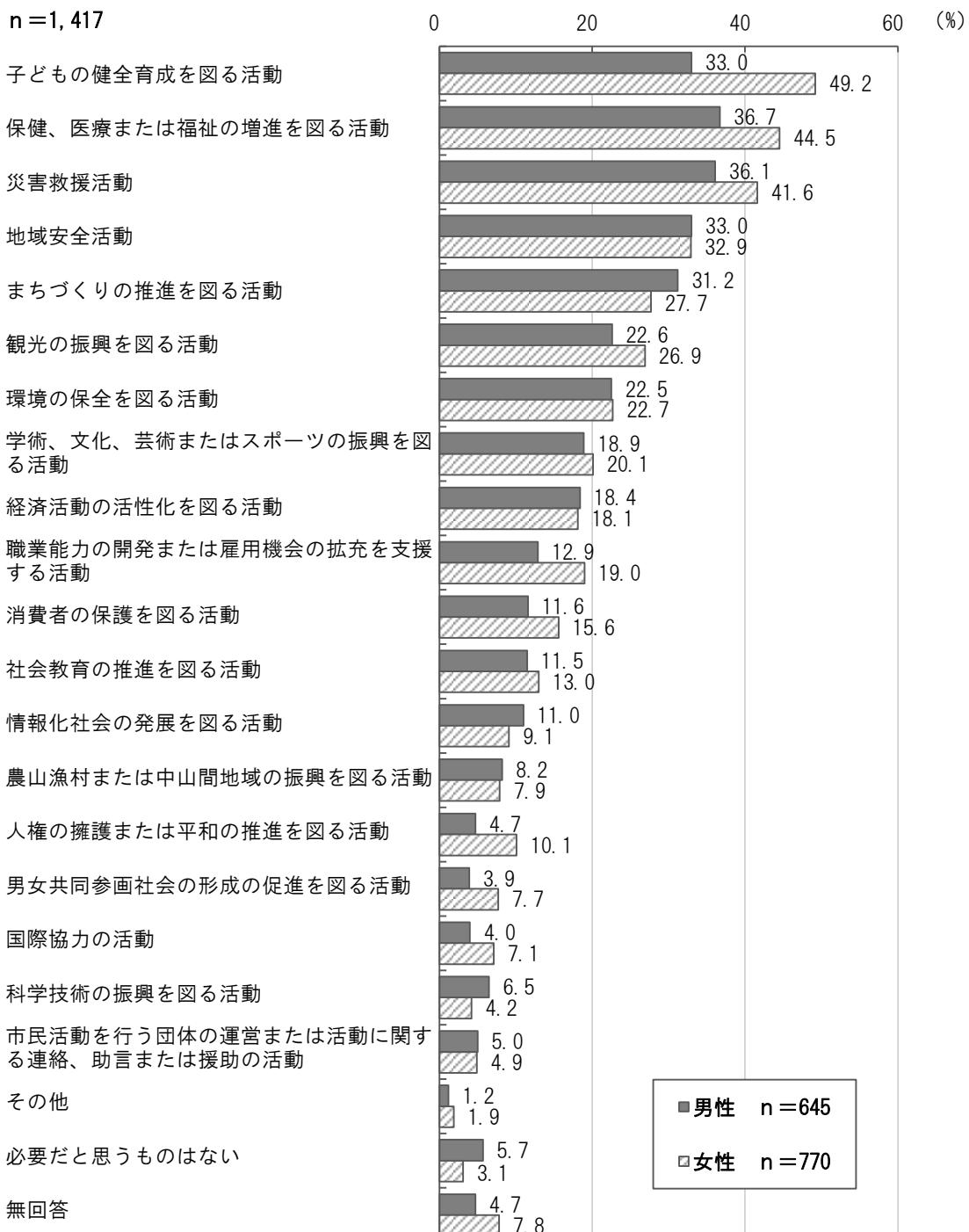
(6) 地域で必要だと思う市民活動

問8 あなたがこの地域で必要だと思う市民活動は何ですか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。

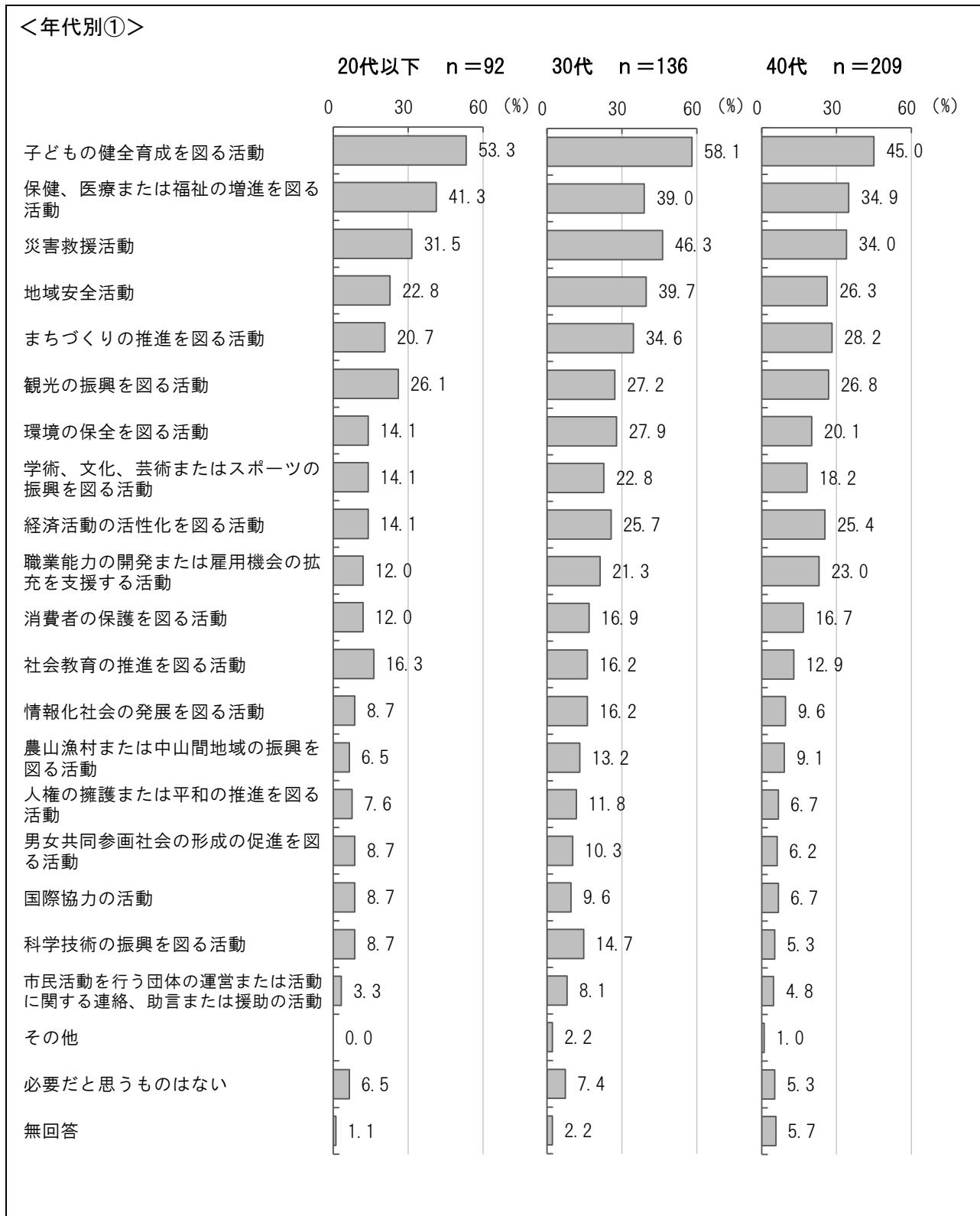


地域で必要だと思う市民活動は、「子どもの健全育成を図る活動」が 41.9%と最も多く、次いで「保健、医療または福祉の増進を図る活動」が 40.9%、「災害救援活動」が 39.1%となっている。

<性別>

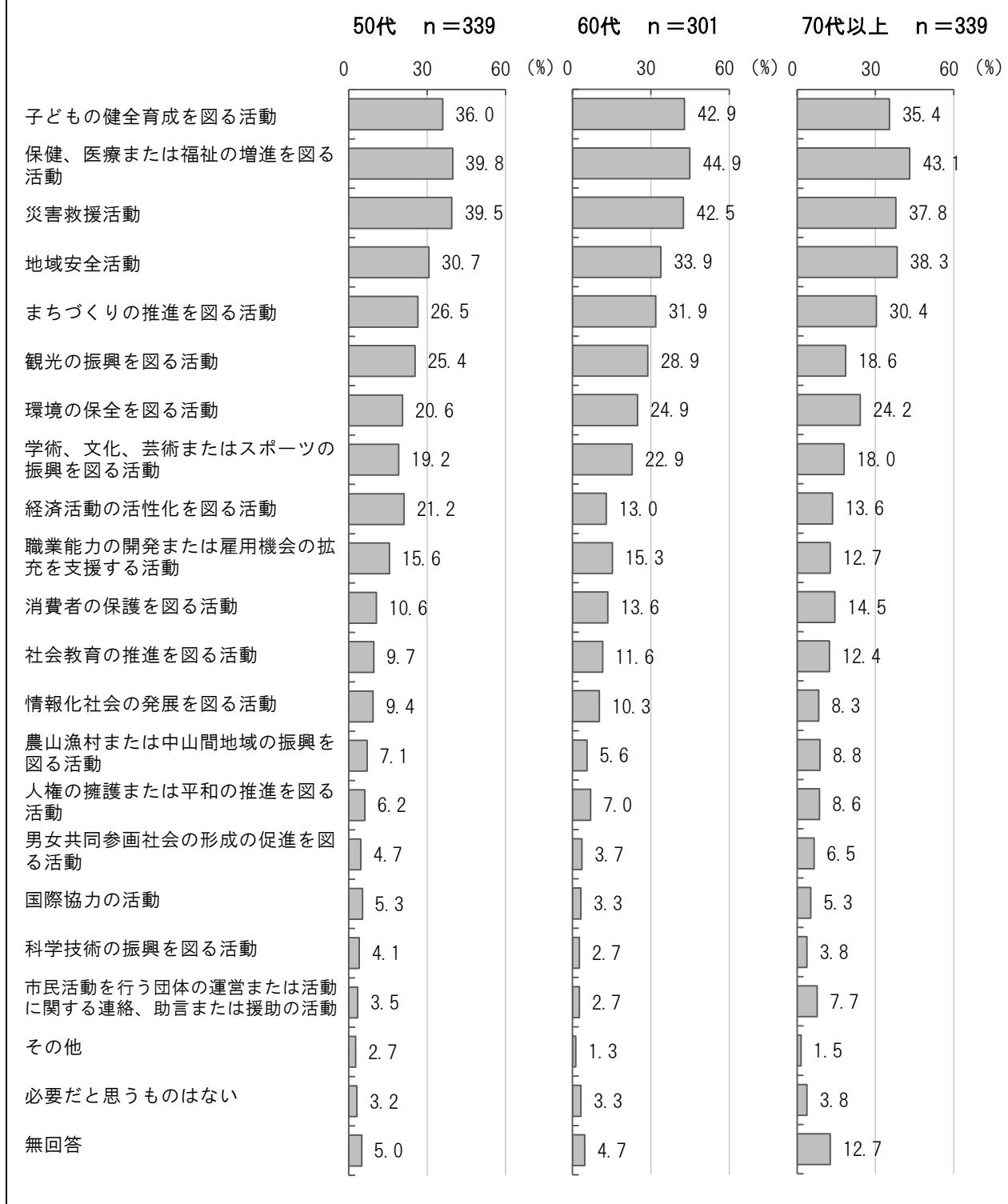


性別で見ると、女性において特に「子どもの健全育成を図る活動」「保健、医療または福祉の増進を図る活動」「災害救援活動」などが男性より多くなっている。



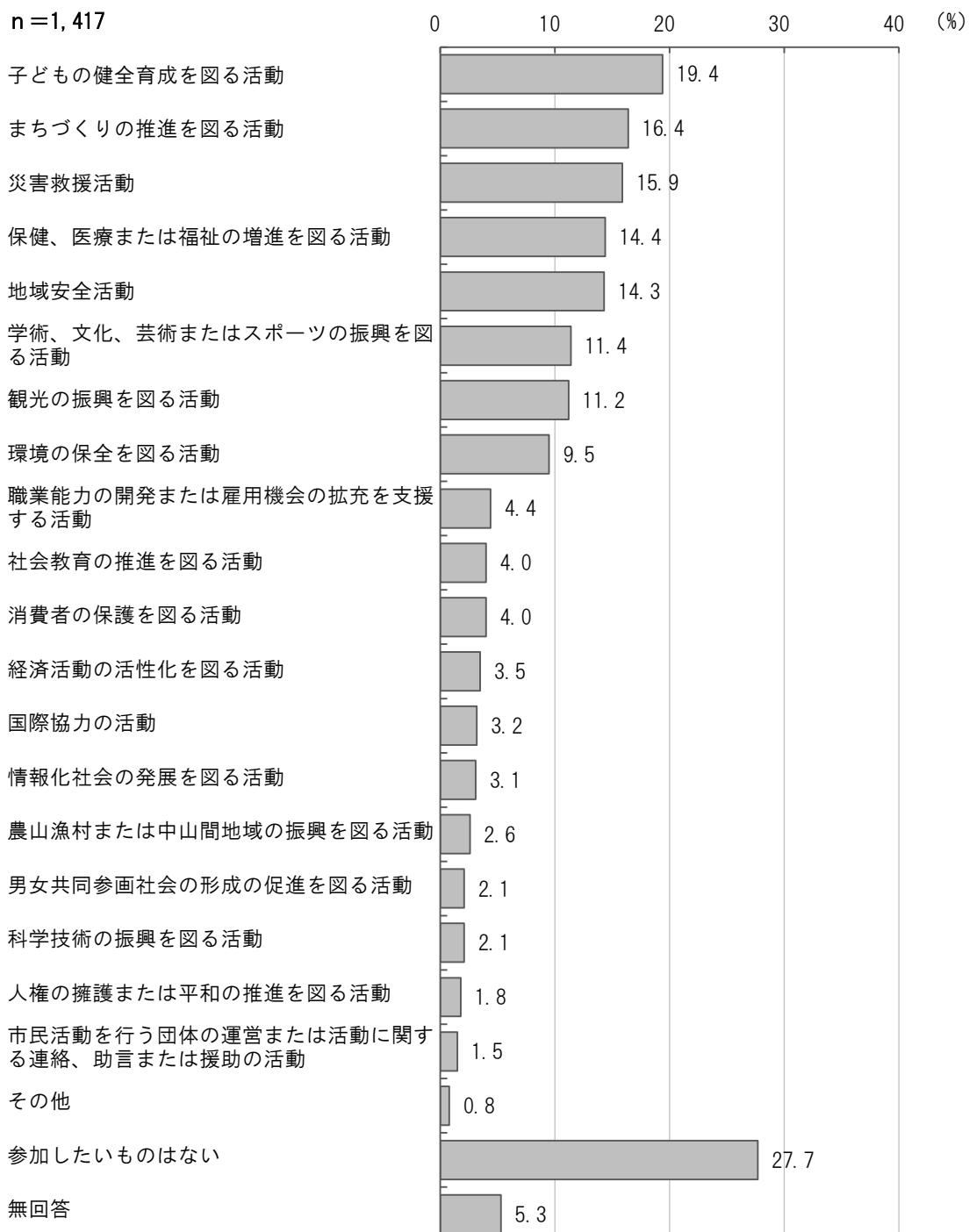
年代別では、20代において「まちづくりの推進を図る活動」「環境の保全を図る活動」がほかの年代と比べて少なくなっている。30代においては、「情報化社会の発展を図る活動」「科学技術の振興を図る活動」が多くなっている。また、70代以上においては、「観光の振興を図る活動」が18.6%と少なくなっている。

<年代別②>



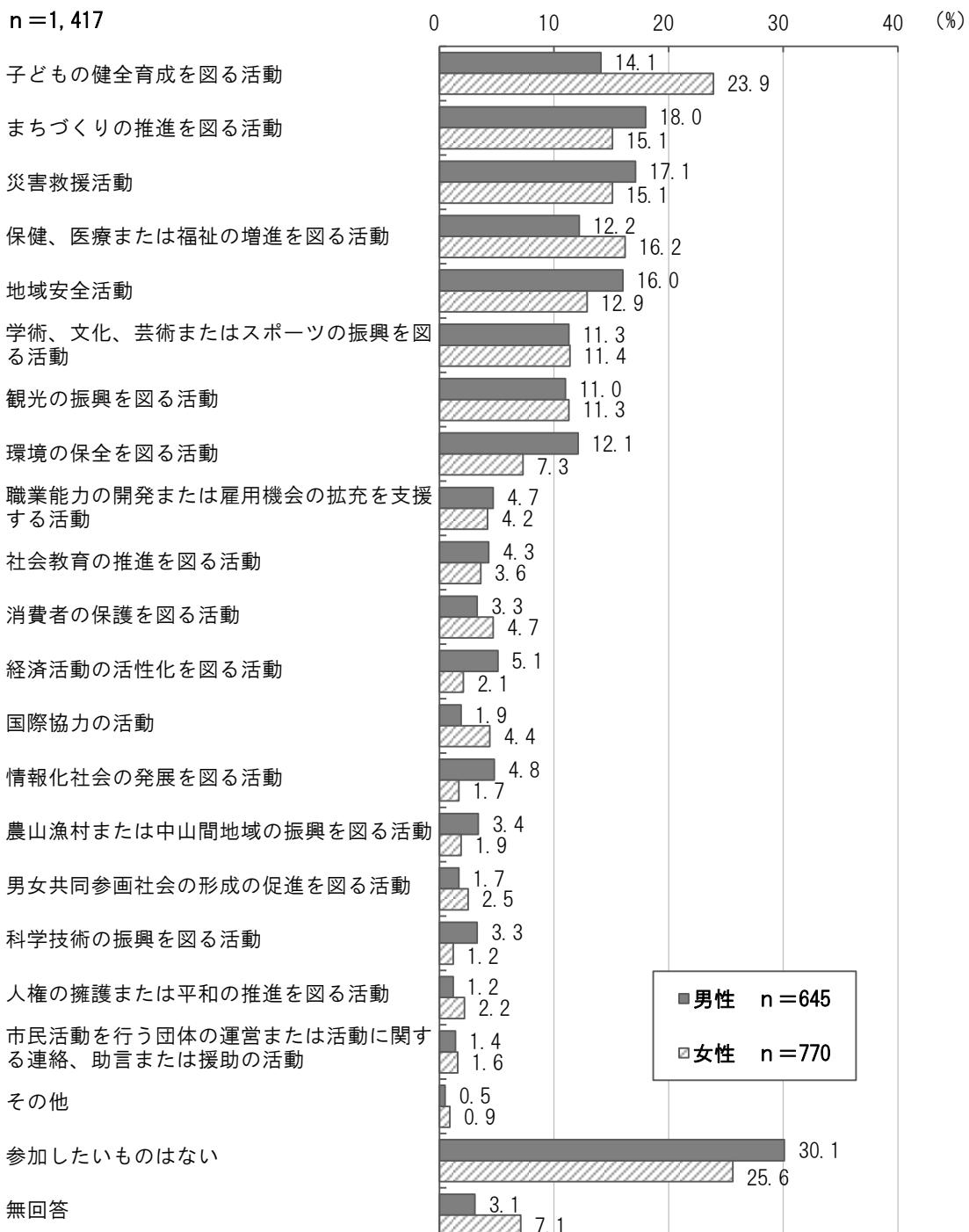
(7) 今後参加したいと思う市民活動

問9 あなたが今後、参加したいと思う市民活動は何ですか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。

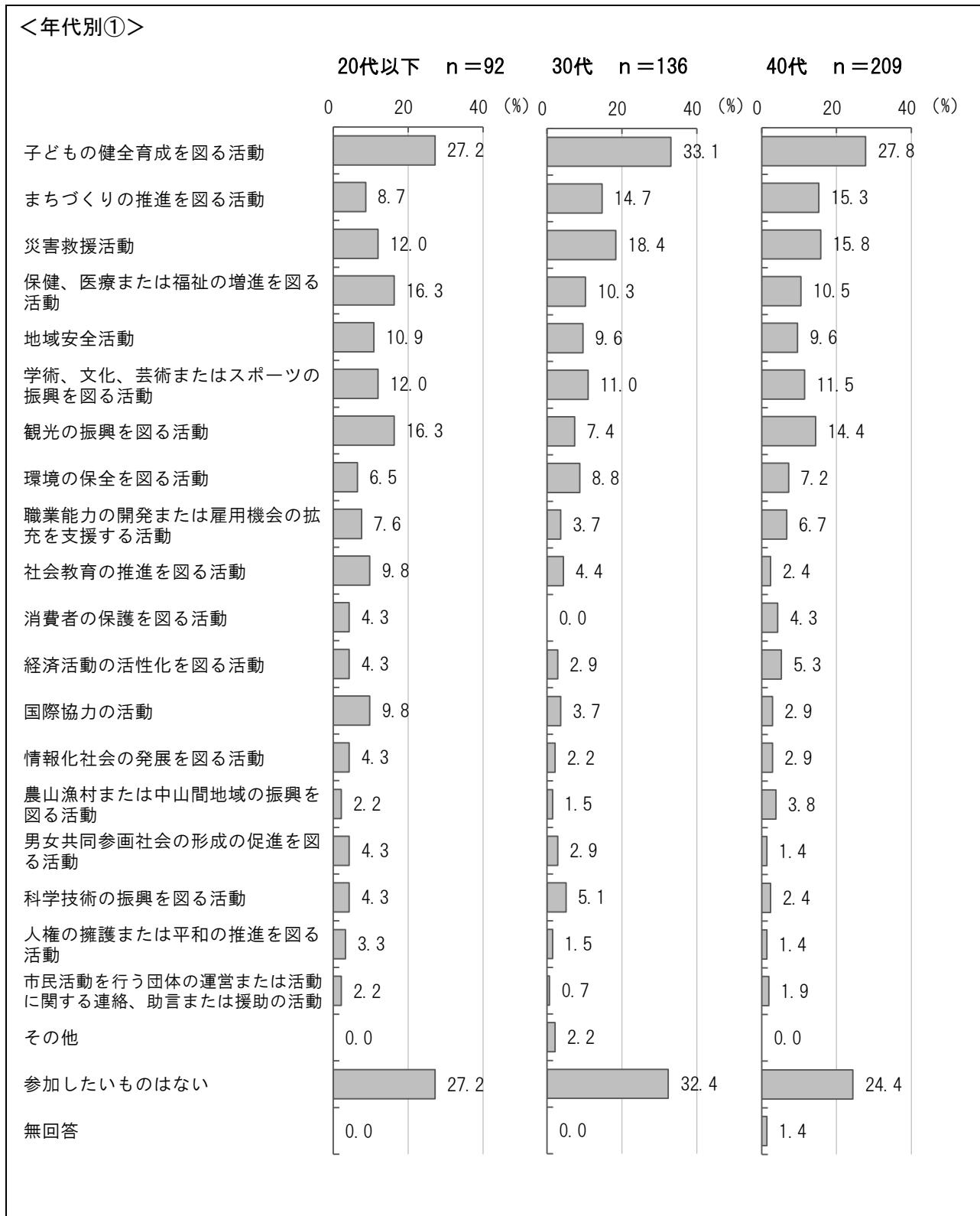


今後参加したいと思う市民活動は、「子どもの健全育成を図る活動」が 19.4%と最も多く、次いで「まちづくりの推進を図る活動」が 16.4%、「災害救援活動」が 15.9%となっている。一方、「参加したいものはない」は 27.7%となっている。

<性別>

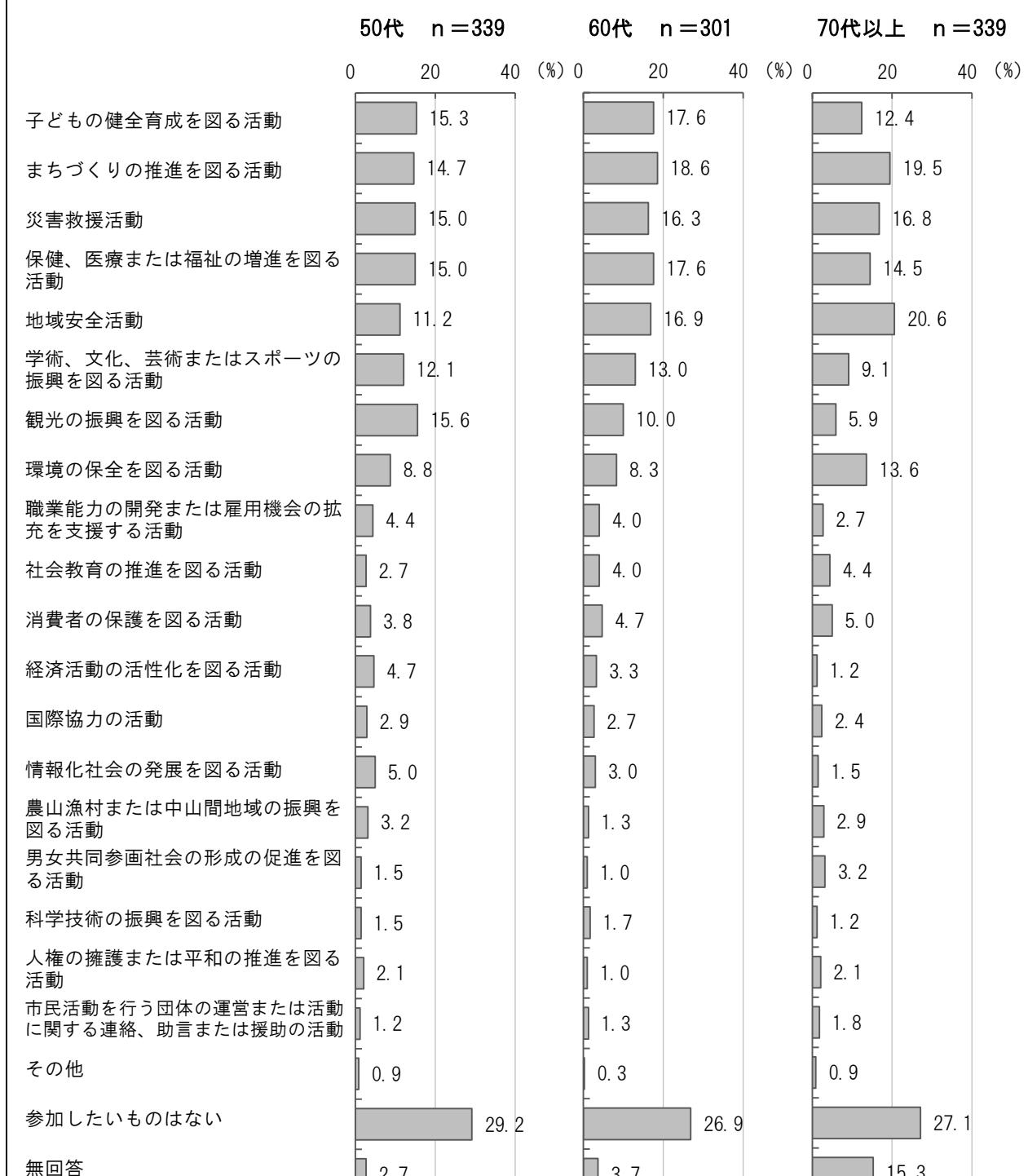


性別で見ると、女性において「子どもの健全育成を図る活動」が 23.9%と男性より多くなっている。

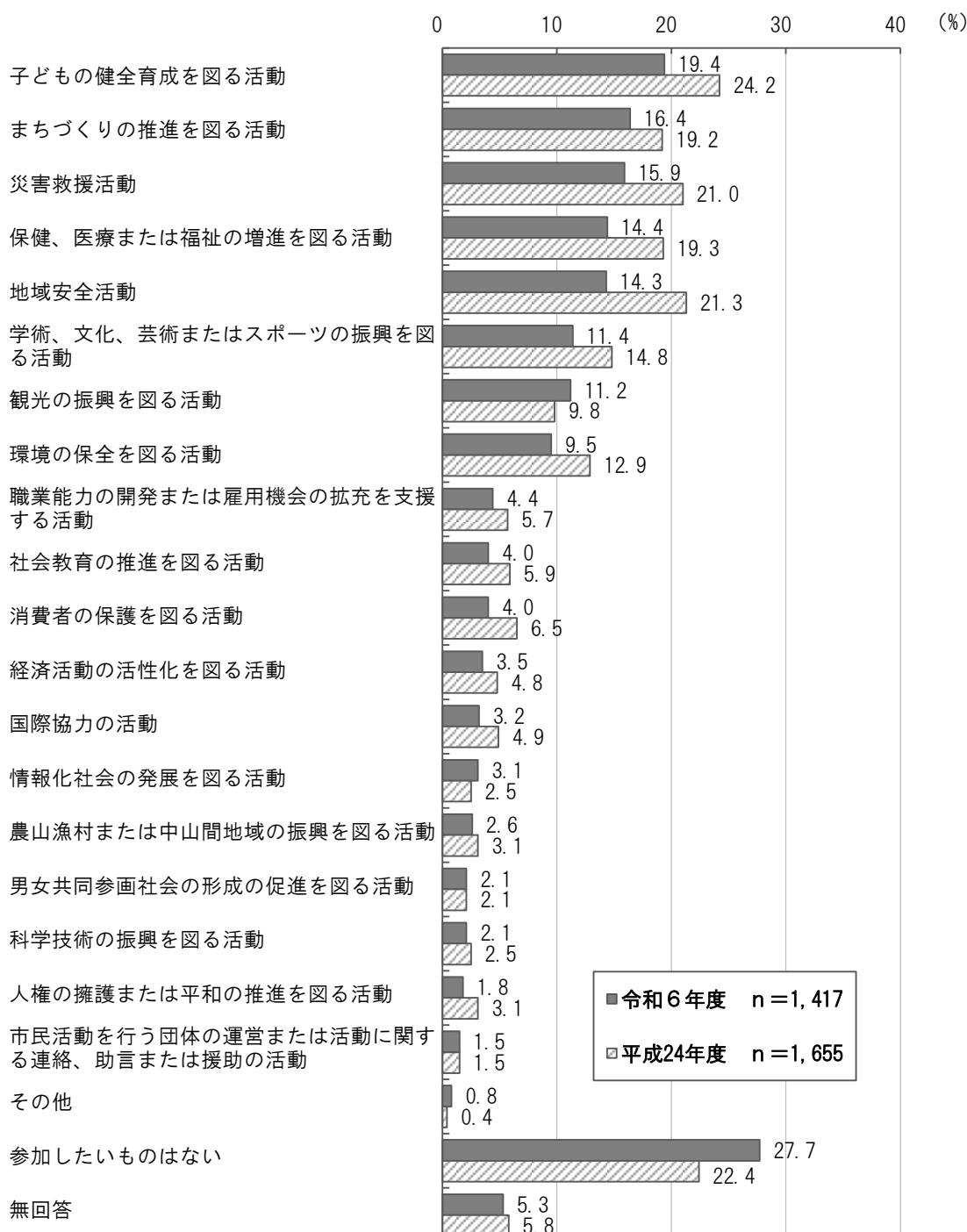


年代別では、20代において「社会教育の推進を図る活動」「国際協力の活動」がほかの年代と比べて多く、「まちづくりの推進を図る活動」が8.7%とほかの年代と比べて少なくなっている。30代においては、「子どもの健全育成を図る活動」が33.1%と多くなっている。

<年代別②>



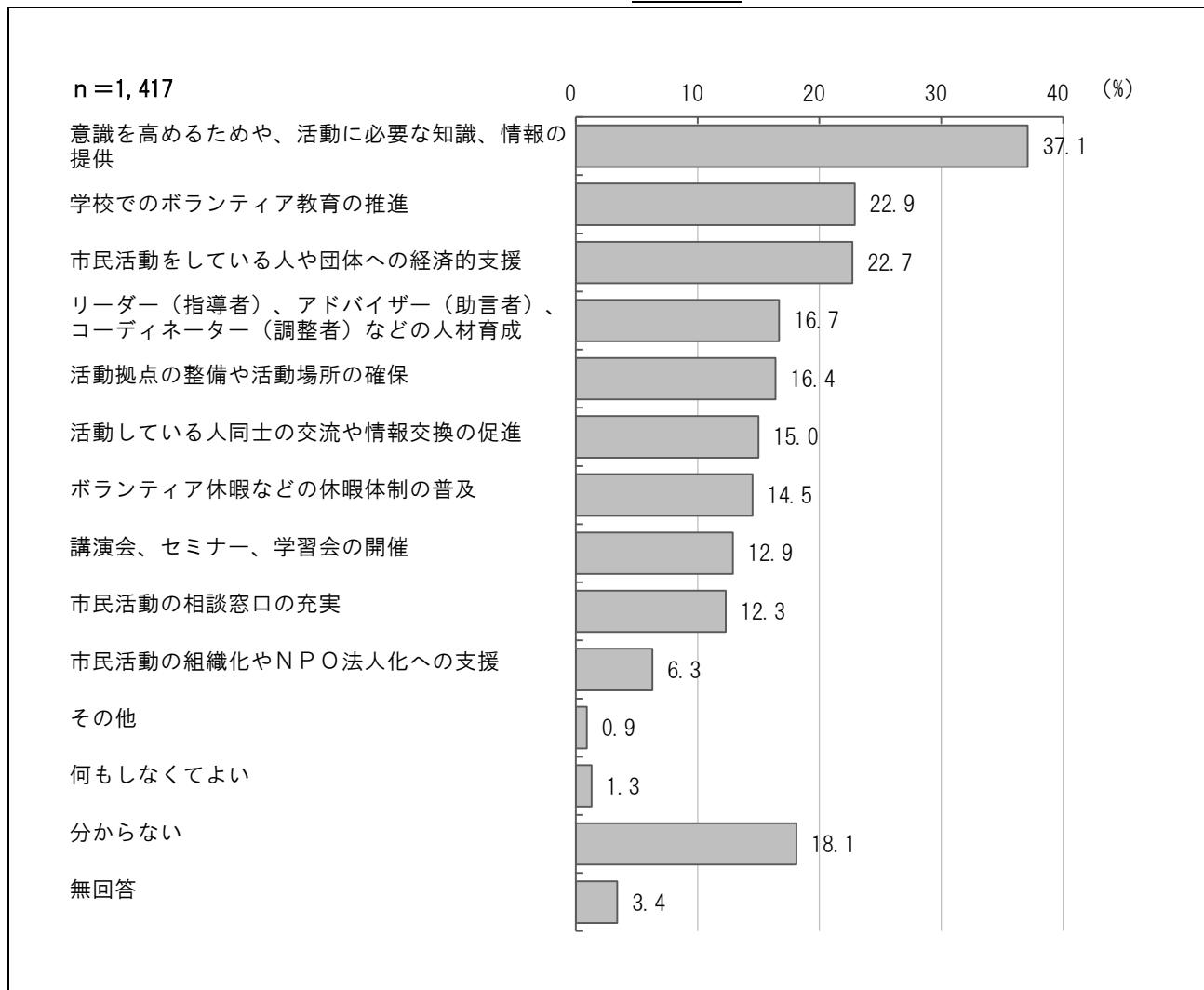
<経年比較>



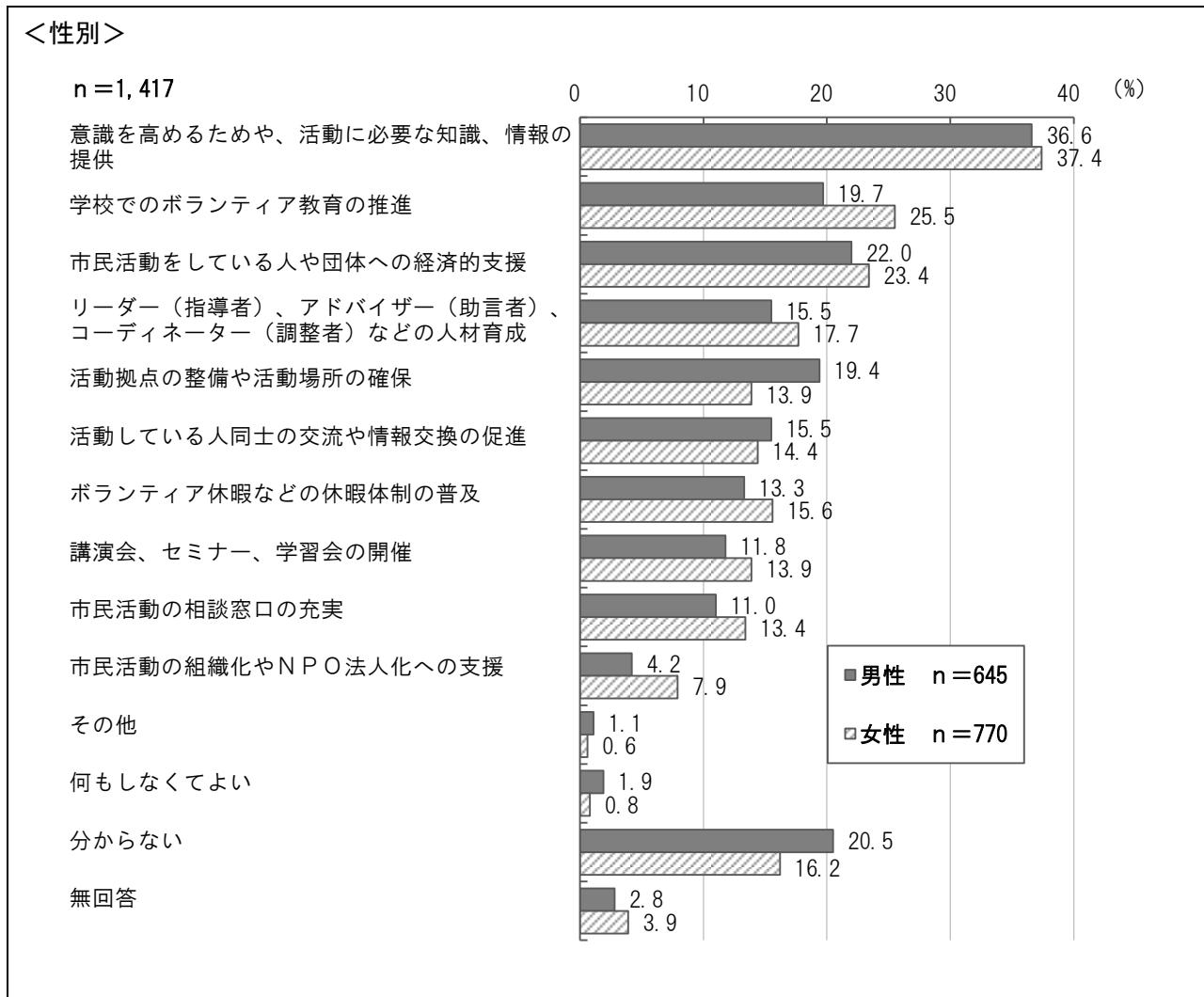
平成 24 年度の調査結果と比較すると、「観光の振興を図る活動」が 1.4 ポイント、「情報化社会の発展を図る活動」が 0.6 ポイント、「参加したいものはない」が 5.3 ポイント増加し、「災害救援活動」が 5.1 ポイント、「地域安全活動」が 7.0 ポイント減少している。

(8) 市民活動が盛んになるために必要だと思う方策

問10 あなたは今後、この地域で市民活動が盛んになるためには、どのような方策が必要だと 思いますか。次の中から当てはまるものを3つ以内で選んでください。

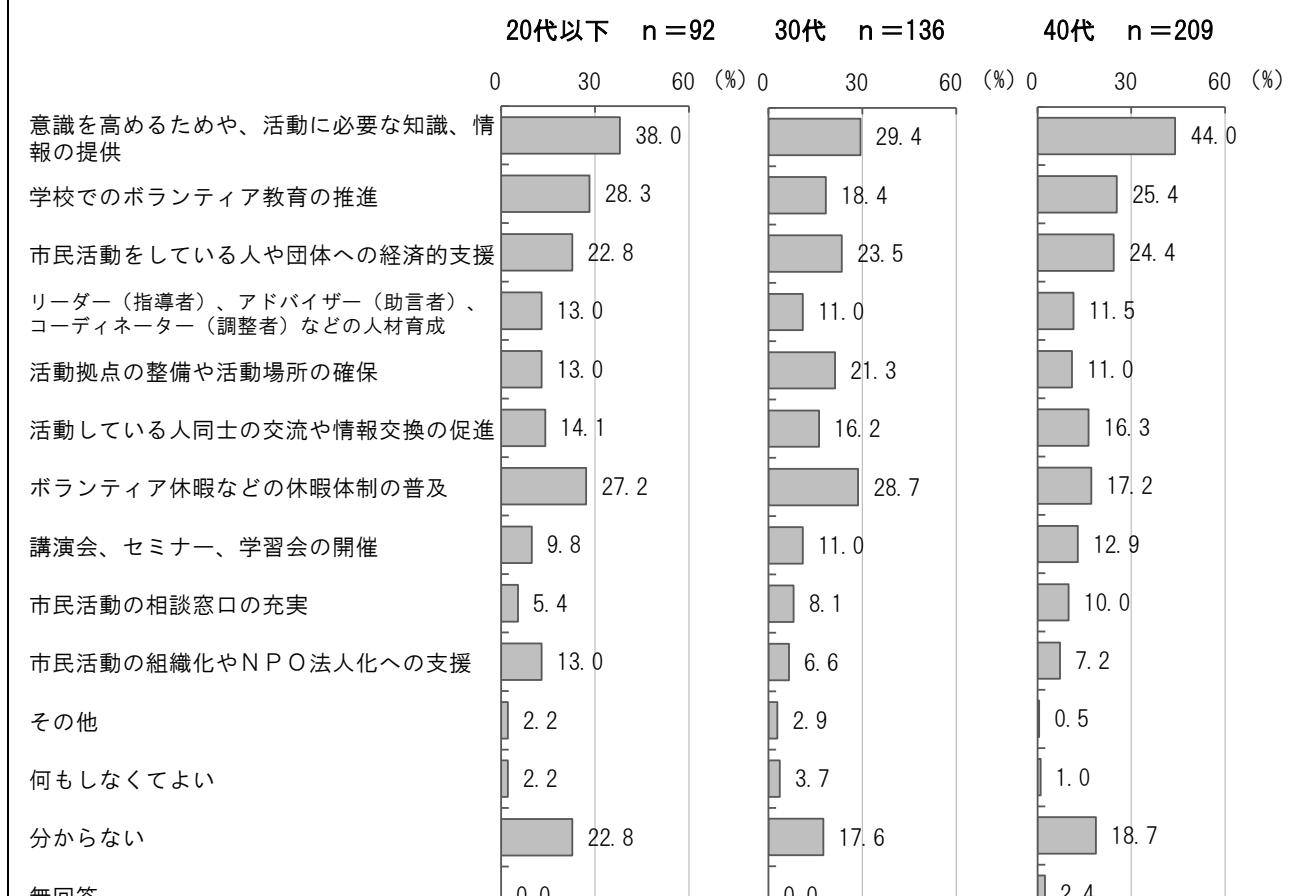


市民活動が盛んになるために必要だと思う方策は、「意識を高めるためや、活動に必要な知識、情報の提供」が 37.1%と最も多く、次いで「学校でのボランティア教育の推進」が 22.9%、「市民活動をしている人や団体への経済的支援」が 22.7%となっている。



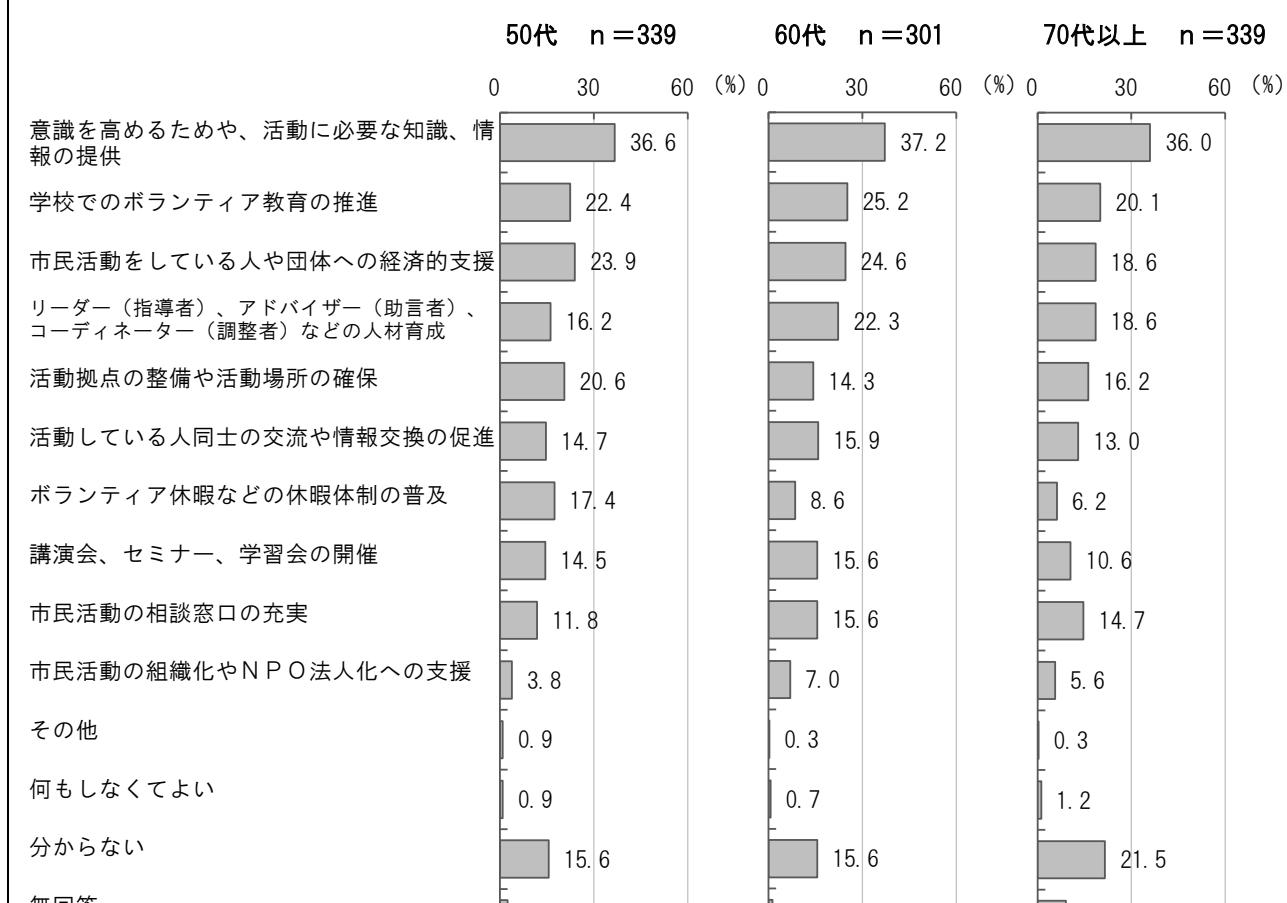
性別で見ると、男性において「活動拠点の整備や活動場所の確保」が 19.4%と女性より多くなっている。女性においては「学校でのボランティア教育の推進」が 25.5%と男性より多くなっている。

<年代別①>

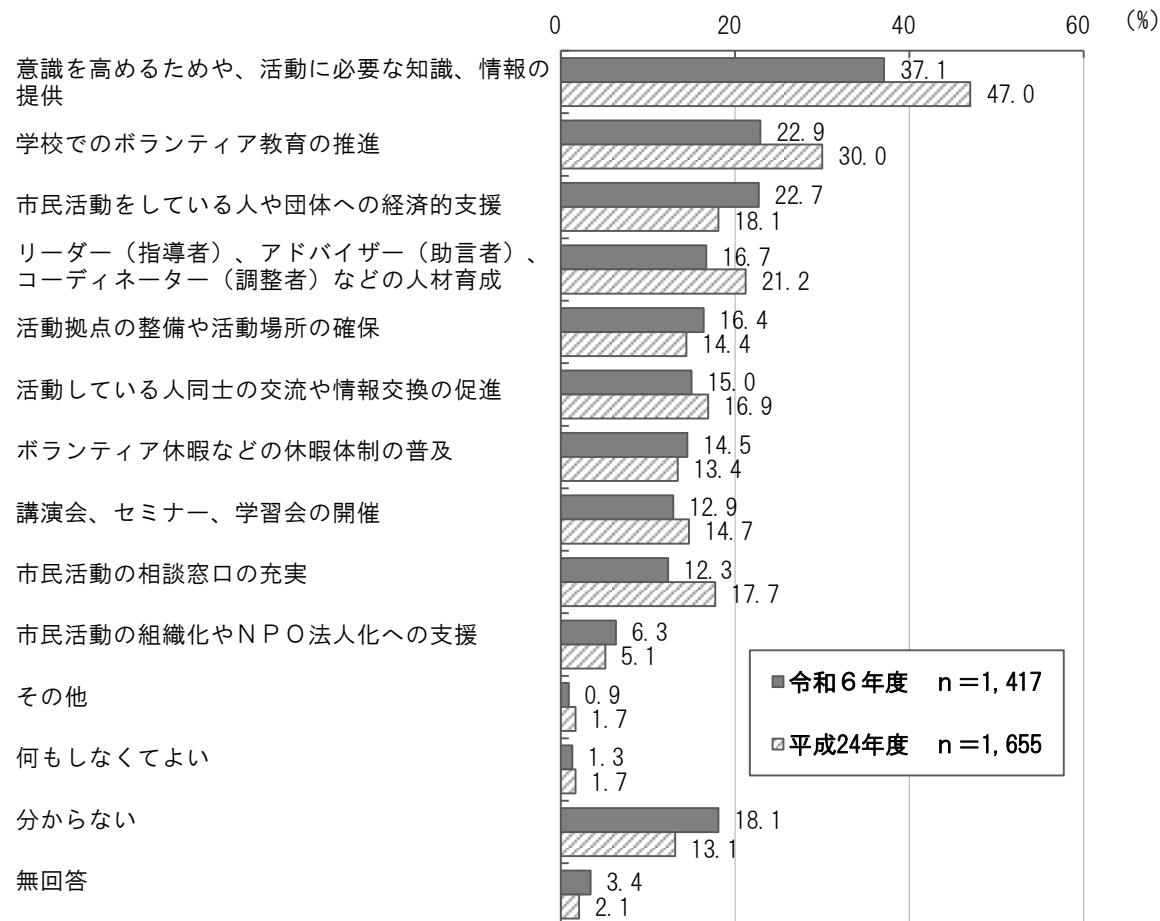


年代別では、20代において「市民活動の組織化やNPO法人化への支援」が13.0%と多くなっている。30代においては、「意識を高めるためや、活動に必要な知識、情報の提供」が29.4%と少なくなっている。また、40代においては、「意識を高めるためや、活動に必要な知識、情報の提供」が44.0%と多くなっている。

<年代別②>



<経年比較>



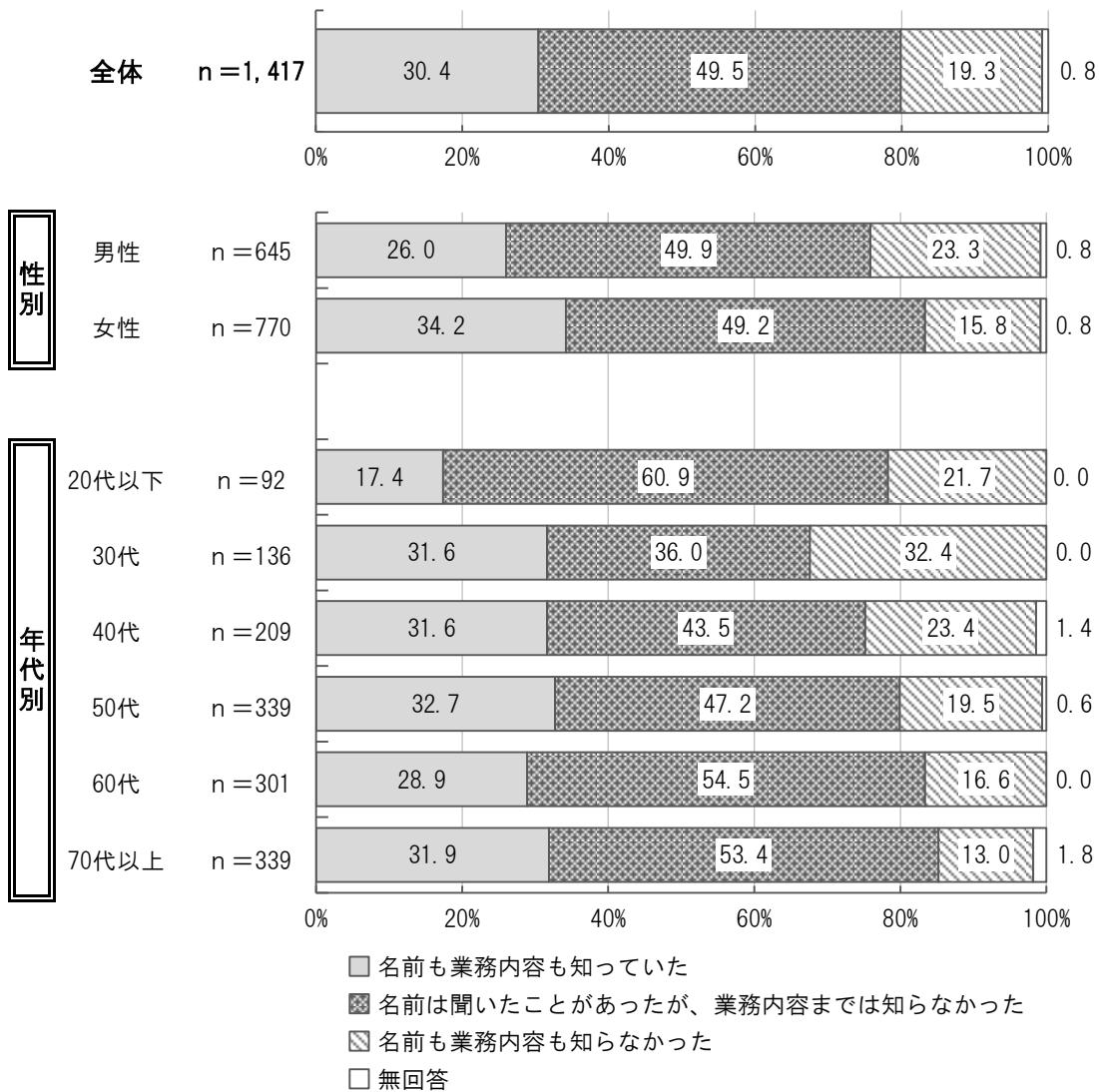
平成 24 年度の調査結果と比較すると、「意識を高めるためや、活動に必要な知識、情報の提供」が 9.9 ポイント、「学校でのボランティア教育の推進」が 7.1 ポイント、「市民活動の相談窓口の充実」が 5.4 ポイント減少している。

■ 「消費生活」について

消費生活について

(9) 「消費生活センター」の役割や業務内容の認知度

問12 あなたは「消費生活センター」の役割や業務内容を知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。



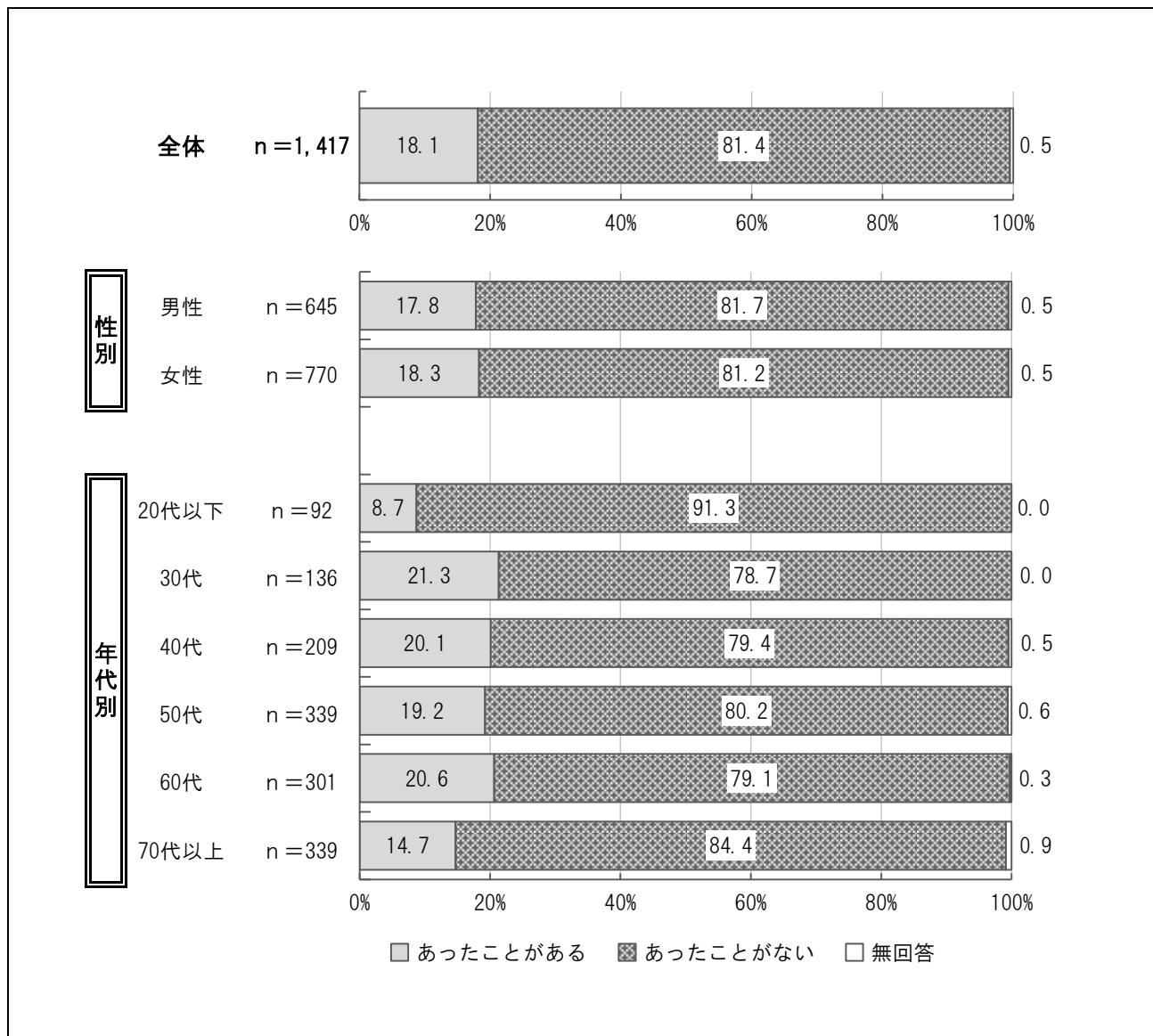
「消費生活センター」の役割や業務内容の認知度は、「名前も業務内容も知っていた」が 30.4%、「名前は聞いたことがあったが、業務内容までは知らなかった」が 49.5%、「名前も業務内容も知らなかった」が 19.3% となっている。

性別で見ると、男性において「名前も業務内容も知らなかった」が 23.3% と女性より多くなっている。女性においては「名前も業務内容も知っていた」が 34.2% と男性より多くなっている。

年代別では、20 代以下において「名前は聞いたことがあったが、業務内容までは知らなかった」が 60.9% とほかの年代と比べて多く、「名前も業務内容も知っていた」が 17.4% と少なくなっている。「名前も業務内容も知らなかった」は、30 代において 32.4% と多く、30 代以上の年代は年代が上がるごとに少なくなっている。

(10) 消費者トラブルにあった経験の有無

問13 あなたは過去に、消費者トラブルにあったことはありますか。次の中から1つだけ選んでください（例えば、問題のある勧誘をされた、商品やサービスの契約をして事業者とトラブルになった、購入・利用した商品やサービスに不具合があったなど）。



消費者トラブルにあった経験の有無は、「あつたことがある」が 18.1%、「あつたことがない」が 81.4% となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、20 代以下において「あつたことがない」が 91.3% とほかの年代と比べて多く、9 割を超えていている。

(11) 消費者トラブルにあったときの相談先

■ 問13で「あったことがある」と答えた人のみ

問13-1 消費者トラブルにあったときには、どこかに相談しましたか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。

n=256

家族、親戚

0 10 20 30 40 (%)

32.0

消費生活センター

30.1

商品の提供元であるメーカーなどの事業者

23.0

友人、知人

16.0

学校の先生

0.0

その他

7.0

どこにも相談しなかった

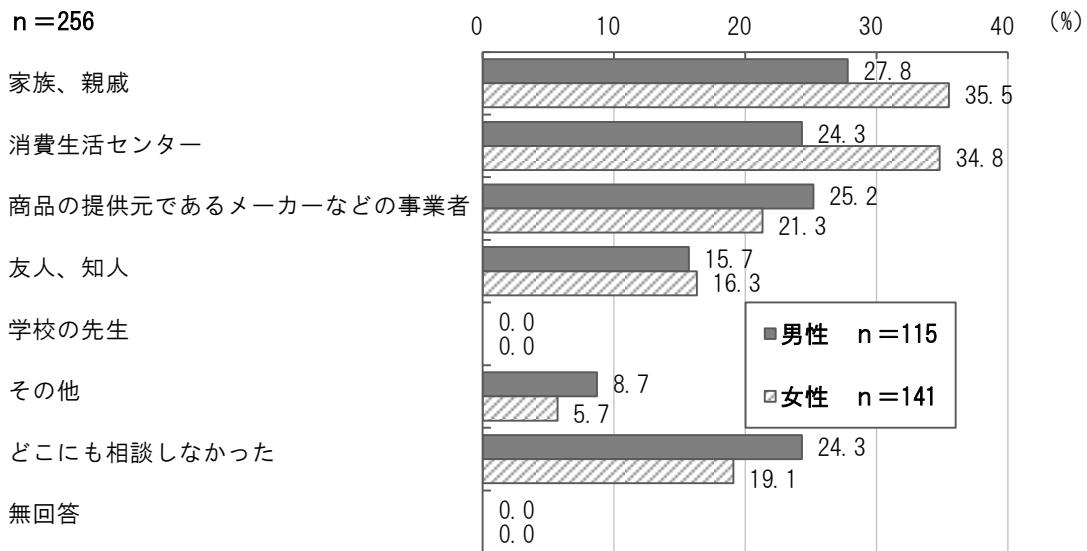
21.5

無回答

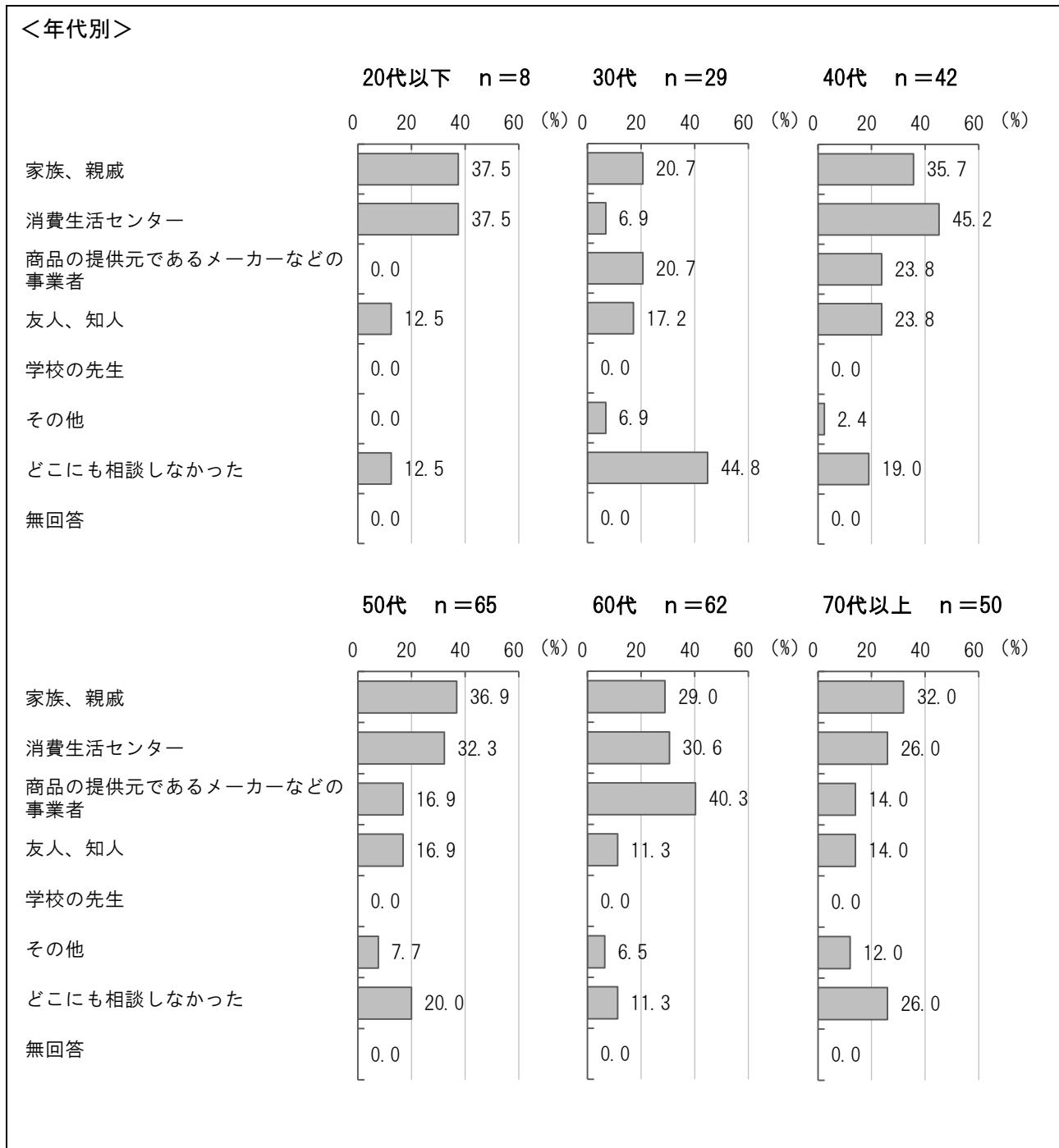
0.0

消費者トラブルにあったときの相談先は、「家族、親戚」が 32.0%と最も多く、次いで「消費生活センター」が 30.1%、「商品の提供元であるメーカーなどの事業者」が 23.0%となっている。

<性別>



性別で見ると、男性において「商品の提供元であるメーカーなどの事業者」「どこにも相談しなかった」が女性より多くなっている。女性においては「家族、親戚」「消費生活センター」が男性より多くなっている。



年代別では、件数の少ない20代を除くと、30代において「どこにも相談しなかった」が44.8%とほかの年代と比べて多く、「家族、親戚」「消費生活センター」が少なくなっている。40代においては、「消費生活センター」「友人、知人」が多くなっている。また、60代においては「商品の提供元であるメーカーなどの事業者」が40.3%と多く、「どこにも相談しなかった」が11.3%と少なくなっている。

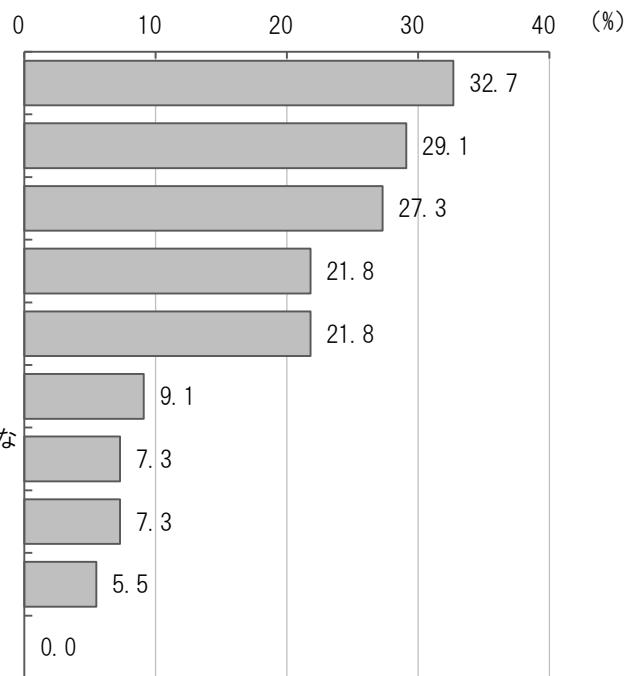
(12) どこにも相談しなかった理由

■ 問13-1で「どこにも相談しなかった」と答えた人のみ

問13-1-1 どこにも相談しなかった理由は何ですか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。

n=55

- 自分にも責任があると思った
- どこに相談すればよいのか分からなかった
- 相談しても解決しないと思った
- 相談せず自分で解決しようとした
- 相談するほどの被害ではなかった
- 相談する適切な相手がいなかった
- 消費者トラブルにあったことを知られたくない
- その他
- 特に理由はない
- 無回答

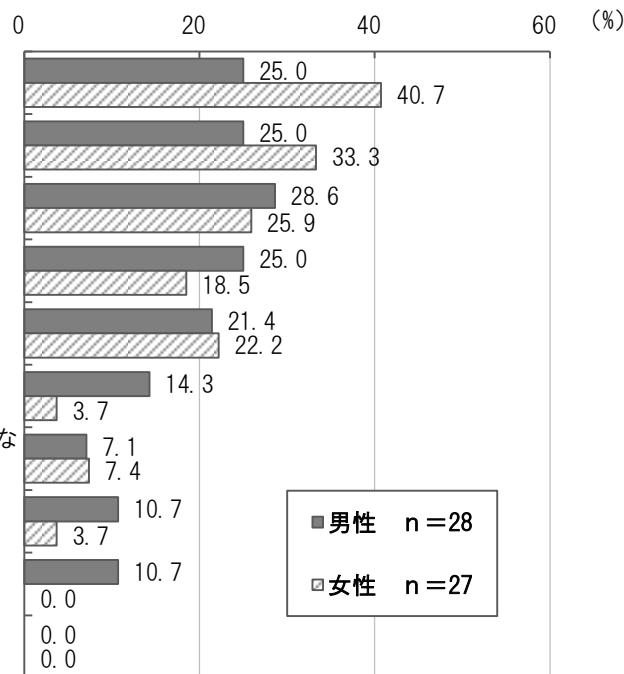


どこにも相談しなかった理由は、「自分にも責任があると思った」が 32.7%と最も多く、次いで「どこに相談すればよいのか分からなかった」が 29.1%、「相談しても解決しないと思った」が 27.3%となっている。

<性別>

n = 55

自分にも責任があると思った



性別で見ると、男性において「相談しても解決しないと思った」が最も多く 28.6%で、「相談せず自分で解決しようとした」「相談する適切な相手がいなかった」が女性より多くなっている。女性においては「自分にも責任があると思った」が最も多く 40.7%で、「どこに相談すればよいのか分からなかった」が男性より多くなっている。

<年代別>

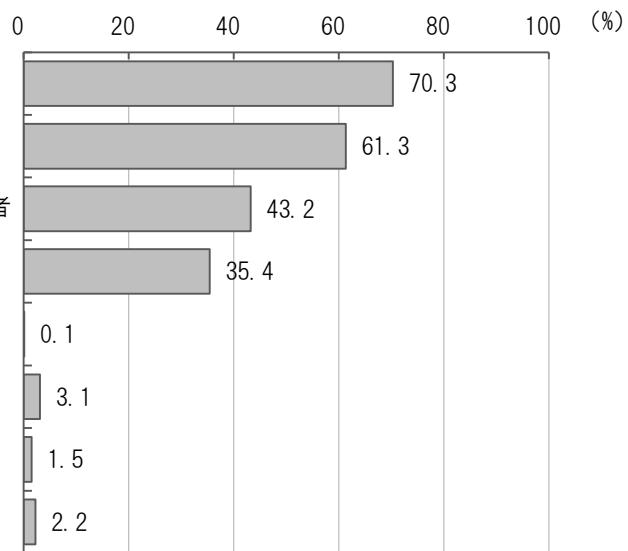
| (人) | | | | | | | | | | | |
|--------|--------|---------------|---------------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|---------------------------|-----|---------|-----|
| | 全 体 | 自分にも責任があると思った | どこに相談すればよいのか分からなかつた | 相談しても解決しないと思った | 相談せず自分で解決しようとした | 相談するほどの被害ではなかつた | 相談する適切な相手がいなかつた | 消費者トラブルにあつたことを知られたくないなかつた | その他 | 特に理由はない | 無回答 |
| 全 体 | 55 | 18 | 16 | 15 | 12 | 12 | 5 | 4 | 4 | 3 | - |
| 20 代以下 | 1 | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 30 代 | 13 | 2 | 5 | 2 | 4 | 5 | 2 | 1 | 2 | - | - |
| 40 代 | 8 | 3 | 1 | 3 | 2 | 1 | - | - | 1 | 1 | - |
| 50 代 | 13 | 2 | 5 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | - | 1 | - |
| 60 代 | 7 | 3 | 1 | 3 | 1 | 2 | - | 1 | - | 1 | - |
| 70 代以上 | 13 | 7 | 4 | 3 | 4 | 3 | 2 | 1 | 1 | 0 | - |

(13) もし消費者トラブルにあった場合の相談先

■ 問13で「あったことがない」と答えた人のみ

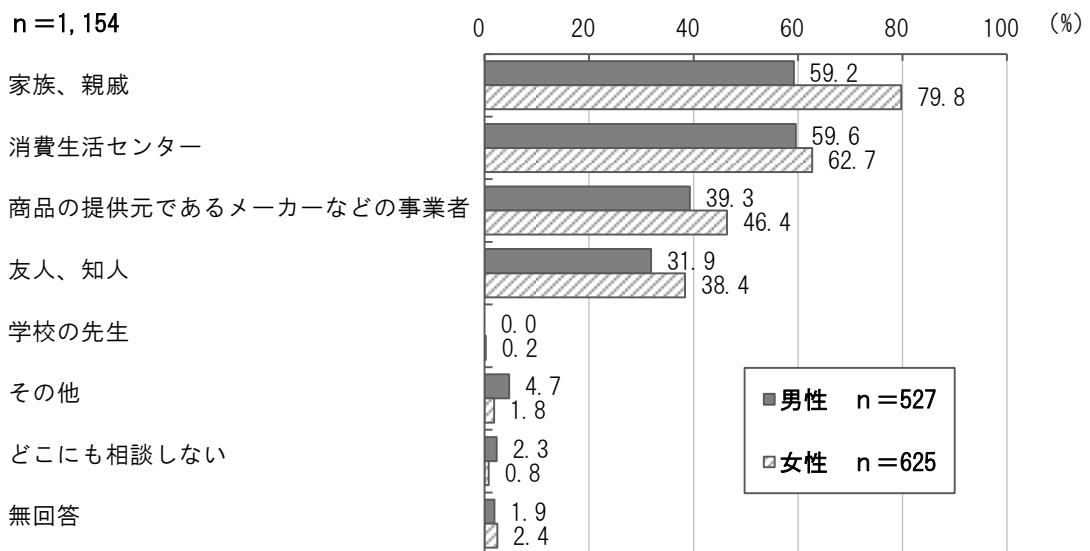
問13-2 もし消費者トラブルにあった場合には、どこに相談しますか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。

n = 1,154

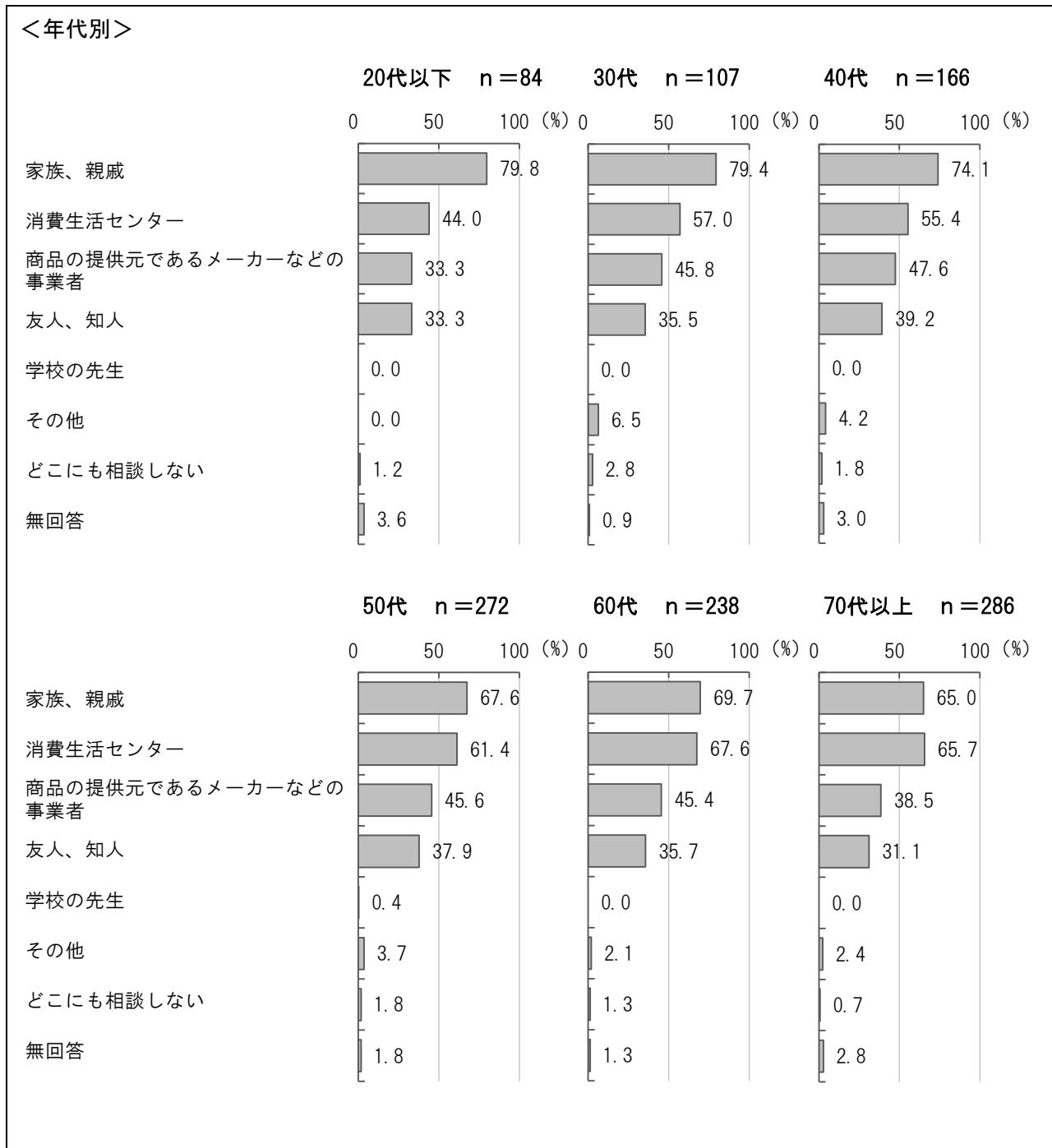


もし消費者トラブルにあった場合の相談先は、「家族、親戚」が 70.3%と最も多く、次いで「消費生活センター」が 61.3%、「商品の提供元であるメーカーなどの事業者」が 43.2%となっている。

<性別>



性別で見ると、女性において「家族、親戚」が 79.8% と最も多く、次いで「消費生活センター」、「商品の提供元であるメーカーなどの事業者」、「友人、知人」と男性より多くなっている。



年代別では、20代において「消費生活センター」「商品の提供元であるメーカーなどの事業者」がほかの年代と比べて少なくなっている。

(14) 消費生活問題に対する市に望む取組

問14 消費生活問題に対する市に望む取組はどのようなことですか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。

n=1,417

消費者被害・トラブルの実態や対処方法、相談窓口などの情報を提供してほしい

高齢者・障害者に対する消費者啓発^{※1}を充実してほしい

商品・サービスの事故などのリコール情報を提供してほしい

学生・若者に対する消費者啓発^{※1}を充実してほしい

地域で高齢者・障害者の見守りをしている人への情報提供や関係機関のネットワークを充実してほしい

学生・若者・高齢者・障害者以外に対する消費者啓発^{※1}を充実してほしい

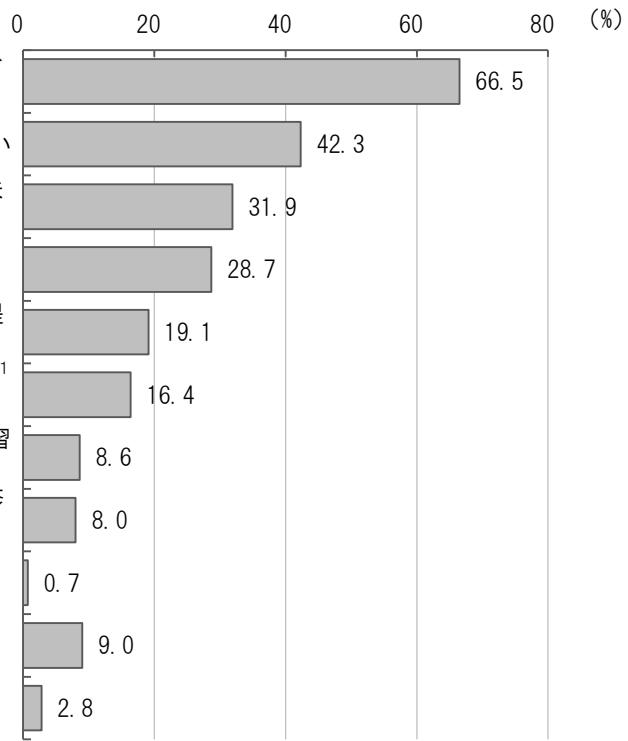
持続可能な社会の実現に向けた消費行動^{※2}に関して学習できる機会を増やしてほしい

消費者教育の人材（担い手）の育成・活用のための研修などを充実してほしい

その他

特はない

無回答



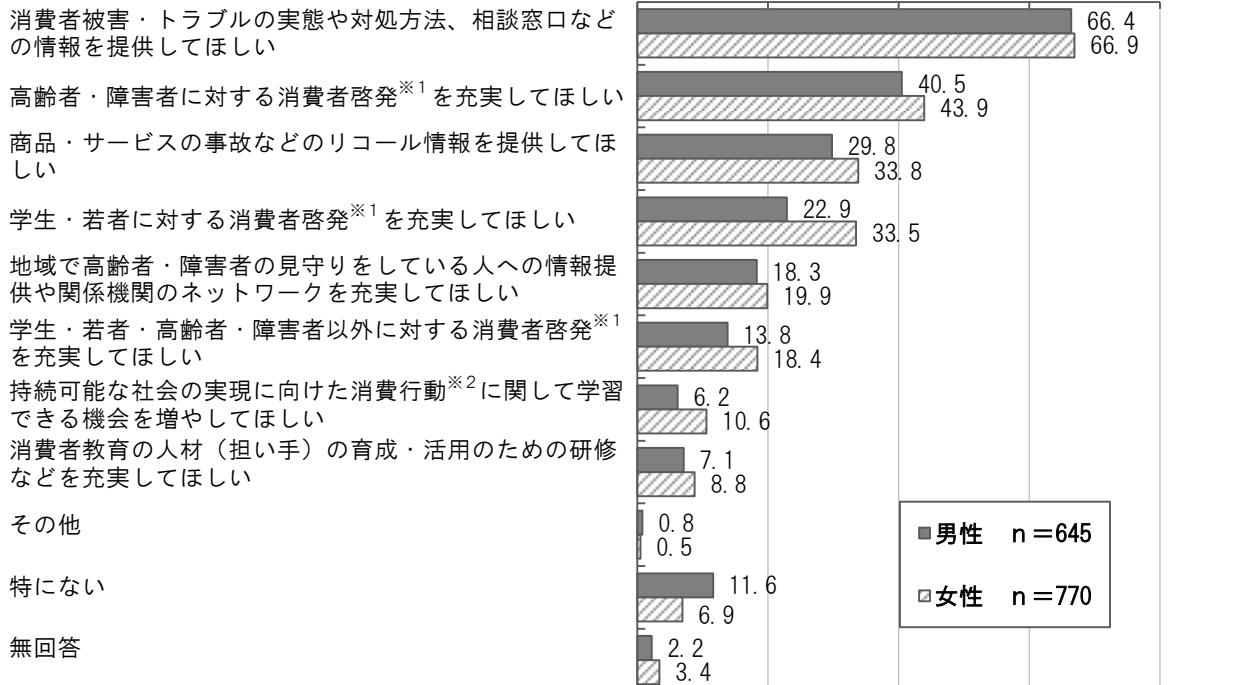
※1 「消費者被害・トラブル防止のための消費者啓発（講座、イベントなど）」を省略して表記している。

※2 「消費行動（エシカル消費やSDGs）」を省略して表記している。

消費生活問題に対する市に望む取組は、「消費者被害・トラブルの実態や対処方法、相談窓口などの情報を提供してほしい」が 66.5%と最も多く、次いで「高齢者・障害者に対する消費者被害・トラブル防止のための消費者啓発（講座、イベントなど）を充実してほしい」が 42.3%、「商品・サービスの事故などのリコール情報を提供してほしい」が 31.9%となっている。

<性別>

n=1,417

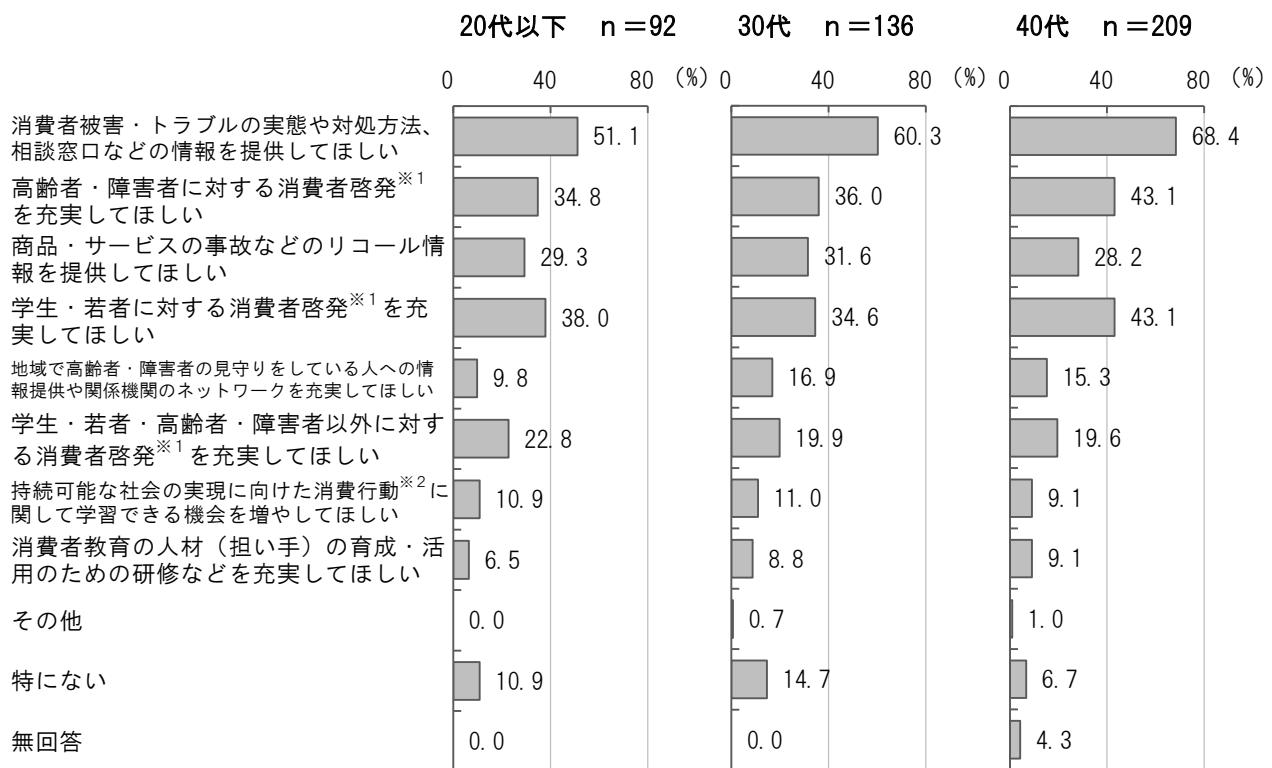


※1 「消費者被害・トラブル防止のための消費者啓発（講座、イベントなど）」を省略して表記している。

※2 「消費行動（エシカル消費やSDGs）」を省略して表記している。

性別で見ると、女性において「学生・若者に対する消費者被害・トラブル防止のための消費者啓発（講座、イベントなど）を充実してほしい」が33.5%と、男性の22.9%と比べて多くなっている。

<年代別①>

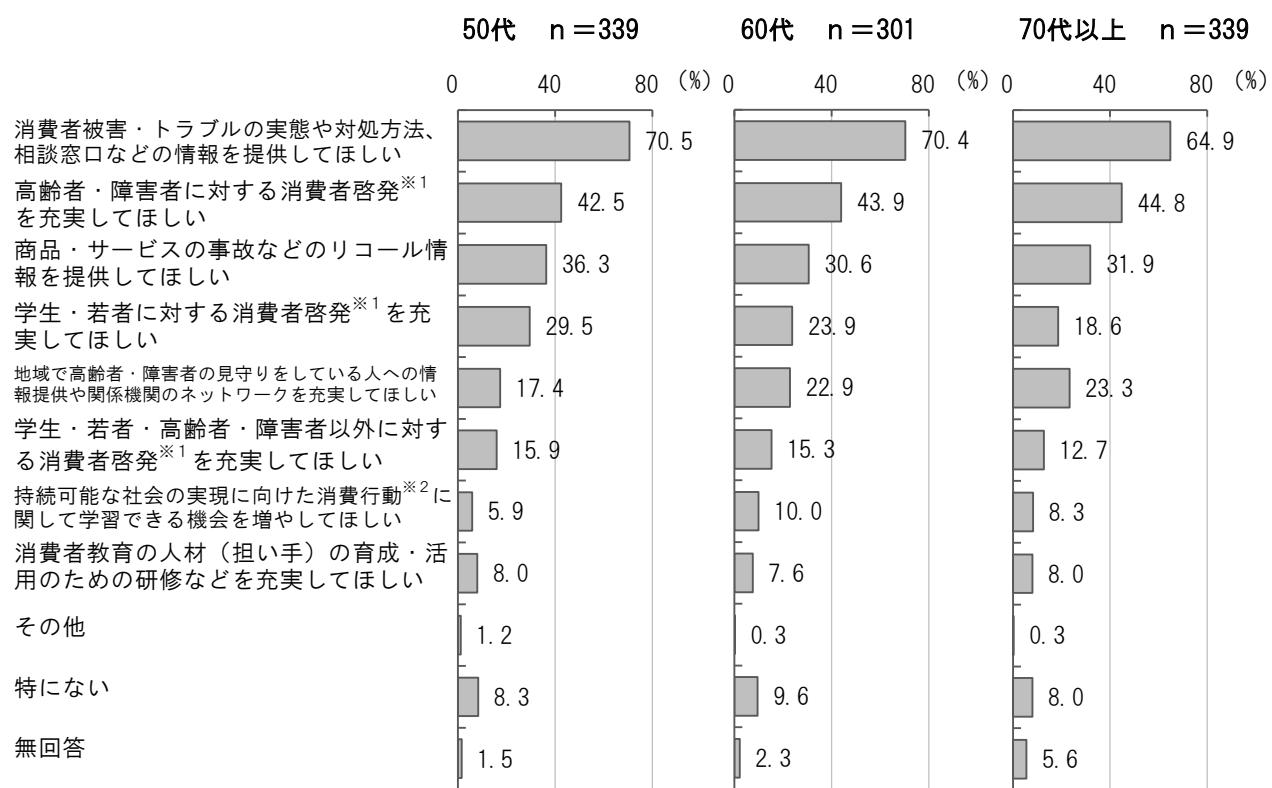


※1 「消費者被害・トラブル防止のための消費者啓発（講座、イベントなど）」を省略して表記している。

※2 「消費行動（エシカル消費やSDGs）」を省略して表記している。

年代別では、20代以下において「消費者被害・トラブルの実態や対処方法、相談窓口などの情報を提供してほしい」「地域で高齢者・障害者の見守りをしている人への情報提供や関係機関のネットワークを充実してほしい」がほかの年代と比べて少なくなっている。40代においては、「学生・若者に対する消費者被害・トラブル防止のための消費者啓発（講座、イベントなど）を充実してほしい」が43.1%と多くなっている。また、70代以上においては、「学生・若者に対する消費者被害・トラブル防止のための消費者啓発（講座、イベントなど）を充実してほしい」が18.6%と少なくなっている。

<年代別②>

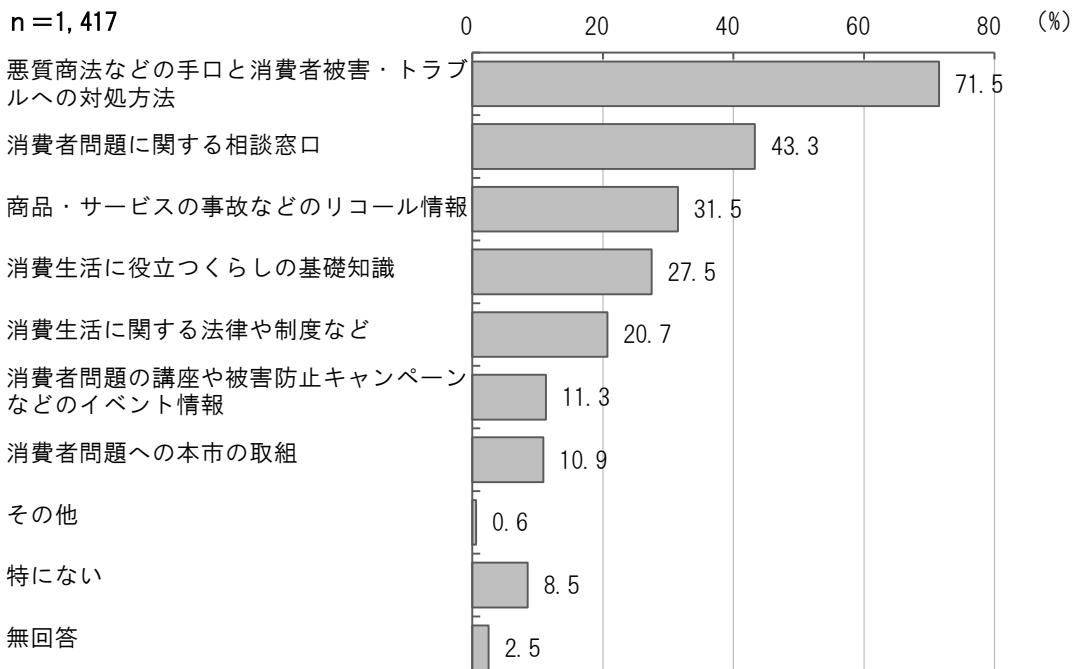


※1 「消費者被害・トラブル防止のための消費者啓発（講座、イベントなど）」を省略して表記している。

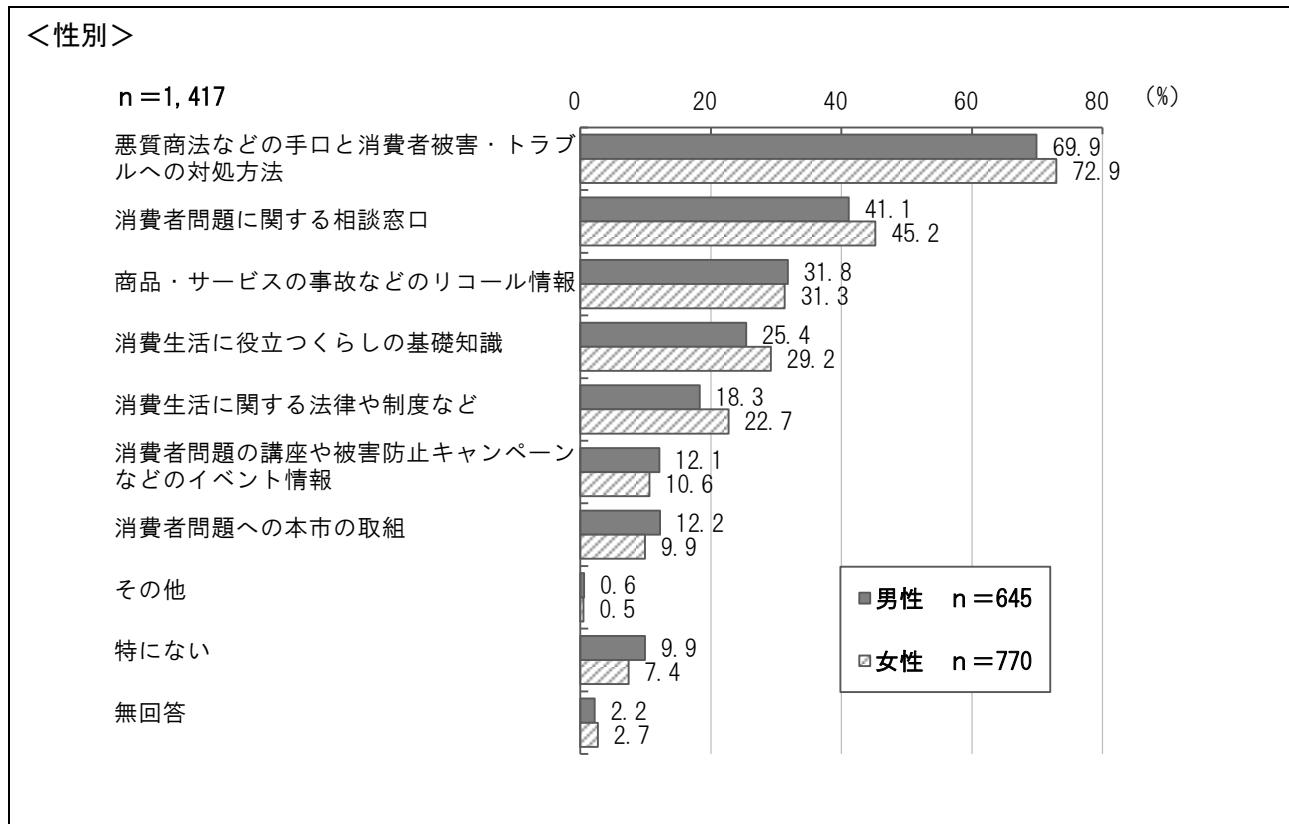
※2 「消費行動（エシカル消費やSDGs）」を省略して表記している。

(15) 消費生活に関して、欲しいと感じる情報

問15 消費生活に関して、欲しいと感じる情報はどのようなことですか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。

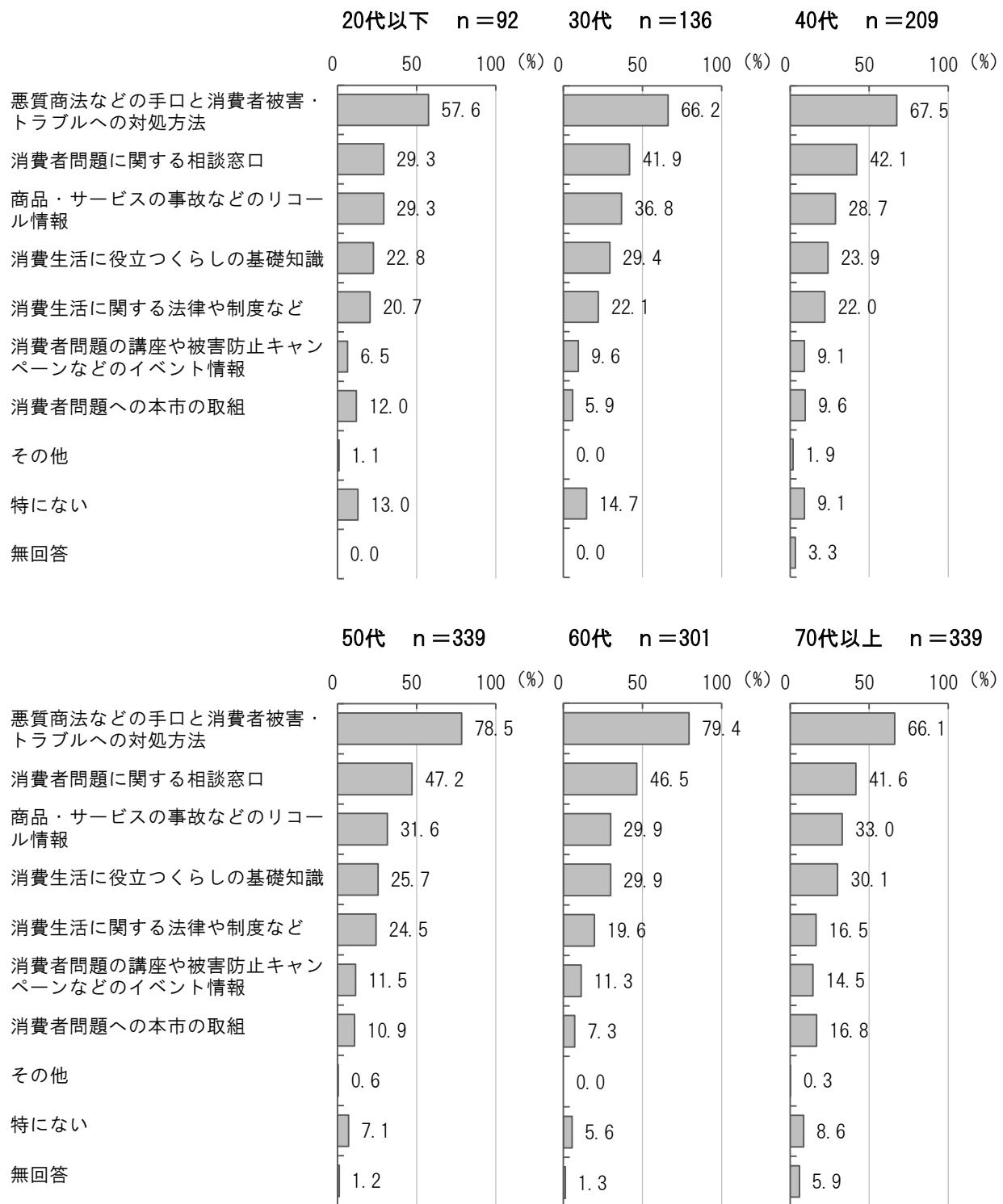


消費生活に関して、欲しいと感じる情報は、「悪質商法などの手口と消費者被害・トラブルへの対処方法」が 71.5% と最も多く、次いで「消費者問題に関する相談窓口」が 43.3%、「商品・サービスの事故などのリコール情報」が 31.5% となっている。



性別で見ると、大きな差異は見られない。

<年代別>



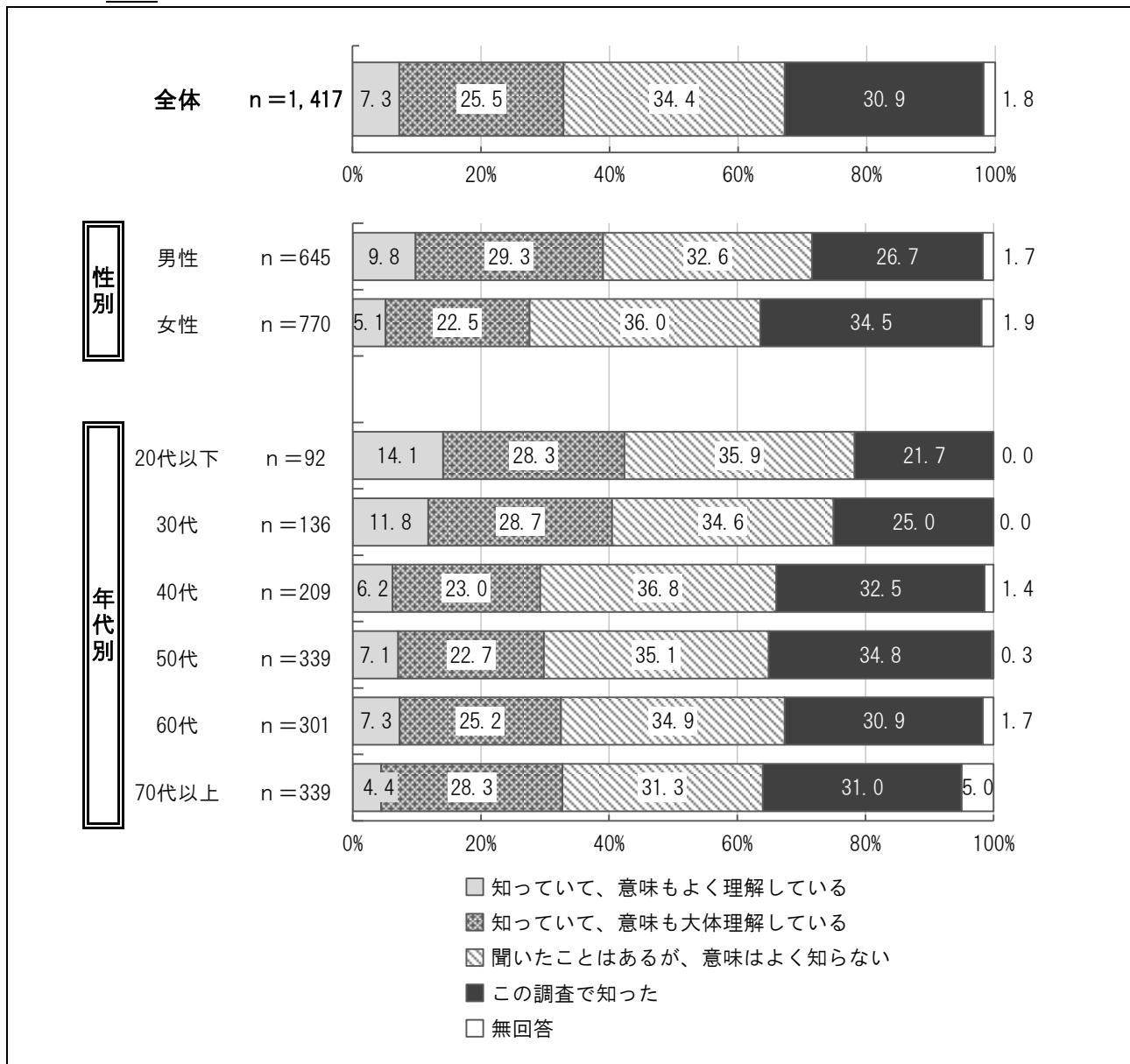
年代別では、20代以下において「悪質商法などの手口と消費者被害・トラブルへの対処方法」「消費者問題に関する相談窓口」がほかの年代と比べて少なくなっている。

■ 「生物多様性」について

生物多様性について

(16) 生物多様性という言葉の認知度

問17 あなたは、生物多様性という言葉を知っていますか。次の中から当てはまるものを1つだけ選んでください。

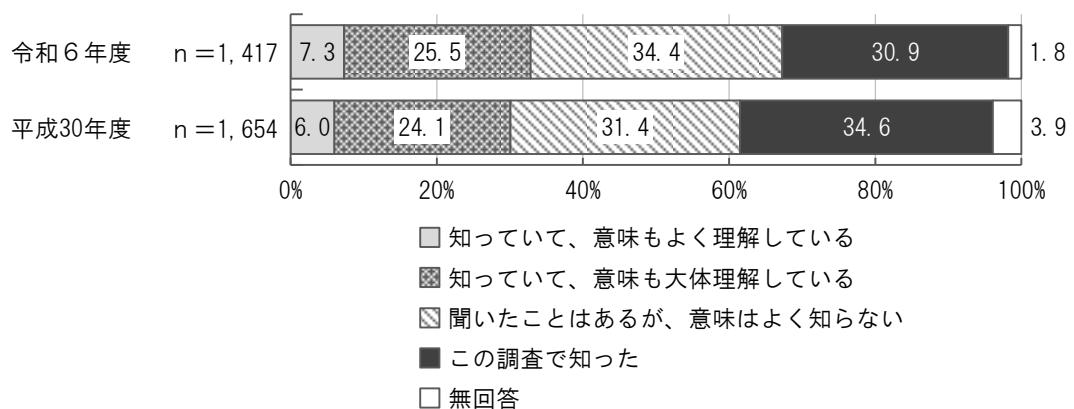


生物多様性という言葉の認知度は、『知っている』（「知っていて、意味もよく理解している」 + 「知っていて、意味も大体理解している」）が 32.8%、『知らない』（「聞いたことはあるが、意味はよく知らない」 + 「この調査で知った」）が 65.3% となっている。

性別で見ると、男性において「知っていて、意味もよく理解している」が 9.8%、「知っていて、意味も大体理解している」が 29.3% と女性より多くなっている。女性においては「この調査で知った」が 34.5% と男性より多くなっている。また、『知っている』は男性において 39.1% と女性の 27.5% と比べて多くなっている。

年代別では、『知っている』は 20 代以下において 42.4%、30 代においては 40.4% とほかの年代と比べて多くなっている。

<経年比較>

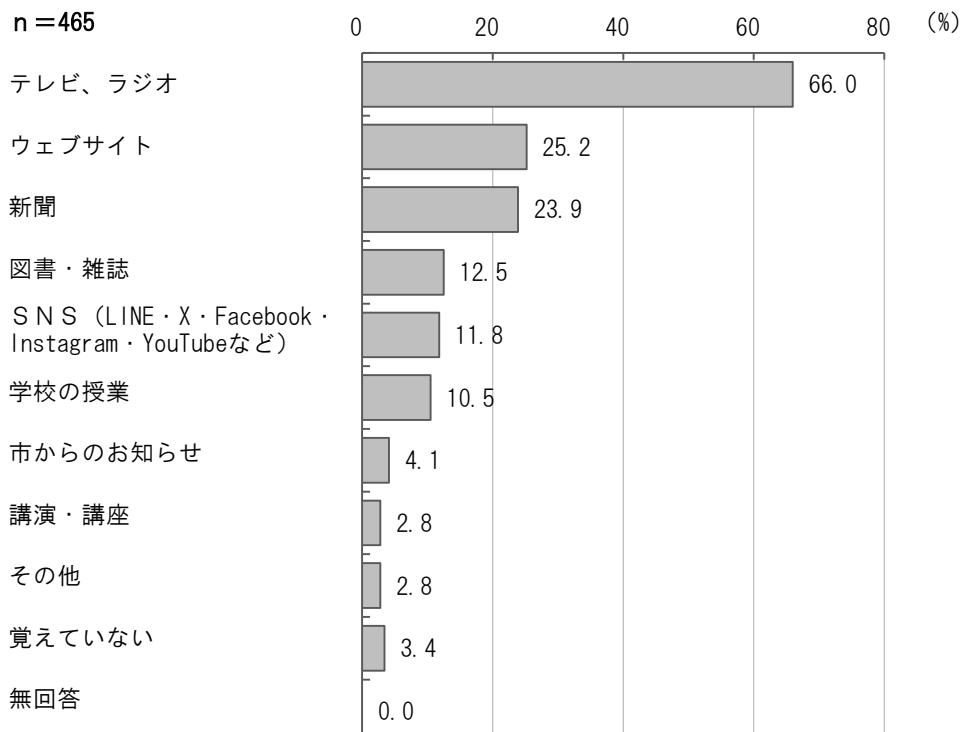


平成 30 年度の調査結果と比較すると、大きな変化は見られない。

(17) 生物多様性という言葉を知ったきっかけ

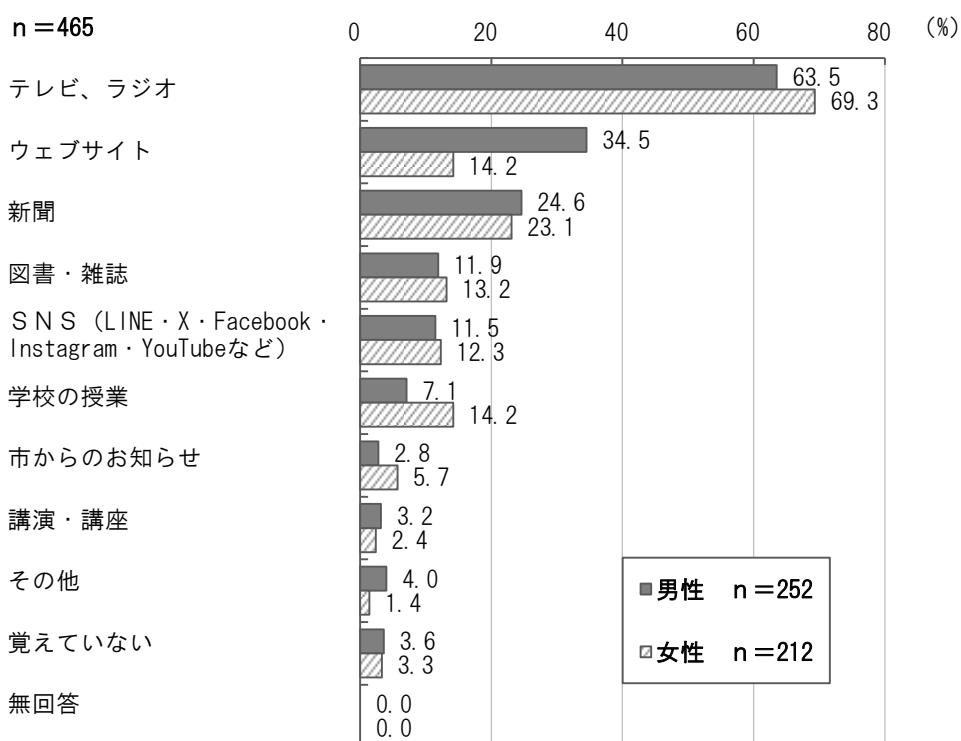
■ 問17で「知っていて、意味もよく理解している」「知っていて、意味も大体理解している」と答えた人のみ

問17－1 あなたが「生物多様性」という言葉を何で知ったかを、次の中から2つ以内で選んでください。

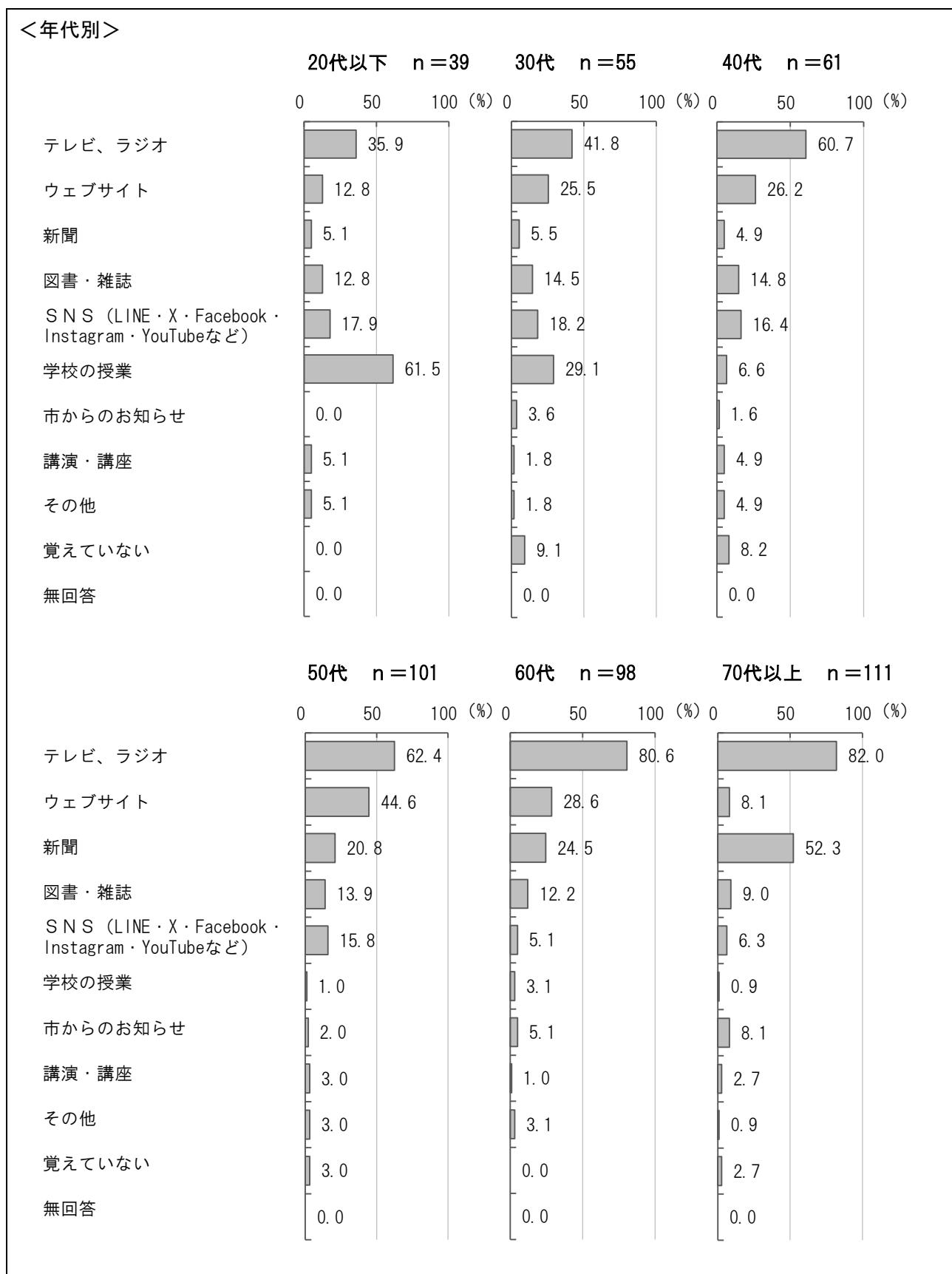


生物多様性という言葉を知ったきっかけは、「テレビ、ラジオ」が 66.0%と最も多く、次いで「ウェブサイト」が 25.2%、「新聞」が 23.9%となっている。

<性別>

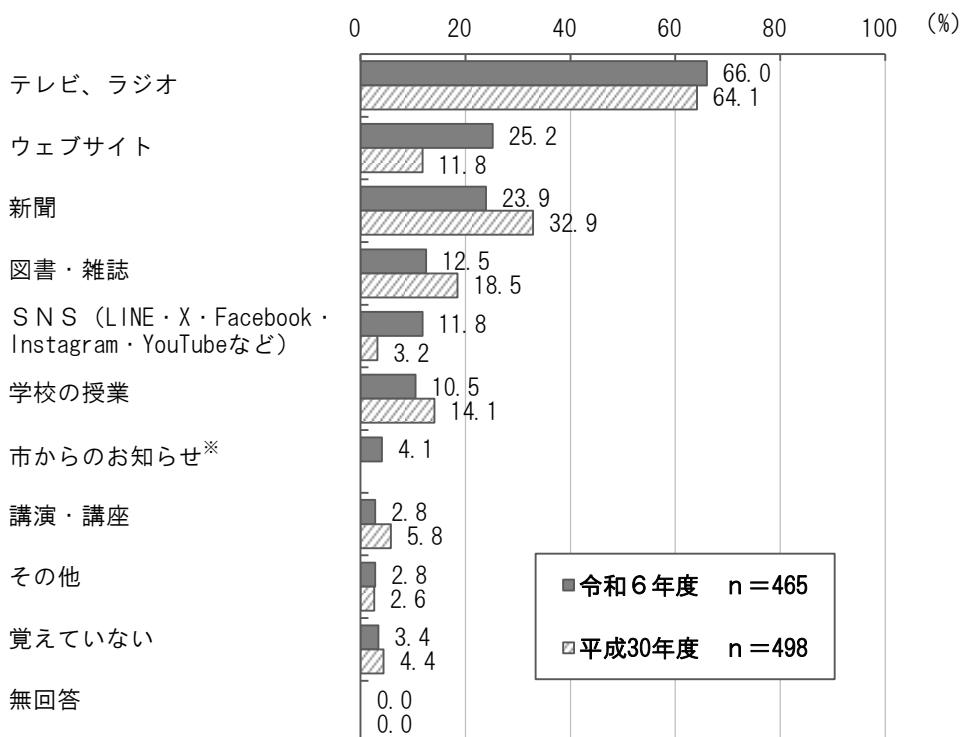


性別で見ると、男性において「ウェブサイト」が34.5%と女性より特に多くなっている。女性においては「学校の授業」が14.2%と男性より特に多くなっている。



年代別では、20代において「学校の授業」が61.5%とほかの年代と比べて多く、「テレビ、ラジオ」が35.9%とほかの年代と比べて少なくなっている。50代においては「ウェブサイト」が44.6%、70代以上においては「新聞」が52.3%とほかの年代と比べて多くなっている。

<経年比較>



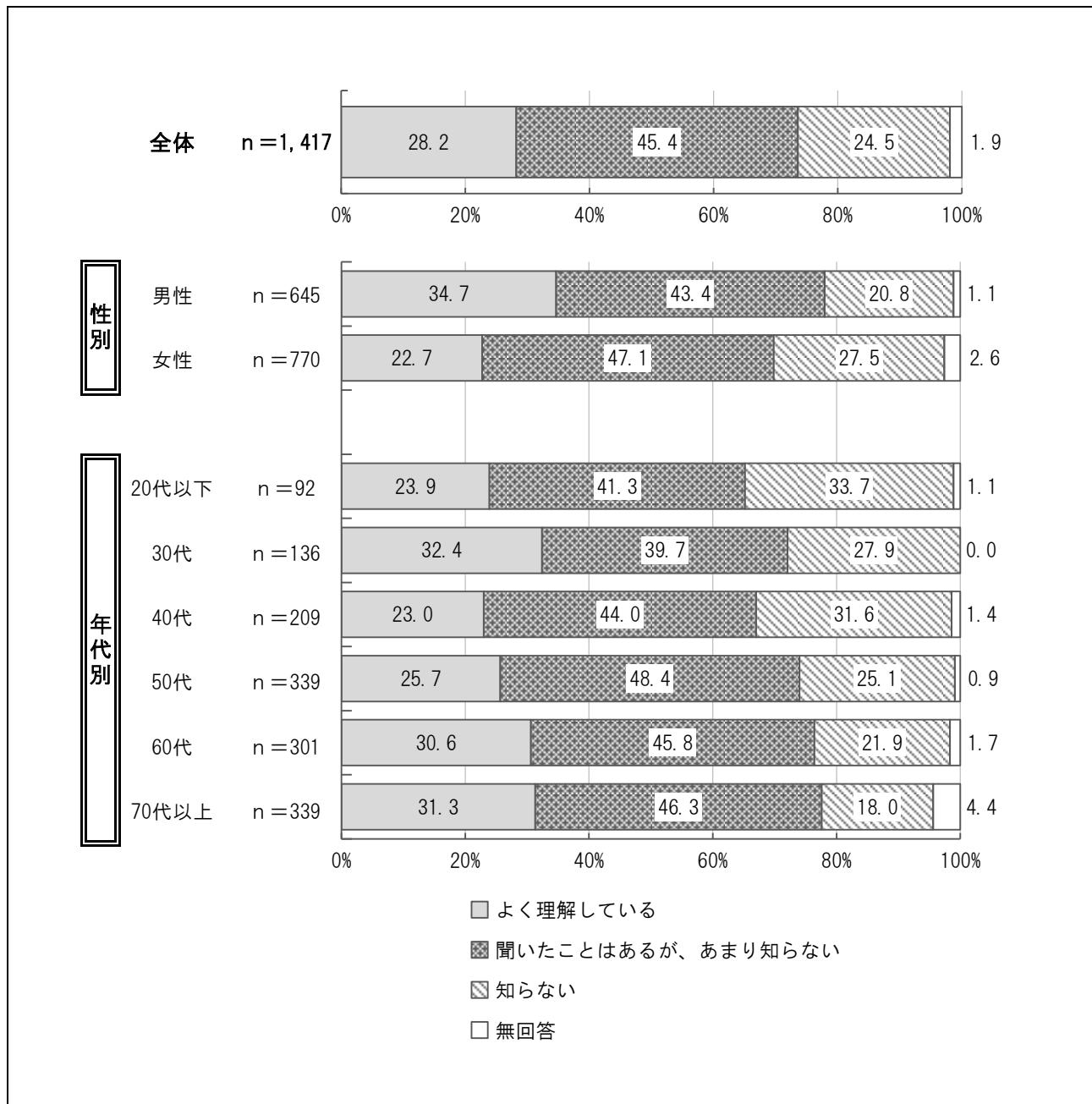
※「市からのお知らせ」は、平成30年度の調査の設問には入っていない。

平成30年度の調査結果と比較すると、「ウェブサイト」が13.4ポイント、「SNS」が8.6ポイント増加し、「新聞」が9.0ポイント、「図書・雑誌」が6.0ポイント減少している。

(18) 里地里山にいる生きものが絶滅の危機にあることの認知度

問18 あなたは、里地里山^{*}にいる生きもの（メダカなど）が絶滅の危機にあることを知っていますか。次のなかから1つだけ選んでください。

^{*}「里地里山」とは、原生的な人の手が加えられていない自然と都市との中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林（雑木林、竹林など）、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成される地域のこと。

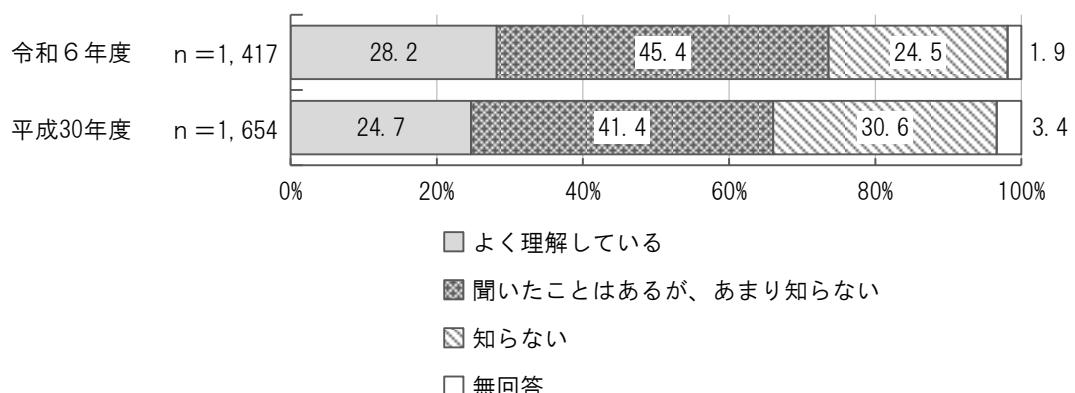


里地里山にいる生きものが絶滅の危機にあることの認知度は、「よく理解している」が 28.2%、「聞いたことはあるが、あまり知らない」が 45.4%、「知らない」が 24.5% となっている。

性別で見ると、男性において「よく理解している」が 34.7% と女性より多くなっている。女性においては「知らない」が 27.5% と男性より多くなっている。

年代別では、70 代以上において「知らない」が 18.0% と 2 割に満たない。

<経年比較>

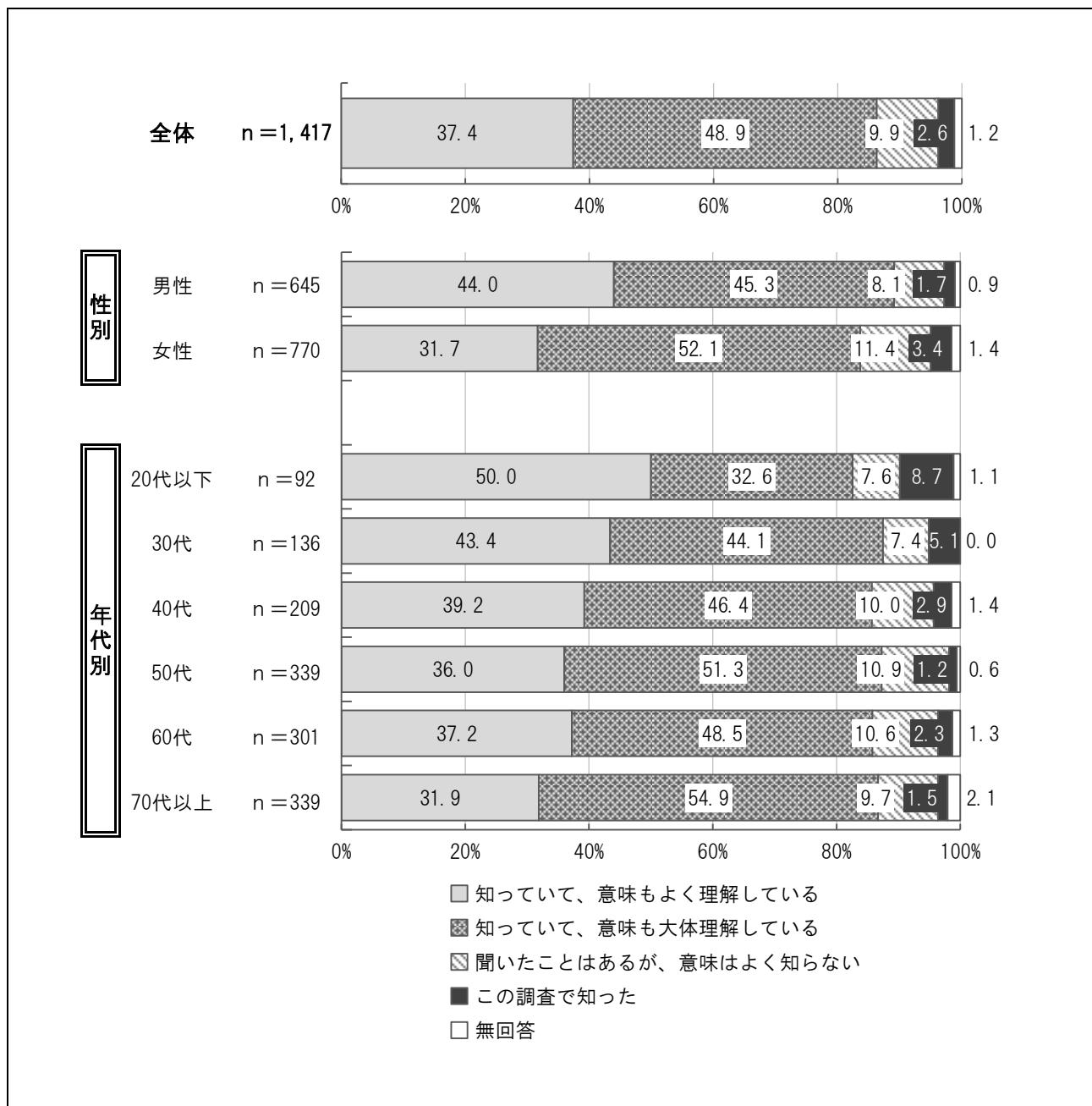


平成 30 年度の調査結果と比較すると、「知らない」が 6.1 ポイント減少している。

(19) 外来種という言葉の認知度

問19 あなたは、外来種*という言葉を知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

*「外来種」とは、もともとその地域に生息していなかったにも関わらず、人間の活動によって他の地域から入ってきた植物や動物のこと（セイタカアワダチソウ、オオキンケイギク、アメリカザリガニ、アカミミガメなど）。

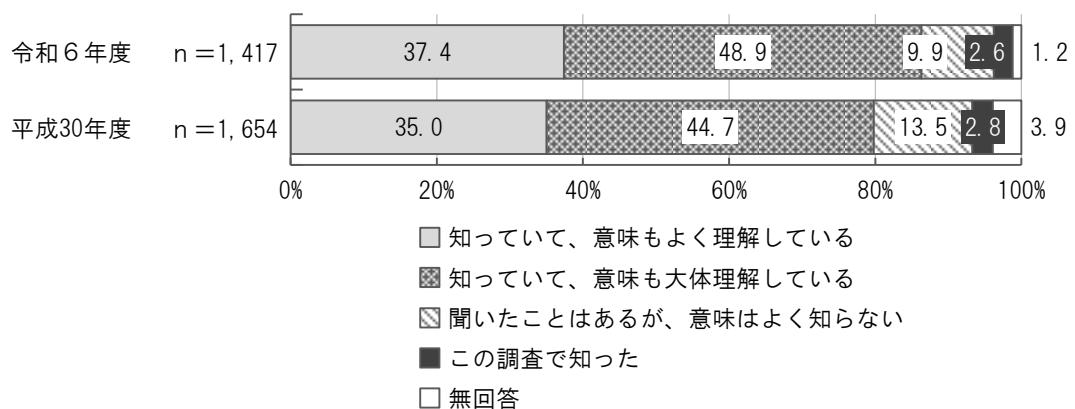


外来種という言葉の認知度は、『知っている』（「知っていて、意味もよく理解している」 + 「知っていて、意味も大体理解している」）が 86.3%、『知らない』（「聞いたことはあるが、意味はよく知らない」 + 「この調査で知った」）が 12.5% となっている。

性別で見ると、男性において「知っていて、意味もよく理解している」が 44.0% と女性より多くなっている。女性においては「知っていて、意味も大体理解している」が 52.1% と男性より多くなっている。また、『知っている』は男性において 89.3% と女性の 83.8% と比べて多くなっている。

年代別では、20 代以下において「知っていて、意味もよく理解している」が 50.0% とほかの年代と比べて多いが、「この調査で知った」もほかの年代と比べて多く、8.7% となっている。

<経年比較>



平成 30 年度の調査結果と比較すると、『知っている』が 6.6 ポイント増えている。

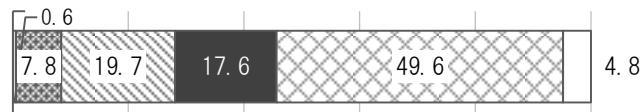
生物多様性保全活動について

(20) 富士市が実施している生物多様性保全活動事業の認知度と参加意向

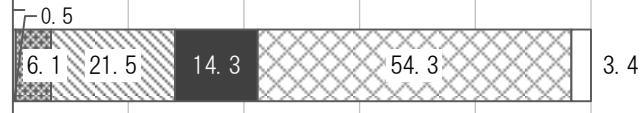
問20 あなたは、富士市が実施している下記の生物多様性保全活動事業について知っていますか。また、参加してみたいと思いますか。近いものを1つずつ選んで○をつけてください。

n=1,417

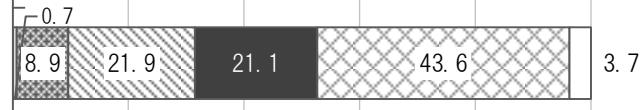
1 いきもの調査



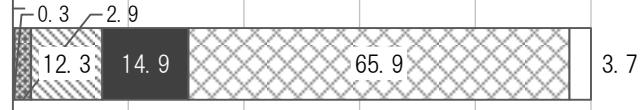
2 外来植物駆除作戦



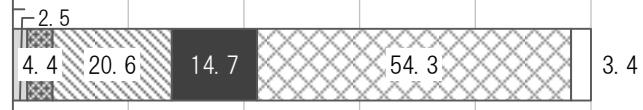
3 海岸美化作戦



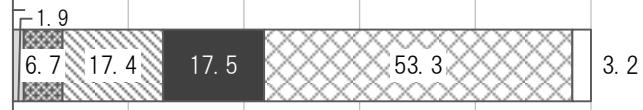
4 市の生物多様性ふじサポーター登録制度



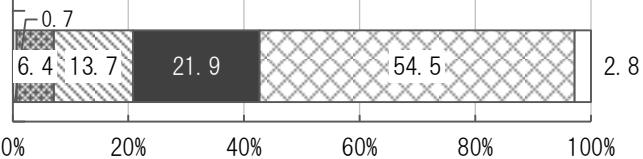
5 富士山麓ブナ林創造事業



6 自然観察会



7 里山体験講座



0% 20% 40% 60% 80% 100%

□ 知っている、参加したことがある
 ▨ 知っている、参加してみたい
 ▨ 知っている、参加したくない
 ■ 知らなかった、参加してみたい
 □ 知らなかった、参加したくない
 □ 無回答

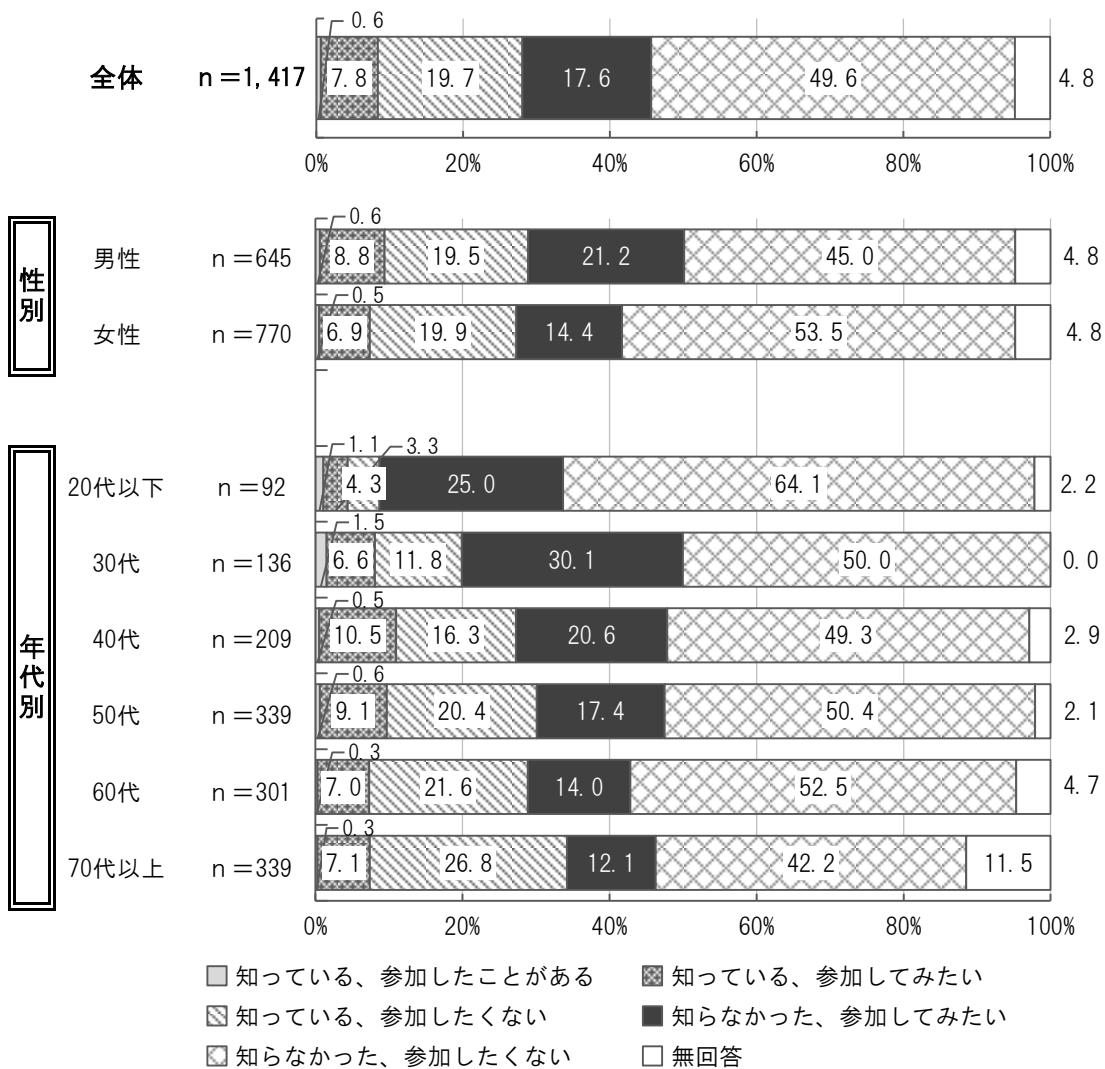
富士市が実施している生物多様性保全活動事業の認知度と参加意向において、『知っている』（「知っている、参加したことがある」 + 「知っている、参加してみたい」 + 「知っている、参加したくない」）、『参加してみたい』（「知っている、参加してみたい」 + 「知らなかった、参加してみたい」）がともに最も多い項目は、「海岸美化作戦」（『知っている』 31.5%、『参加してみたい』 30.0%）となっている。

一方、『知らなかった』（「知らなかった、参加してみたい」 + 「知らなかった、参加したくない」）、『参加したくない』（「知っている、参加したくない」 + 「知らなかった、参加したくない」）がともに最も多い項目は、「生物多様性ふじサポーター登録制度」（『知らなかった』 80.8%、『参加したくない』 78.2%）となっている。

※次ページ以降は、『知っている』は「知っている、参加したことがある」と「知っている、参加してみたい」と「知っている、参加したくない」、『知らなかった』は「知らなかった、参加してみたい」と「知らなかった、参加したくない」、『参加してみたい』は「知っている、参加してみたい」と「知らなかった、参加してみたい」、『参加したくない』は「知っている、参加したくない」と「知らなかった、参加したくない」を合わせたもの。

1 いきもの調査

(市内全域を対象にした生きものの生息生育状況調査)



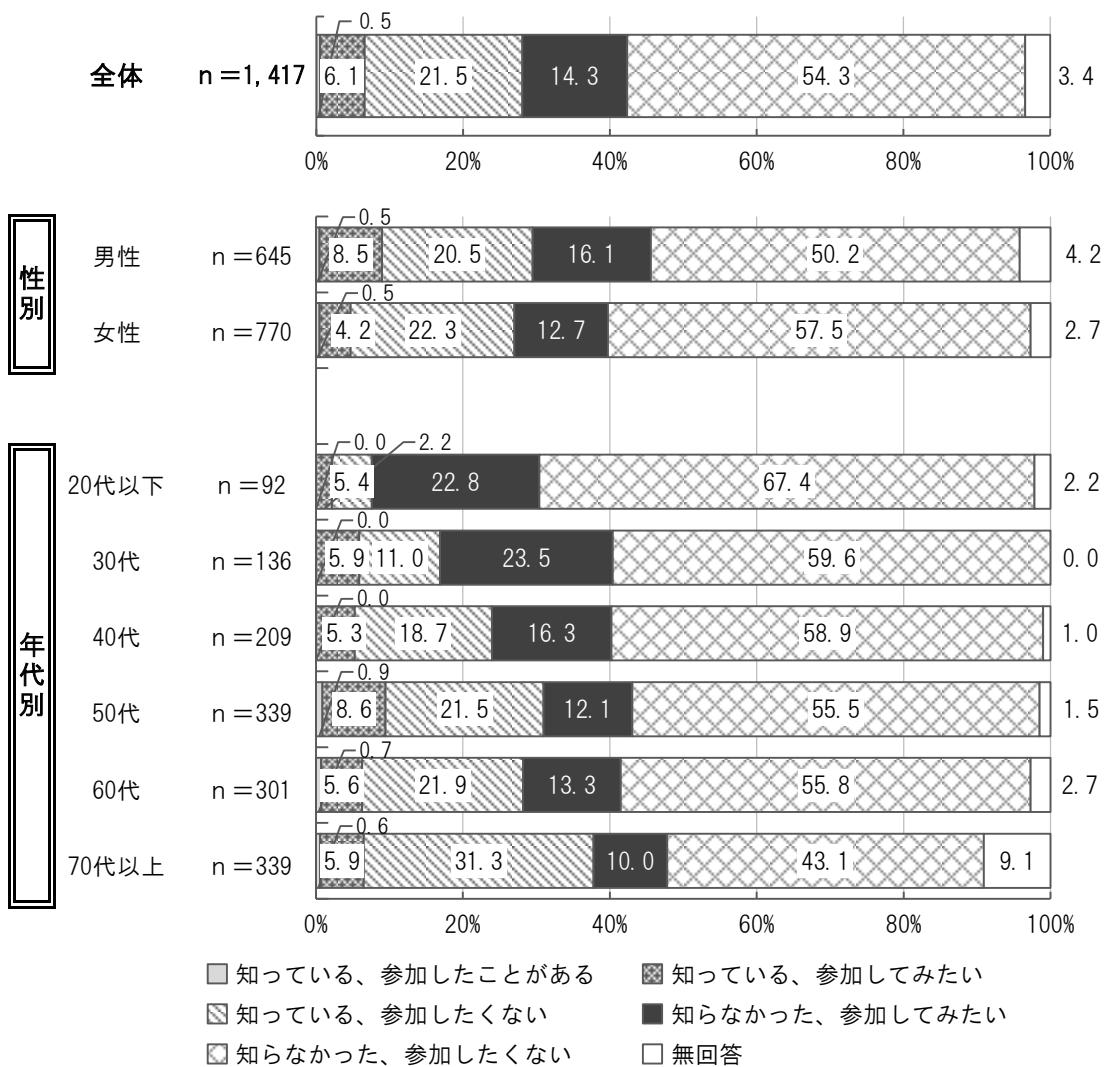
いきもの調査の認知度については、『知っている』が 28.0%、『知らなかつた』が 67.2%となっている。また、参加意向については、『参加してみたい』が 25.3%、『参加したくない』が 69.3%となっている。

性別で見ると、男性において「知らなかつた、参加してみたい」が 21.2%と女性より多くなっている。女性においては「知らなかつた、参加したくない」が 53.5%と男性より多くなっている。また、『参加してみたい』は男性において 30.1%と女性の 21.3%と比べて多くなっている。

年代別では、20 代以下において「知らなかつた、参加したくない」が 64.1%とほかの年代と比べて多くなっている。30 代においては「知らなかつた、参加してみたい」が 30.1%とほかの世代と比べて多くなっている。70 代以上においては「知っている、参加したくない」が 26.8%とほかの世代と比べて多くなっている。また、『知っている』は 20 代以下において 8.7%と少なく、年代が上がるごとにおおむね多くなっている。『参加してみたい』は 30 代において 36.8%とほかの世代と比べて多くなっている。

2 外来植物駆除作戦

(富士山麓と浮島ヶ原自然公園での外来植物の駆除)



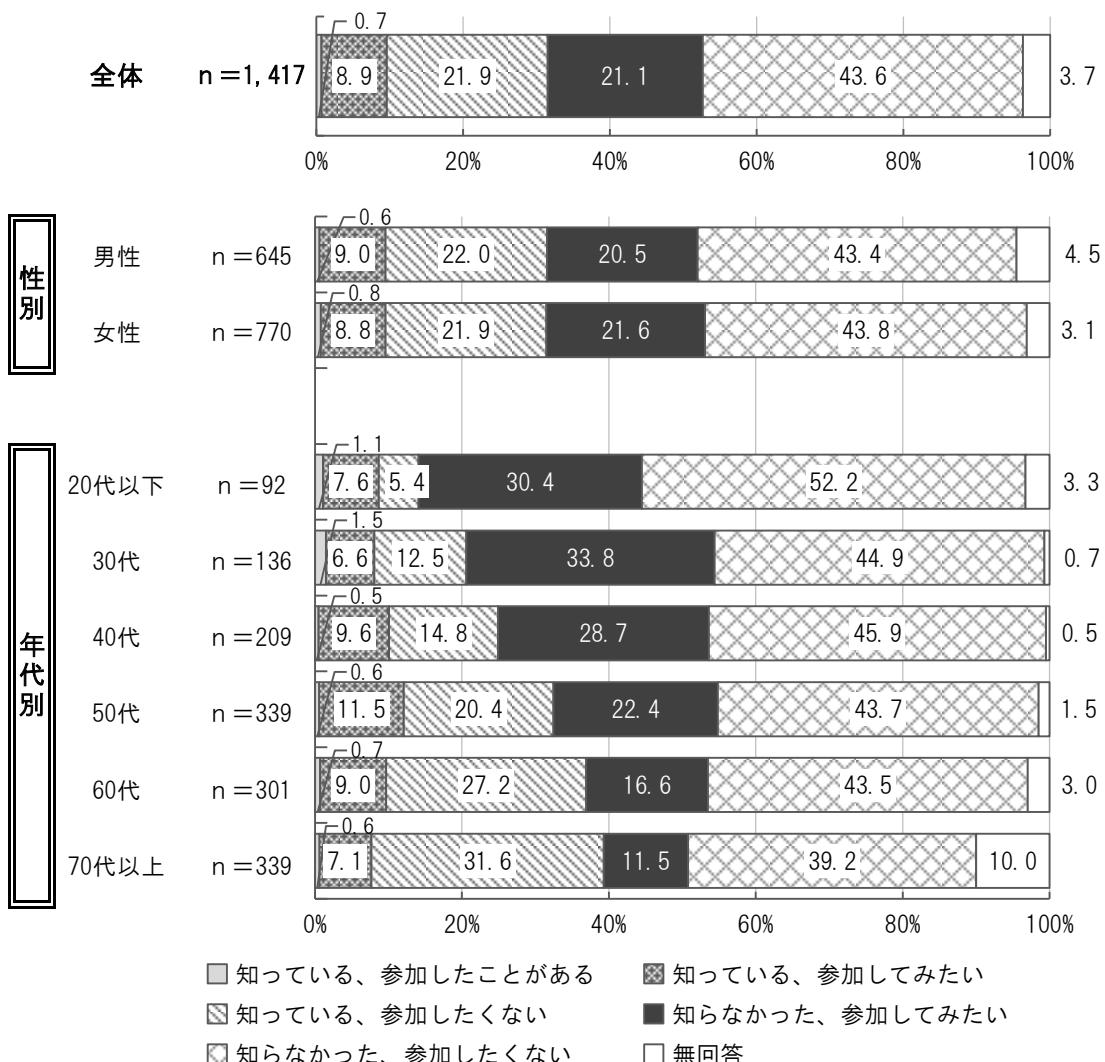
外来植物駆除作戦の認知度については、『知っている』が 28.1%、『知らないかった』が 68.5% となっている。また、参加意向については、『参加してみたい』が 20.4%、『参加したくない』が 75.7% となっている。

性別で見ると、女性において「知らなかった、参加したくない」が 57.5% と男性より多くなっている。また、『参加してみたい』は男性において 24.7% と女性の 16.9% と比べて多くなっている。

年代別では、ほかの年代に比べて『知っている』は 70 代以上が 37.8%、『知らない』は 20 代以下で 90.2% と最も多くなっている。

3 海岸美化作戦

(アカウミガメ産卵場所での海岸清掃)



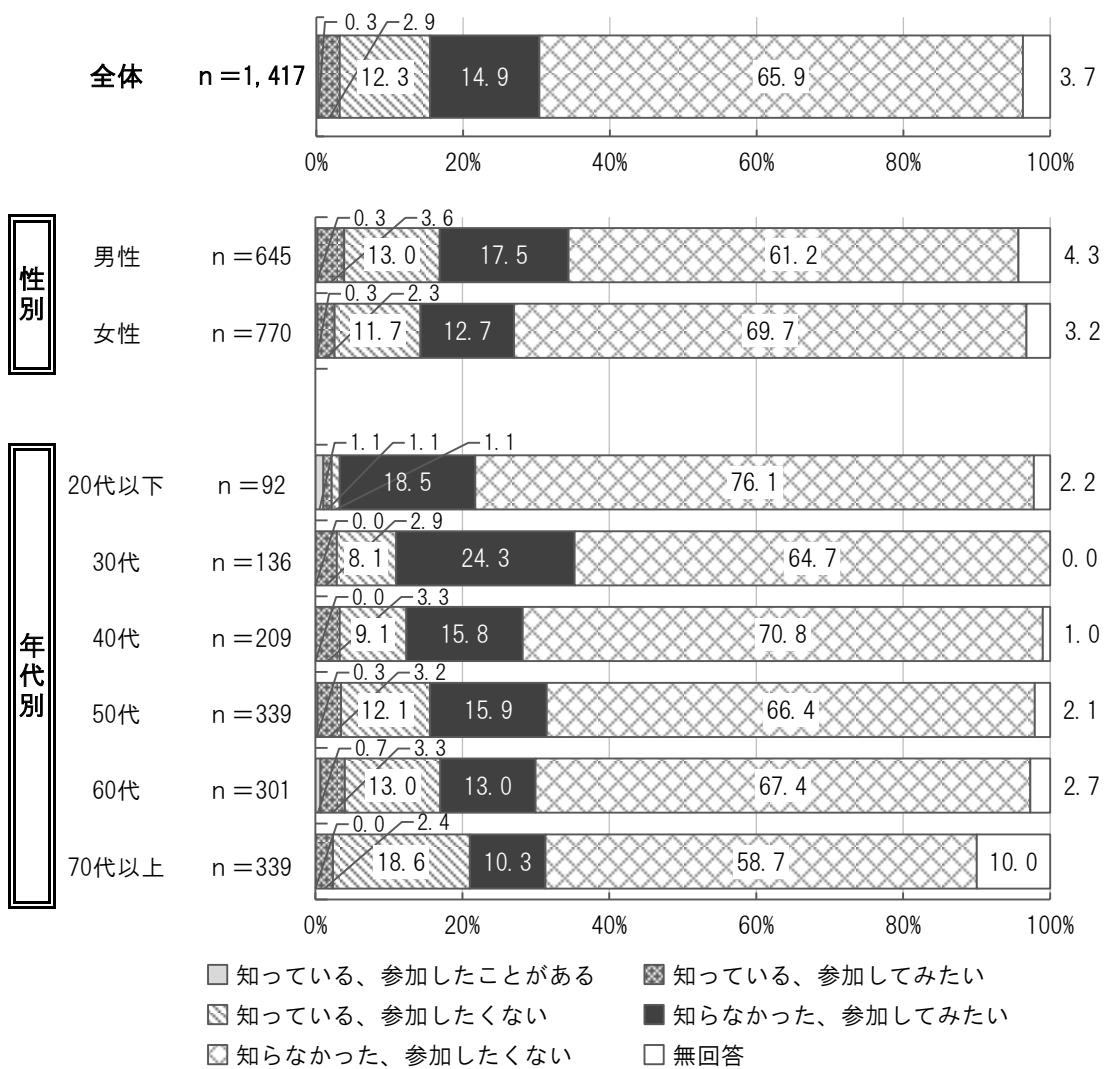
海岸美化作戦の認知度については、『知っている』が31.5%、『知らなかつた』が64.7%となっている。また、参加意向については、『参加してみたい』が30.0%、『参加したくない』が65.6%となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、20代以下において「知らなかつた、参加したくない」が52.2%とほかの年代と比べて多くなっている。70代以上においては「知らなかつた、参加してみたい」が11.5%とほかの年代と比べて少なくなっている。また、『知っている』は20代以下において14.1%とほかの年代と比べて少なく、年代が上がるごとに多くなっている。『参加してみたい』はほかの年代と比べて30代が40.4%と最も多く、70代以上において18.6%と少なくなっている。

4 生物多様性ふじサポーター登録制度

(生物多様性保全に取り組んでいる人などが「生物多様性ふじサポーター」として登録し、市が実施する生物多様性保全活動に参加・協力する制度)



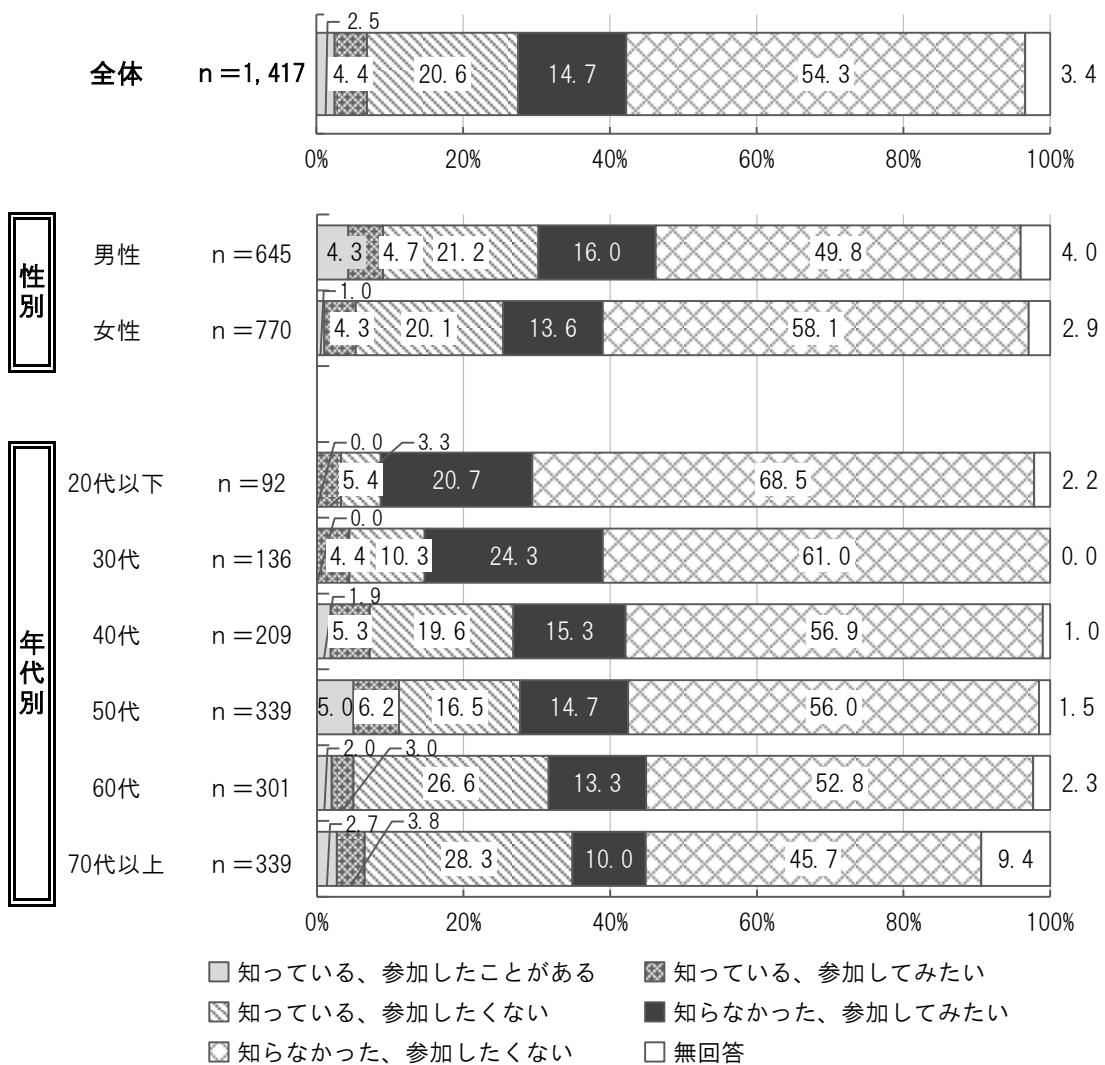
生物多様性ふじサポーター登録制度の認知度については、『知っている』が 15.5%、『知らなかつた』が 80.8% となっている。また、参加意向については、『参加してみたい』が 17.8%、『参加したくない』が 78.2% となっている。

性別で見ると、女性において「知らなかつた、参加したくない」が 69.7% と男性より多くなっている。また、『参加してみたい』は男性において 21.1% と女性の 15.1% と比べて多くなっている。

年代別では、20 代以下において「知らなかつた、参加したくない」が 76.1% とほかの年代と比べて多くなっている。30 代においては「知らなかつた、参加してみたい」が 24.3% とほかの年代と比べて多くなっている。70 代以上においては「知っている、参加したくない」が 18.6% とほかの年代と比べて多くなっている。また、『知っている』は 20 代以下において 3.3% と少なく、年代が上がるごとに多くなっている。『参加してみたい』は 30 代において 27.2% とほかの年代と比べて多くなっている。

5 富士山麓ブナ林創造事業

(富士山麓でのブナなどの広葉樹の植栽)



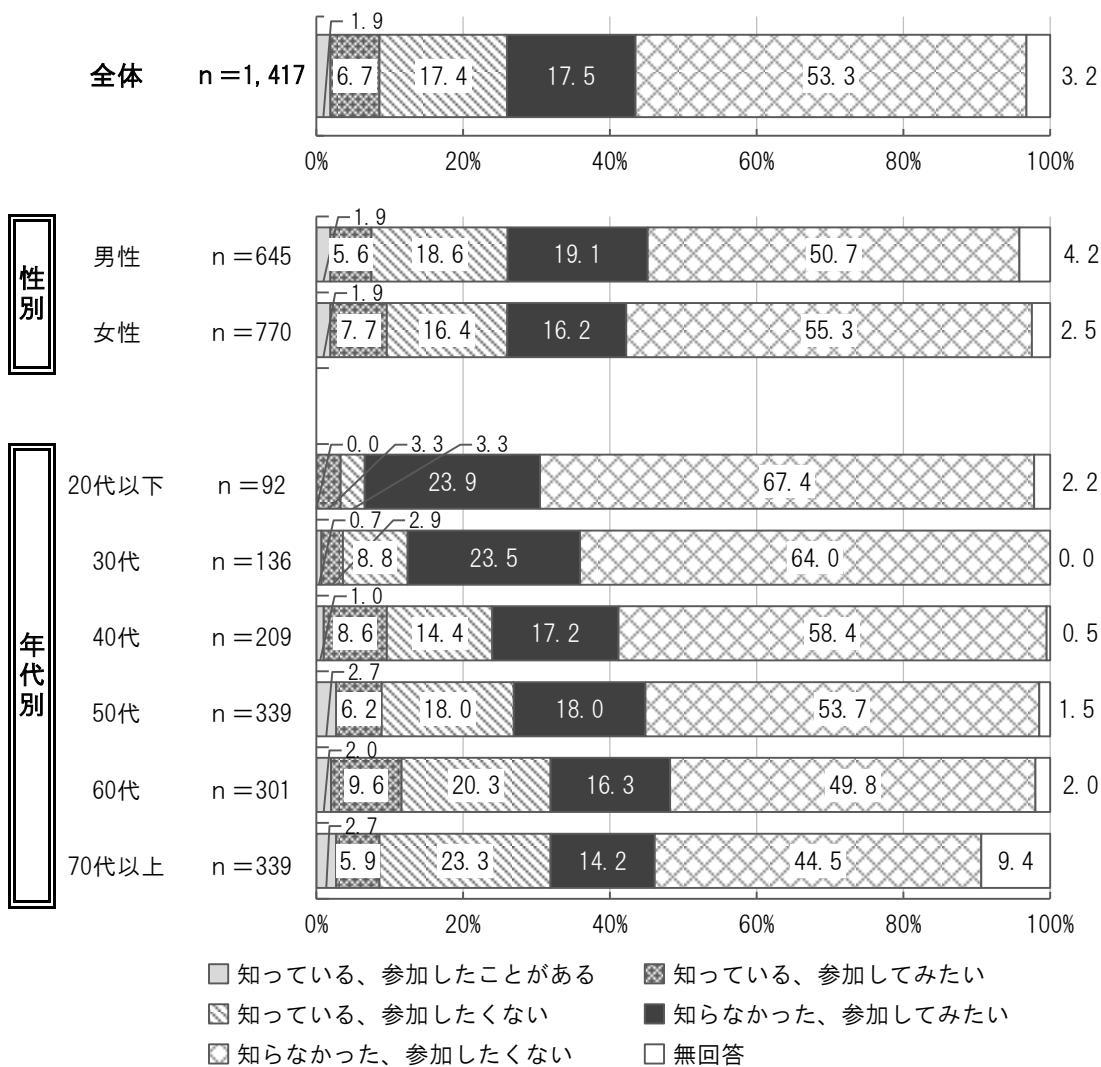
富士山麓ブナ林創造事業の認知度については、『知っている』が 27.6%、『知らなかつた』が 69.0% となっている。また、参加意向については、『参加してみたい』が 19.1%、『参加したくない』が 74.9% となっている。

性別で見ると、女性において「知らなかつた、参加したくない」が 58.1% と男性より多くなっている。また、『知らなかつた』『参加したくない』は女性において男性より多くなっている。

年代別では、20 代以下において「知らなかつた、参加したくない」が 68.5% とほかの年代と比べて多くなっている。70 代以上においては「知らなかつた、参加したくない」が 45.7% とほかの年代と比べて少なくなっている。また、『知っている』は 20 代以下において 8.7% とほかの年代と比べて少なく、年代が上がるごとに多くなっている。

6 自然観察会

(浮島ヶ原自然公園と富士山こどもの国内のブナ林植栽地を会場とした自然観察会)



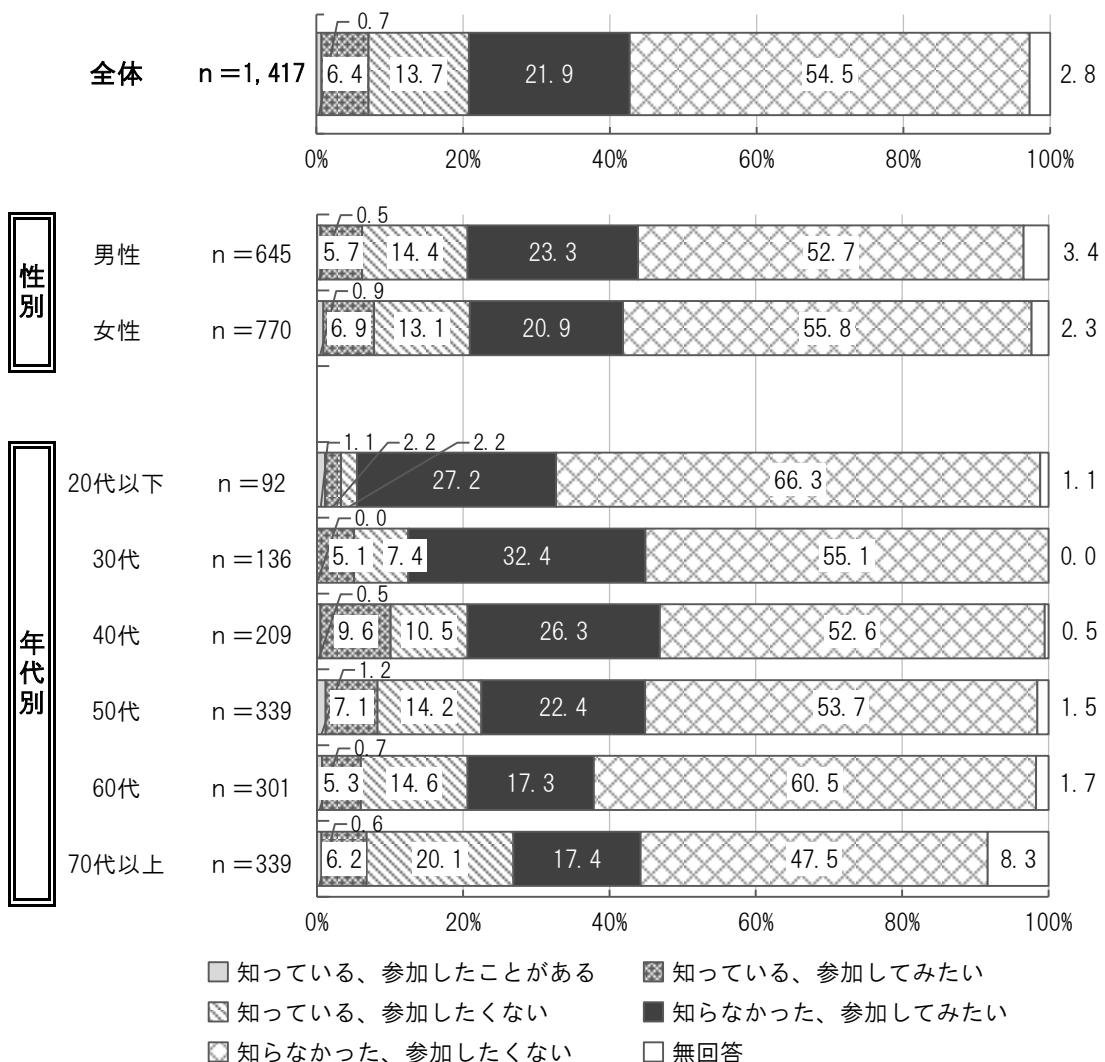
自然観察会の認知度については、『知っている』が 26.0%、『知らなかつた』が 70.8%となっている。また、参加意向については、『参加してみたい』が 24.2%、『参加したくない』が 70.6%となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、20代以下において「知っている、参加したくない」が 3.3%とほかの年代と比べて少なくなっている。70代以上においては「知らなかつた、参加したくない」が 44.5%とほかの年代と比べて少なくなっている。また、『知っている』は 20代以下において 6.5%と少なく、年代が上がるごとにおおむね多くなっている。

7 里山体験講座

(里山の雑木林や川などでの自然体験)



里山体験講座の認知度については、『知っている』が 20.7%、『知らなかつた』が 76.4%となつてゐる。また、参加意向については、『参加してみたい』が 28.3%、『参加したくない』が 68.2%となつてゐる。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、20 代以下において「知らなかつた、参加したくない」が 66.3%とほかの年代と比べて多くなつてゐる。30 代においては「知らなかつた、参加してみたい」が 32.4%とほかの年代と比べて多くなつてゐる。70 代以上においては「知っている、参加したくない」が 20.1%とほかの年代と比べて多くなつてゐる。また、『知っている』は 20 代以下において 5.4%と少なく、年代が上がるごとにおおむね多くなつてゐる。『参加したくない』は 60 代において 75.1%と最も多くなつてゐる。

(21) 生物多様性の保全に貢献する行動として、日頃から心がけていたり既に取り組んでいたりすること

問21 あなたは、生物多様性の保全に貢献する行動として、日頃から心がけていたり既に取り組んでいたりすることはありませんか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。

n=1,417

マイバッグやマイボトルの利用を心がけている

0 20 40 60 80 100 (%)

75.6

野外で出たごみは持ち帰っている

70.3

ごみの減量やリサイクルに努めている

58.8

食品ロスを減らすことを心がけている

57.5

余った薬品や油はきちんと処理し、排水として流さないようにしている

54.7

庭やベランダに樹木や草花を植えたり、緑のカーテンや家庭菜園づくりをしたりしている

44.6

洗剤などは適量を使用している

40.4

旬の食材や地元産の農畜水産物などの食べ物を選んで購入するようにしている

33.9

公園や社寺林などを訪れ、自然や生きものを観察したり、ふれ合ったりしている^{※1}

23.9

エコラベルなどがついた、環境に優しい商品を選んで購入するようにしている

13.7

自然や生きものについて家族や友人と話し合うようにしている

12.0

自然や生きものに興味を持ち、生物多様性について知り、学ぶ機会を持っている^{※2}

5.9

自然環境の保全活動や環境美化活動に参加している

5.1

いきもの調査や自然観察会、植栽イベントなどに参加している

1.1

その他

0.5

心がけていたり既に取り組んでいたりすることは特にない

4.9

無回答

1.2

※1 「公園や社寺林、動物園、植物園、水族館などを訪れ、自然や生きものを観察したり、ふれ合ったりしている」を省略して表記している。

※2 「自然や生きものに興味を持ち、家庭や事業所、学校、地域などで生物多様性について知り、学ぶ機会を持っている」を省略して表記している。

生物多様性の保全に貢献する行動として、日頃から心がけていたり既に取り組んでいたりすることは、「マイバッグやマイボトルの利用を心がけている」が 75.6%と最も多く、次いで「野外で出たごみは持ち帰っている」が 70.3%、「ごみの減量やリサイクルに努めている」が 58.8%となっている。

<性別>

n=1,417

マイバッグやマイボトルの利用を心がけている

0 20 40 60 80 100 (%)

84.7

野外で出たごみは持ち帰っている

76.0

ごみの減量やリサイクルに努めている

62.3

食品ロスを減らすことを心がけている

54.6

余った薬品や油はきちんと処理し、排水として流さないようにしている

63.6

庭やベランダに樹木や草花を植えたり、緑のカーテンや家庭菜園づくりをしたりしている

42.9

洗剤などは適量を使用している

64.5

旬の食材や地元産の農畜水産物などの食べ物を選んで購入するようにしている

42.2

公園や社寺林などを訪れ、自然や生きものを観察したり、ふれ合ったりしている^{※1}

46.8

エコラベルなどがついた、環境に優しい商品を選んで購入するようにしている

32.2

自然や生きものについて家族や友人と話し合うようにしている

47.1

自然や生きものに興味を持ち、生物多様性について知り、学ぶ機会を持っている^{※2}

24.2

自然環境の保全活動や環境美化活動に参加している

42.1

いきもの調査や自然観察会、植栽イベントなどに参加している

21.4

その他

26.0

心がけていたり既に取り組んでいたりすることは特にない

10.5

無回答

16.4

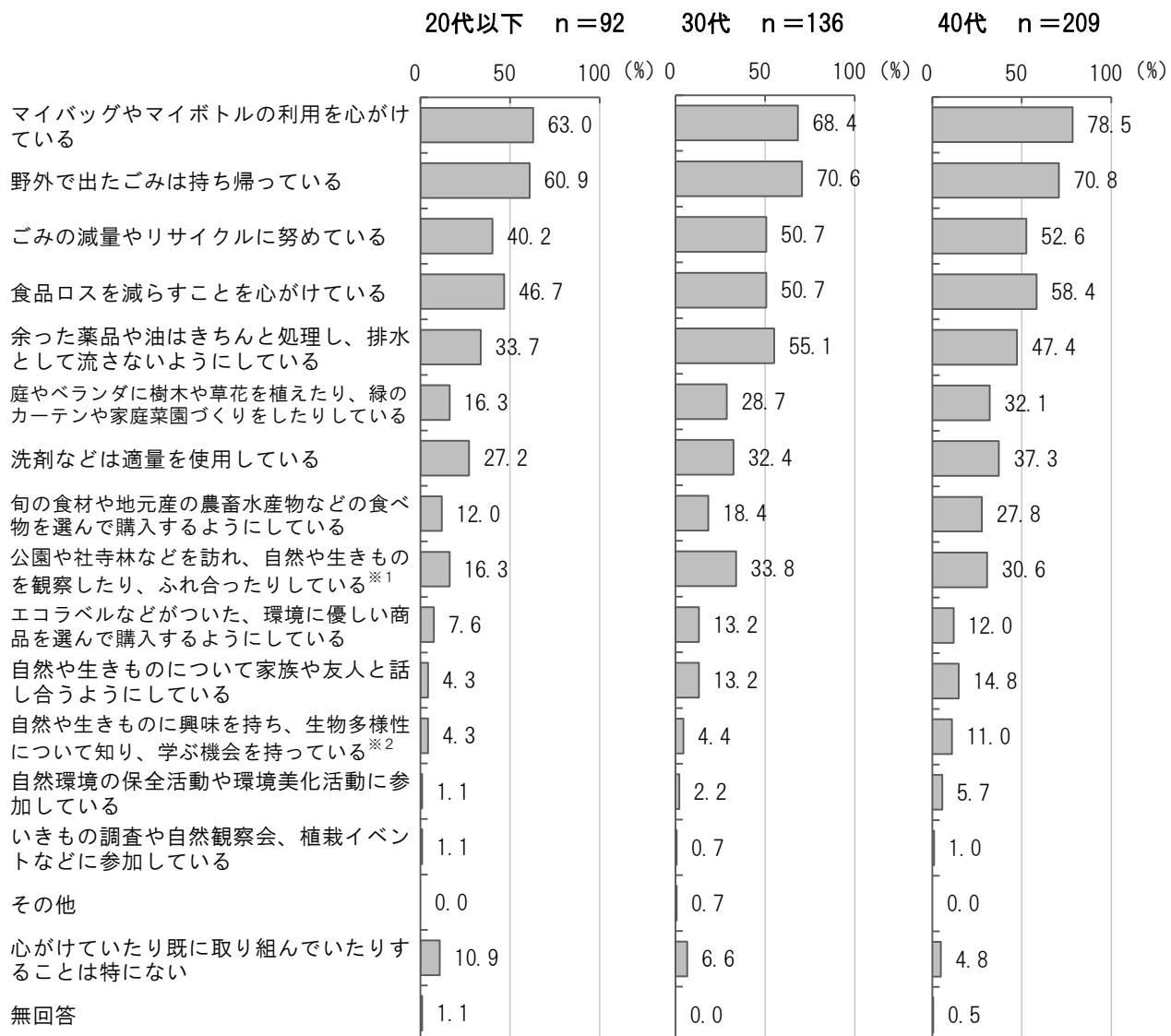
※1 「公園や社寺林、動物園、植物園、水族館などを訪れ、自然や生きものを観察したり、ふれ合ったりしている」を省略して表記している。

※2 「自然や生きものに興味を持ち、家庭や事業所、学校、地域などで生物多様性について知り、学ぶ機会を持っている」を省略して表記している。

■男性 n=645
□女性 n=770

性別で見ると、女性において「マイバッグやマイボトルの利用を心がけている」「野外で出たごみは持ち帰っている」「ごみの減量やリサイクルに努めている」など、16 項目のうち、4 つを除き男性より多くなっている。

<年代別①>

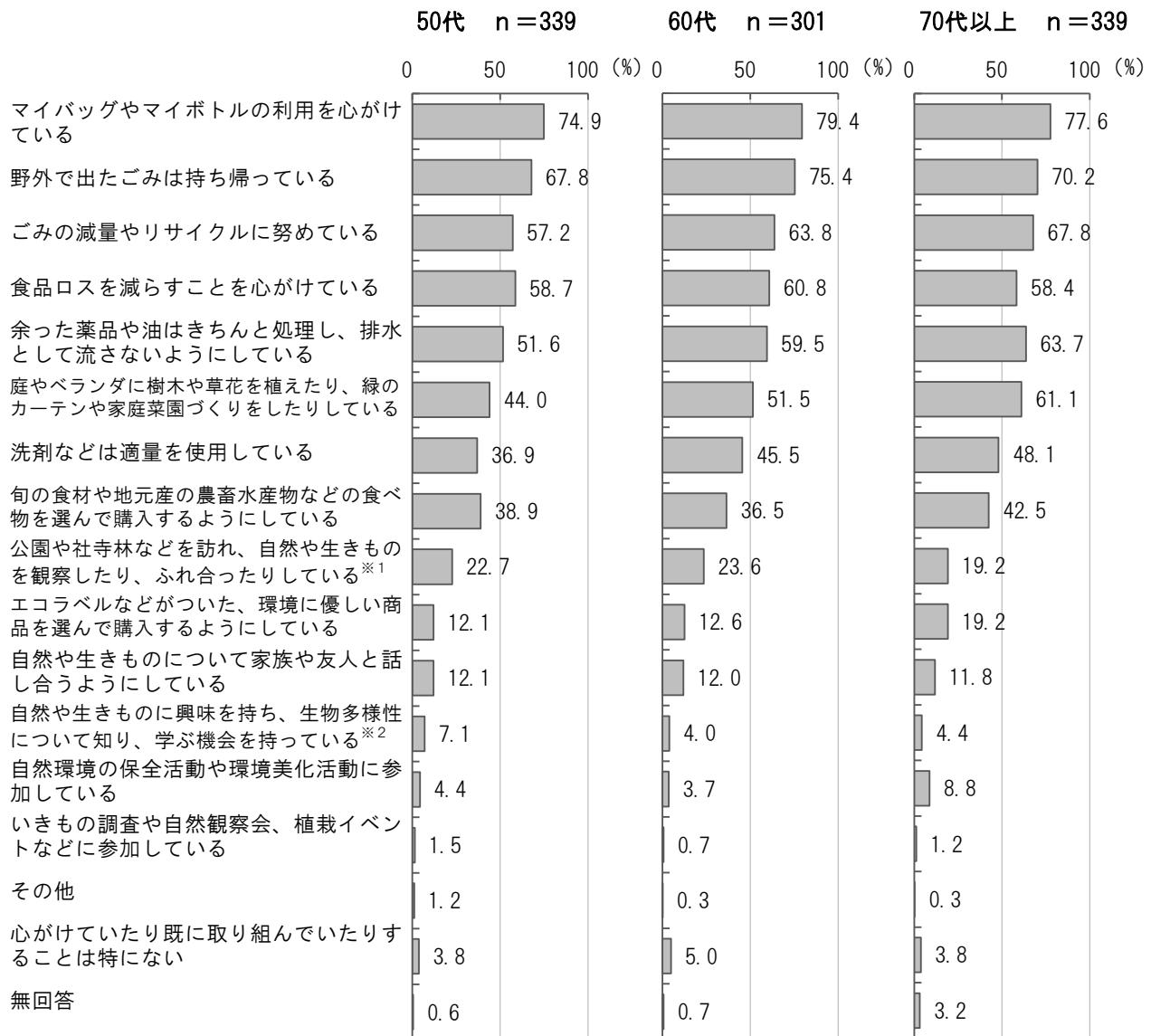


※1 「公園や社寺林、動物園、植物園、水族館などを訪れ、自然や生きものを観察したり、ふれ合ったりしている」を省略して表記している。

※2 「自然や生きものに興味を持ち、家庭や事業所、学校、地域などで生物多様性について知り、学ぶ機会を持っている」を省略して表記している。

年代別では、20代において「マイバッグやマイボトルの利用を心がけている」「野外で出たごみは持ち帰っている」「ごみの減量やリサイクルに努めている」など、半数以上の項目がほかの年代と比べて少なくなっている。70代以上においては「庭やベランダに樹木や草花を植えたり、緑のカーテンや家庭菜園づくりをしたりしている」「エコラベルなどがついた、環境に優しい商品を選んで購入するようにしている」がほかの年代と比べて多くなっている。

<年代別②>



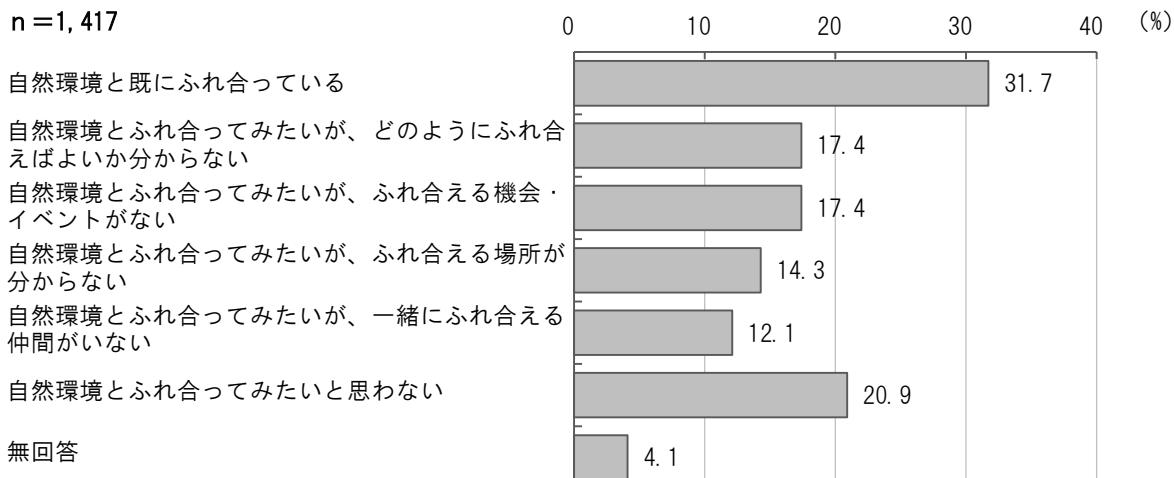
※1 「公園や社寺林、動物園、植物園、水族館などを訪れ、自然や生きものを観察したり、ふれ合ったりしている」を省略して表記している。

※2 「自然や生きものに興味を持ち、家庭や事業所、学校、地域などで生物多様性について知り、学ぶ機会を持っている」を省略して表記している。

自然環境とのふれ合いについて

(22) 自然環境とのふれ合いの意向

問22 あなたは、自然環境（自然環境に生息生育する生きもの、森、川など）と、ふれ合ってみたいですか。次のなかで当てはまるものを全て選んでください。

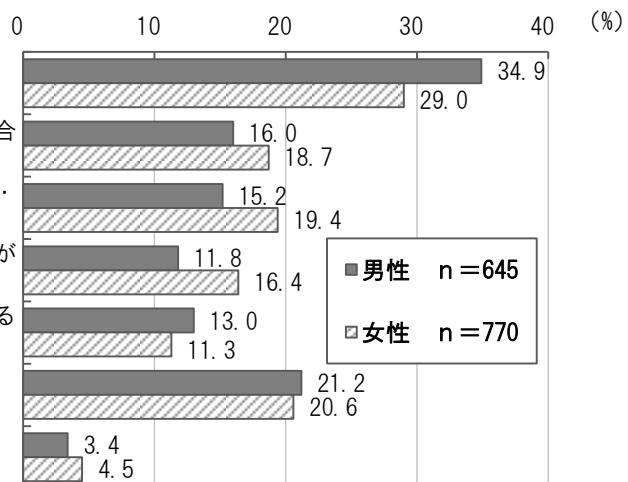


自然環境とのふれ合いの意向は、「自然環境と既にふれ合っている」が 31.7% と最も多く、次いで「自然環境とふれ合ってみたいが、どのようにふれ合えばよいか分からない」「自然環境とふれ合ってみたいが、ふれ合える機会・イベントがない」がともに 17.4% となっている。一方、「自然環境とふれ合ってみたいと思わない」は 20.9% となっている。

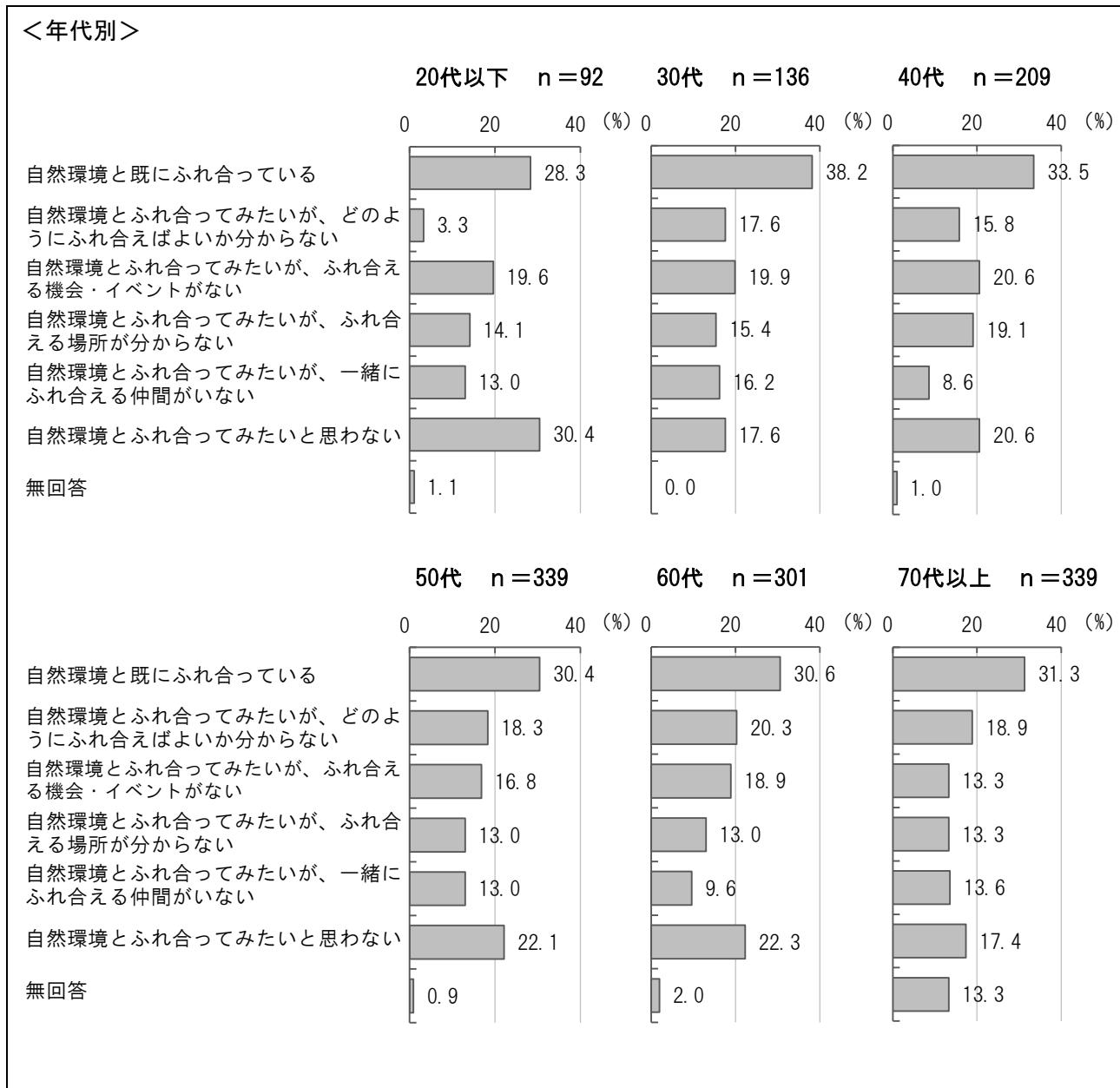
<性別>

n = 1,417

自然環境と既にふれ合っている



性別で見ると、男性において「自然環境と既にふれ合っている」が 34.9% と女性より多くなっている。



年代別では、20代以下において「自然環境とふれ合ってみたいと思わない」が30.4%とほかの年代と比べて多く、「自然環境とふれ合ってみたいが、どのようにふれ合えばよいか分からない」が3.3%とほかの年代と比べて少なくなっている。